

資料B-1 プロジェクトの活動実績及び達成状況

POIによる活動計画(項目毎)			プロジェクトの活動状況					今後の計画	達成度 (5段階)			
大項目	中項目	小項目	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度					
1-1: 自然資源調査、社会経済調査等、現状と課題の把握および一部課題を改善するための活動	1-1a: モデル地域の現状調査	1-1a-1: モデル地域の現状調査	◎	○	-	-	-	郷村関係者及び農家からの直接聞き取りや、モデル地区及びモデル農家の自然資源、社会経済把握のために現地再調査を実施した。	モデル地区の現状が報告書、専門家活動記録及び委託調査報告書として取りまとめられた。	プロジェクトの実施過程において定期的にモデル地区の変化をモニタリングしていく。	5	
		1-1a-2: 現地の課題分析	◎	-	-	-	-	C/P、郷村関係者とともに、モデル地区発展の課題と阻害要因を共有するための会議・打合せを開催した。	モデル地区の天然草地、飼料栽培、家畜飼養、水利用に係る発展戦略を報告書にとりまとめた。	同上	5	
	1-2: 天然草地の保護利用計画、土地利用計画、営農計画、水利用計画を策定	1-2a: 計画作成チームの編成	1-2a-1: 計画作成チームの編成	◎	-	-	-	-	C/P機関が主体的に自治体レベルC/Pの計画作成チームを編成した。	計画作成チーム構成一覧表が作成された。	特になし	5
			1-2a-2: 計画作成方針と実施スケジュール検討	◎	-	-	-	-	C/Pと打合せの結果、計画作成のための現地調査を実施した後、9月以降に計画を順次作成することとした。	各種計画の骨子が作成された。	特になし	5
		1-2c: 既存計画のレビュー	1-2c-1: 既存計画のレビュー	◎	-	-	-	-	計画作業現場毎に情報を収集し、2001年度以降のモデル地区を対象とした既存計画のレビューを実施。	種々のプロジェクトに対する評価が十分行われておらず、情報が整理されていないことを確認。	本プロジェクトの活動を通じて確立した評価手法を既存プロジェクトへ反映させる。	5
			1-2c-2: 既存計画の課題分析	◎	-	-	-	-	同上	同上	同上	5
		1-2e: モデル農家の選定	◎	○	-	-	-	-	選定基準を定め、各村20戸を選定。さらに、より効率よく技術移転を行う観点から、20戸の中から重点農家5戸を選び、投入・技術研修を強化することとした。	モデル農家20戸の現状(土地利用、経営状況等)と5戸の特徴を記載。	重点農家5戸を核とした周囲への波及を図る。	5
		1-2f: 各種計画の作成	◎	○	-	-	-	-	C/Pと協働で各種計画の作成を完成させた。	天然草地保護利用計画、土地利用計画、水利用計画、営農計画(飼料栽培、牧畜養殖生産、畜産品流通)計画をとりまとめた。	計画作成の手法をマニュアルとして反映、パイロットプロジェクトを通じて各種計画へフィードバックさせる。	5
		1-2g: 各種計画の説明	◎	-	-	-	○	○	2008年2月に開催したセミナーにおいて各種計画の概要を参加者に説明した。	計画の内容と今後のプロジェクト活動が参加者に理解された。	第1年次は一部関係者がプロジェクトの趣旨を正確に理解していないこともあり、必要がある場合はフォローが必要。	4
		1-3: パイロットプロジェクトの内容を決定し、活動計画を策定	1-3a: パイロットプロジェクト実施計画の作成	1-3a-1: パイロットプロジェクト実施計画の作成	◎	◎	-	○	○	計画の一部をパイロットプロジェクトに検証するため、実施内容の絞り込みを行った。	パイロットプロジェクト実施計画書を報告書としてとりまとめた。	計画を実施していく段階で現地や周辺地域の方向性や実情に沿ったフィードバックの必要性がある。
1-4: 活動計画に基づきパイロットプロジェクトを実施(ここで言う「実施」の定義は①資機材、②OJT、③体制整備を示す。モニタリングは1-5、研修は2-2~2-4で明記)	1-4-1: 牧草、飼料作物、自給・換金作物等の栽培技術および水管理技術を改善			◎	◎	-	○	○	2007年度に13回、2008年度に10回実施。詳細は別添OJT記録一覧表参照	活動計画が作成され、それに基づいて業務が実施された。	計画を実施していく段階で現地や周辺地域の方向性や実情に沿ったフィードバックの必要性がある。	4
1-4-2: 飼料調製技術および家畜の飼養生産技術を改善	1-4-1b: 土壌肥沃のための堆肥生産	1-4-1b-1: 土壌肥沃のための堆肥生産	-	◎	-	-	-	○	完全堆肥生産研修を2008年9月にアチ村で、11月にチャラ村で実施した。	完全堆肥生産を始めた農家もあるが、まだ少ない	完全堆肥生産意識を高め生産拡大をフォローする。	3
		1-4-1c: 農作業機械の導入	◎	◎	-	-	-	-	アチ村へは刈りモロシの収穫・飼料調製前進のために、チャラ村へはフルワル7主体の生産力増大のために各種農機具を導入した。また、維持管理のための研修を実施した。	農機具導入により耕作地での作業の効率化が図られている。		5
	1-4-1d: 農作業機械管理組合の設立	-	-	○	○	○	○	○	両モデル村とも中国側が自主的に農作業機械の保管倉庫を作り、農作業機械の維持管理を実施した。	両村とも組合組織ではないが農作業機械の共同利用が行われるようになり、組織的な活動が開始された。	村内に農機具管理協会を設立する場合は、設立に向けた支援を行う予定。	4
	1-4-1e: 排水路整備による塩類集積低減	-	◎	-	◎	-	-	-	塩類集積が特に深刻なチャラ村住居周辺に排水路(明渠)を4km整備した。	排水路整備により、定住地周辺の塩類集積はほぼ解決した。	2009年度に実施を予定していた耕作地の末端排水路を2010年度に整備予定。並行的に再発防止に向けた研修を実施予定。	3
	1-4-1f: 井戸ポンプの更新による揚水量向上	-	◎	○	○	○	○	○	2008年の干ばつ状況を受けて、アチ村において地下水汲み上げポンプを2基更新し、揚水能力の向上を図った。	ポンプの更新により干ばつ期においても灌漑用水及び生活用水を確保することが可能となった。	井戸ポンプの維持管理状況確認	4
	1-4-1g: 農民用水戸協会の設立・運営	◎	○	-	◎	-	-	-	市県・郷村若者員に対して農民用水戸協会に関する研修を実施した。	自治体レベルとしても農民用水戸協会の必要性が認識されており、研修実施と今後のフォロー等積極的に取り組んでもらえることとなった。	農民用水戸協会の設立に向けて後方支援を引き続き行う。	3
	1-4-2a: 営農計画作成支援	◎	○	○	○	○	○	○	モデル農家の営農計画を設定し、経営収支計算プログラムをEXCELで作成した。また同プログラムの操作説明会をC/Pに対して行った。	自治体レベルC/Pが操作方法を理解し、市県・郷村レベルC/Pに対して指導することが出来るようになった。	経営実態調査を行いながら、経営収支計算を行い、経営上の改善策の検討を普及員と行い、同プログラムの定着拡大を図る。	2
	1-4-2b: 優良家畜の導入と飼育	-	◎	-	◎	-	-	-	チャラ村において乳肉兼用種として新疆褐牛の種畜(種牡牛2頭及び種牝牛5頭)を導入した。また、新疆褐牛の飼育方法について牧畜員に研修を行った。	導入した牝牛が2頭仔牛を出産したが、親牛1頭が死亡した。	2010年度に生産拡大のため新たに15頭導入予定であるが、死亡した事例を今後の家畜導入にフィードバックすべき点がないかどうかC/Pに確認する	3
	1-4-2c: 人工授精のための器具導入と体制整備	-	◎	-	○	○	-	-	アチ村においてホルスタインの冷凍精液(240本)及び精液保存缶(30L2缶)を、チャラ村においてアラウシ種の冷凍精液(200本)及び精液保存缶(30L2缶、10L1缶)を導入した。あわせて村における人工授精担当者を決め、授精体制を確立した。	人工授精器具についてC/Pと協議を重ねた上で決定することが出来た。	人工授精の拡大を図り、村における家畜改良を促進させる。	2
	1-4-2d: 農家経営収支記載	-	○	○	◎	-	-	-	家畜飼養、農家経営の動態を把握するとともに、問題点の抽出・改善の資料とするため、個別農家を対象とした記載簿を作成し、モデル農家へ記載を促した。農家への研修にて、記載の必要性の認識拡大を図った。	記載による個別農家の家畜飼養状況や経営状況の把握・改善点抽出体制が整った。また、記載することが自己の経営状況の把握と改善策の検討に有効であることが、各農家において認識された。	記載結果を集約し、家畜飼養や農家経営の改善点を抽出する。これを普及員と職員が巡回指導等に生かすとともに、農家にフィードバックすることで、牧畜経営能力の向上を図る。	2
1-4-2e: 畜産品流通計画の作成	○	○	-	◎	-	-	-	一般的な羊肉流通経路及び牧畜員の畜産経営形態の実情を調査把握した。また、畜産品流通計画を作成するために必要な研修を自治体及び市・市のC/Pに実施した。	流通経路の調査と畜産品流通計画を作成の計画、また、それらの牧民への研修の計画が作成された。		2	
1-4-2f: 牧畜民経済協力組合の設立	-	-	○	◎	-	-	-	アチ村については、合作社を設立するための調査を実施し、C/Pと牧民が共同しながら、設立に向けての準備を始めた。チャラ村については、カゼインを加工し共同販売する計画が策定され始めた。	合作社設立の条件が確認された。また、合作社で共同販売を計画している牛乳について、牧民が乳加工会社との具体的な話し合いを持った。	2010年までに日本の農業組合、中国の農民專業合作社についてC/Pに研修を実施。また、プロジェクトサイト近隣の先進農民專業合作社を牧民と視察。2011年度の初めには、プロジェクトサイトに牧民專業合作社(あるいは農牧民組合)を立ち上げる。	2	
1-4-2g: 共同販売の実施	-	-	-	◎	-	-	-	アチ村では、共同販売に向けての話し合いが、市C/Pと牧民の間で話し合いがもたれた。	成果は得られていない	2010年までに畜産販売計画作成の研修、及び、共同販売の研修を実施。また、2011年に牧民專業合作社(あるいは農牧民組合)を通じた共同販売を実施。	2	
1-4-2h: 家畜飼養技術に関するOJTの実施	○	○	-	◎	-	-	-	家畜の人工授精、導入家畜の飼養と有効活用、家畜飼養・農家経営状況の記載促進、経営計画収支計算の実践を通じ、家畜飼養に関する行政職員や農家の技術的向上を図った。	プロジェクトに係る人工授精、導入家畜の飼養と生産拡大、経営計画改善等、家畜飼養技術に関する行政職員や農家の参加が増えた。	牧畜生産性拡大のための具体的な技術の改善・普及に取り組みることにより、行政職員や農家の家畜飼養技術の能力向上を継続する。	2	
1-4-3: 天然草地保護回復のための対策を実施	1-4-3a: 追播による植生回復	-	◎	-	-	-	-	-	ミヤルゴウ郷3工兼草場及びドゥルン郷コ布拉克に各33.3ha(500ム)の追播を実施。(ミヤルゴウ郷フェンス内20ha、フェンス外13.3ha、ドゥルン郷全面フェンス内)	追播用の牧草品種、播種時期についてC/Pと協議を重ねた上で決定することが出来た。		5
	1-4-3b: 有種との相互競争原理を利用した有害草防除	-	◎	-	◎	-	-	-	ミヤルゴウ郷南黒溝草場に延長3000mのフェンスを設置した。	フェンスの設置場所や規模についてC/Pと協議を重ねた上で決定することが出来た。	2010年度にミヤルゴウ郷で有害草防除のための追加対策を実施する。	4
	1-4-3c: 輪放牧による放牧管理	-	◎	-	-	-	-	-	ミヤルゴウ郷の天然草地(草場)に金網型フェンスを8000m、ドゥルン郷の天然草地に有刺鉄線型フェンスを7800m設置した。	フェンスの設置場所や規模についてC/Pと協議を重ねた上で決定することが出来た。		5
	1-4-3d: 天然草地保護利用に関するOJTの実施	-	○	○	○	○	○	○	2007年度に19回、2008年度に12回実施。詳細は別添OJT記録一覧表参照	自治体、市・県・郷の関係者の役割が明確になり、それぞれが自覚を持って天然草地保護回復に取り組む下地ができた。	実施の上での技術的問題が発生の節度、関係者が知恵を出し合って解決に努力を行う。	3



POIによる活動計画(項目毎)			実施時期					プロジェクトの活動状況		今後の計画	達成度 (5段階)			
大項目	中項目	小項目	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度	活動実績	活動成果					
		1-6-2d: 教材の見直し、更新	-	-	○	◎	○	○	科技幹部研修センターと連携し、教材の見直し、作成を行うこととなった。	成果は得られていない	市・県の研修担当者の意見を反映させ、科技幹部研修センターと共に作成・更新して行く。	1		
2-1: 技術普及体制に係る現状および課題を把握し、研修計画を策定		2-1a: 現状及び課題の把握	◎	◎					C/P及び郷村関係者から直接聞き取りを行い、現状・課題を把握した。またモデル農家から研修のニーズをアンケートで把握した。	技術普及体制とその現状を報告書としてとりまとめ、計画策定上の課題を整理した。		5		
		2-1b: 研修計画の作成	-	○	-	◎	○		2007,2008年度で実施した研修の課題を踏まえた研修プログラムを作成し、2009年度の研修プログラムを作成したが、予定していた研修の内、一部の研修(科技の冬)しか実施出来なかった。	これまでの研修を通じて、市県科技局が研修の企画・立案が出来ようになったとともに、研修期間中の運営まで出来るようになった。	科技幹部研修センターと市県科技局が連携し、研修時期、講義方法等を吟味した研修プログラムを作成し、実施する。	2		
		2-1c: 研修計画の見直し	-	-	-	○	◎			実績なし	成果は得られていない	2010年度に作成する研修プログラムの実施状況をモニタリングし、実績に合わせて適宜見直す予定。	1	
		2-2: 研修計画に基づき市・県、郷レベル行政管理者の研修を実施	2-2a: 市県レベルの行政担当者への研修	◎	◎	○	○	○		2007年度に5回、2008年度に5回、2009年度に1回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照	科技幹部研修センター主催による市県郷レベル(幹部を対象)の研修は、これまで実施されたことが極めて少なかったものの、プロジェクトによりこれまで2回実施したことにより、彼らを対象にした研修の重要性が認識され始めている。	今後講義内容を受講者に応じて随時見直ししていく予定。	3	
		2-2b: 郷レベル行政担当者への研修	◎	◎	○	○	○		同上			3		
		2-2c: 研修結果の評価	○	○	-	○	○		研修後のアンケート調査を実施			2		
2-3: 研修計画に基づき市・県、郷レベル技術普及担当者の研修を実施		2-3a: 市県レベル技術普及員への研修	-	○	○	○	○		2008年度に1回、2009年度に1回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照	農民生産者協会の設立に関して、研修生が基礎知識の習得と先進地の事例を視察したことにより、協会設立の機運が高まった(2008年)。輪換放牧のモニタリング方策についてモニタリング者に研修を実施したことにより、管理側と実施側との共通認識の元でモニタリングが開始された(2009年)。	牧畜民から市県郷普及員による実践的な指導が少ないことが明らかになっており、彼らに対する指導能力を強化していく予定。また、研修から技術を習得するだけでなく、パイロットプロジェクトのモニタリング活動や自治体レベル専門家との交流等、OJTを通じて技術の習得を図ることとする。		2	
		2-3b: 郷レベル技術普及員への研修	-	○	○	○	○		同上				2	
		2-3c: 研修結果の評価	-	○	-	○	○			研修後のアンケート調査を実施			2	
2-4: 研修計画に基づき市・県、郷レベルの技術普及担当者による牧畜民への研修を実施		2-4a: 天然草地に関する研修の実施	-	○	○	○	○		2008年度に2回、2009年度に1回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照	市県郷レベルの普及員だけでは牧畜民に対する研修指導能力が不足しているため、専門家及び自治体C/Pが中心となって直接牧畜民に指導している段階である。	個別化されている「科技の冬」研修は、依然として牧畜民のレベルに合っていないと判断され、必要に応じて内容を理解できても必要に応じて学んだことを実践出来ないことが課題として残っているため、牧畜民のニーズに沿った研修内容にしていく予定。		2	
		2-4b: 飼料栽培管理に関する研修の実施	○	◎	-	◎			2007年度に1回、2008年度に8回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照	プロジェクトで実施する研修は「簡易テキストによる講義+実施指導」が中心である一方、中国側が主体となった実施する「科技の冬」研修は、講義中心であるものの、その年にプロジェクトで取り組んだ活動に沿ったテーマで実施されており、牧畜民に対して内容が補完されるようなやり方になった。	また、市県科技局主催による牧畜民への研修は、下からはニーズを汲み上げる体制、上からは牧畜民のニーズを把握し、ニーズに対する技術を提供する能力、牧畜民に対する技術指導能力の向上が図れるような体制により実施する予定。		2	
		2-4c: 家畜飼養に関する研修の実施	○	◎	○	◎			2007年度に1回、2008年度に4回、2009年度に1回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照				2	
		2-4d: 水利に関する研修の実施	○	○	-	◎			2007年度に1回、2008年度に1回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照				2	
		2-4e: 家計簿記帳、共同販売、組織化に関する研修の実施	-	-	○	○			2009年度に1回実施。詳細は別添研修実績一覧表参照				2	
		2-4f: 研修結果の評価	○	○	-	○	○			研修後のアンケート調査を実施				2
		2-5: モデル普及計画を策定	2-5a: 技術普及体制整備計画の作成	◎	-	-	○	○		技術普及に関する現状課題をC/P及び郷村関係者から直接聞き取り把握した。	モデル地区での技術普及体制整備計画をとりまとめた。	計画を実施していく段階で実績に沿ったフィードバックの必要性がある。		3
	2-5b: 技術支援体制の構築	-	○	-	◎	◎		パイロットプロジェクトの実施に関し、市県科技局が管理・監督の責任を持ち、市県・郷の関係機関が分担して専門分野の支援を行うよう取り決めた。	パイロットプロジェクトの過程においてOJTを通じて各担当者の役割・責任が自覚されるようになってきた。	牧畜民への研修結果を分析評価するとともに、科技幹部研修センターと連携し市県科技局への能力向上を図る。		2		
	2-5c: 計画の検証・補足・見直し	-	-	-	◎	○		実績なし	成果は得られていない	科技幹部研修センターが作成した研修プログラムを毎年分析評価し、適宜見直しを行う。		1		
	2-5d: 持続性・波及性の検討	-	-	-	-	◎		実績なし	成果は得られていない	プロジェクト終了後、技術移転により育成された行政関係者及び技術普及担当者が定住事業や村内での活動に積極的に携われる仕組みをつくる予定。		1		
	2-5e: モデル普及計画の策定	-	-	-	○	◎		実績なし	成果は得られていない	科技幹部研修センターと連携し、プロジェクト成果をとりまとめたマニュアルが、モデル地区周辺の既存あるいは新規定住村の活動に活用されるような計画を策定する。		1		

注1) ◎: 重点的に実施または完了、○: 補足的に実施または今後フォローが必要、-: 実績なし

注2) 達成度の5段階評価については、3を基準にして残作業が多い場合2、少ない場合4、未着手1、完了5としている。

## 資料 B-2 研修実績 (2007 年度～2009 年度)

## 【第 1 年次 (2007 年度)】

区分及び研修名称	研修内容	研修開催日	研修場所	研修講師 所属氏名	研修方法 (使用教材等)	研修対象	参加人数
【行政関係者研修】							
PCM ワークショップ (自治区レベル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 手法の概要・理論説明</li> <li>演習 (関係者分析から目的分析)</li> </ul>	07 年 8 月 10 日	畜牧科学院 6 階 会議室	自治区プロジェクト事 務所 小林勤	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 研修用 ppt</li> <li>貼紙による演習</li> </ul>	自治区 C/P	21 名
PCM ワークショップ (市県レベル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 手法の概要・理論説明</li> <li>演習 (関係者分析から PDM 作成)</li> </ul>	07 年 9 月 11 日 ～12 日	富蘊県職業訓練学 校	自治区プロジェクト事 務所 小林勤、史明	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 研修用 ppt</li> <li>貼紙による演習</li> </ul>	富蘊県 C/P (郷幹部)	17 名
PCM ワークショップ (市県レベル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 手法の概要・理論説明</li> <li>演習 (関係者分析から PDM 作成)</li> </ul>	07 年 9 月 24 日 ～25 日	昌吉市科技局 会議室	自治区プロジェクト事 務所 小林勤、史明	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 研修用 ppt</li> <li>貼紙による演習</li> </ul>	昌吉市 C/P (郷、村幹部)	14 名
プレゼンテーション研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン理論</li> <li>パワーポイント作成技術</li> <li>プレゼン発表技術</li> </ul>	07 年 10 月 30 日 ～31 日	富蘊県職業訓練学 校	自治区プロジェクト事 務所 大森圭祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン研修用 ppt</li> <li>グループ発表会</li> <li>質疑応答演習</li> </ul>	富蘊県 C/P (郷幹部)	12 名
プレゼンテーション研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン理論</li> <li>パワーポイント作成技術</li> <li>プレゼン発表技術</li> </ul>	07 年 11 月 6 日 ～7 日	昌吉市科技局 会議室	自治区プロジェクト事 務所 大森圭祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン研修用 ppt</li> <li>グループ発表会</li> <li>質疑応答演習</li> </ul>	昌吉市 C/P (郷、村幹部)	15 名
「定住農家経営収支試算」 プログラム操作研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム構造・原理説明</li> <li>操作方法及び編集方法</li> </ul>	07 年 12 月 14 日	畜牧科学院 5 階 会議室	自治区プロジェクト事 務所 清水直也	<ul style="list-style-type: none"> <li>EXCEL による演習</li> </ul>	自治区 C/P(家畜 飼養担当)	7 名
計							86 名
【牧畜民技術研修】							
PCM ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 手法の概要・理論説明</li> <li>演習 (関係者分析から問題分析)</li> </ul>	08 年 1 月 11 日 ～12 日	アチチ村集会場	自治区プロジェクト事 務所 小林勤	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 研修用 ppt</li> <li>貼紙による演習</li> </ul>	牧民	60 名
富蘊県チャブラ村冬期牧民 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>トウモロコシ、アルファルファ栽培</li> <li>乳牛飼育、動物疾病対策</li> <li>水管理技術</li> </ul>	08 年 1 月 24 日 ～26 日	チャブラ村小学校	農業技術普及及 朱馬 泰、農業機械局 加爾 斯、水管站 霍森、草 原站 金額斯别克、牧 畜獸医站 于及爾	講義、簡易テキスト使用	牧民	98 名
計							158 名
2007 年度計							244 名

※斜文字は中国側の企画立案による研修を表す。

【第2年次(2008年度)】

区分及び研修名称	研修内容	研修開催日	研修場所	研修講師所属氏名	研修方法(使用教材等)	研修対象	参加人数
<b>【行政関係者研修】</b>							
昌吉市科技管理幹部研修	PCM 手法の概要説明と実践	08年8月6日	昌吉回族自治州党校	自治区プロジェクト事務所 大森圭祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 研修用 ppt</li> <li>貼紙による問題分析と発表</li> </ul>	科技副郷鎮長、副主任	26名(経費支出無し)
富蘊県チャブラ村営農計画作成研修	経営収支の計算のしかたの説明と実践	08年8月6日	畜牧科学院内	畜牧科学院 張金山 自治区プロジェクト事務所 松本武司	パソコンによる経営収支の算定の考え方、方法の実践	富蘊県科技局	2名
昌吉市アクチ村営農計画作成研修	経営収支の計算のしかたの説明と実践	08年8月15日	アクチ村村長室	畜牧科学院 張金山 自治区プロジェクト事務所 松本武司	パソコンによる経営収支の算定の考え方、方法の実践	昌吉市科技局 郷、村担当者	3名
天然草地モニタリング技術交流会	天然草地のモニタリング手法	08年12月19日	畜牧科学院内	畜牧科学院 趙徳云 自治区プロジェクト事務所 伊賀啓文	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング方法の説明</li> <li>天然草地に係る PDM の指標についての意見交換</li> </ul>	昌吉市草原站、富蘊県草原站者	3名
モデル地区郷幹部現代農業科技管理知識研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト計画と管理</li> <li>区域の経済発展</li> <li>農業関連特産業開発</li> </ul>	09年1月12日～1月21日	新疆科技幹部研修センター	新疆畜牧科学院、新疆農業大学、新疆畜牧学院、新疆農業科学院等	講義及び現地視察	モデル地区郷幹部	30名
<b>計</b>							
<b>【普及担当者研修】</b>							
農民用水戸協会規範化建設と発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>農民用水戸協会の設立方法と通用</li> <li>先進地視察研修</li> </ul>	08年8月23日	昌吉市科技局会議室及び同市南頭工村	自治区水利水管理總センター 総経済師 年自力	<ul style="list-style-type: none"> <li>農民用水戸協会研修用 ppt</li> <li>同テキスト</li> </ul>	市県水利局 郷村水管理員 市県科技局	11名
<b>【牧畜民技術研修】</b>							
昌吉市アクチ村農機具維持管理研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンジンの日常維持補修</li> <li>伝動システムの使用及び注意事項</li> <li>液圧システムの使用維持</li> <li>アタッチメント機具の操作と調整</li> <li>一般のトラクター故障の処理方法と応急措置</li> </ul>	08年7月25日	アクチ村トラクター管理者健先	民間農機具会社職員 馬明	実地指導 (テキスト類を整備し、カザフ語翻訳する必要有り)	トラクター管理者(定住牧民)	2名
富蘊県チャブラ村農機具維持管理研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラクターの日常点検、簡易な整備</li> <li>アタッチメント機具の日常点検と簡易な整備</li> </ul>	08年8月13日	ドゥラル郷政府敷地内	県農機具ステーション 長 べアードベック	実地指導	トラクター管理者、オペレーター(郷、村)	2名
昌吉市アクチ村モデル農家アルファアルファ栽培研修	アルファアルファの新播、管理技術	08年9月2日	アクチ村研修施設	自治区プロジェクト事務所 千葉精一 新疆農大 アイビブラ	簡易テキスト使用	郷・村普及員 モデル農家	20戸
昌吉市アクチ村モデル農家堆肥研修	完熟(発酵腐熟)堆肥生産技術	08年9月3日	モデル農家敷地	自治区プロジェクト事務所 千葉精一 新疆農大 アイビブラ	簡易テキスト使用	郷・村普及員 モデル農家	20戸
富蘊県チャブラ村 PCM 手法	チャブラ村に係る中心問題	08年11月19日	チャブラ村研修施設	自治区プロジェクト事務所 小林勤	パワーポイント及び参加者による演習	牧民	64名

資料 B-2

富蘊県チャブアラ村モデル農家アルファアラ栽培研修	アルファアラの新播、管理技術	08年11月19日	チャブアラ村研修施設	自治区プロジェクト事務所 千葉精一 新疆農大 アイビブラ	簡易テキスト使用	郷・村普及員 モデル農家	20戸
富蘊県チャブアラ村モデル農家堆肥研修	完熟(発酵腐熟)堆肥生産技術	08年11月19日 ～20日	チャブアラ村研修施設	自治区プロジェクト事務所 千葉精一 新疆農大 アイビブラ	簡易テキスト使用及び実地研修	郷・村普及員 モデル農家	20戸
家畜飼養・営農改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>家畜飼養方法</li> <li>飼料給与方法</li> <li>生産計画の立て方</li> <li>効率的経営の実践方法</li> </ul>	08年12月15日	アクチ村集会所	畜牧科学院 張金山 新疆農大 アイビブラ	講義、現地指導	モデル農家	53名
富蘊県草地管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>天然草地の保護を旨とした農牧業</li> <li>草地の管理</li> <li>草地の追播改良</li> <li>人工草地の整備</li> </ul>	08年12月16日	チャブアラ村集会所	自治区プロジェクト事務所 伊賀啓文 鼎草原站	パワーポイント、カザフ語資料、既存研修テキスト	牧民	78名
家畜飼養・営農改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>家畜飼養方法</li> <li>飼料給与方法</li> <li>生産計画の立て方</li> <li>効率的経営の実践方法</li> </ul>	08年12月16日	チャブアラ村集会所	畜牧科学院 張金山	講義、現地指導	牧民	78名
昌吉市アクチ村冬期牧民研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイレージの調製</li> <li>乳牛の飼養</li> <li>アルファアラの栽培・加工</li> <li>農村專業技術協会の整備</li> </ul>	09年1月9日、 09年1月11日	アクチ村集会所	畜牧科学院 趙徳雲 畜牧科学院 アリ 新疆農大 アイビブラ 農経管理站 馬建新	パワーポイント、簡易テキスト使用	牧民	62人
富蘊県チャブアラ村冬期牧民研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>トウモロコシ、ヒマワリの栽培技術</li> <li>乳牛の飼養管理技術</li> <li>サイレージの調製</li> <li>節水灌漑の知識と方法</li> </ul>	09年2月11日	チャブアラ村集会所	農業技術普及站 朱馬泰、哈吉拜、獸医站 叶尔克江、卓原站金祿朝、县水管站 吉格尔等	講義、簡易テキスト使用	牧民	45人
<b>【先進地研修】</b>							
フカン地区先進地技術研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業栽培</li> <li>節水灌漑</li> <li>牛・羊の繁殖・飼育</li> <li>牧民定住</li> </ul>	08年9月24日 ～26日	フカン県管内	訪問先リーダー	視察・意見交換	富蘊県科技局 鄉村幹部 モデル農家	23戸
マナス地区先進地技術研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳牛飼養管理</li> <li>サイレージ調製</li> <li>飼料栽培</li> <li>普及制度</li> </ul>	08年9月25日 ～26日	塔西河湖大草灘村、涼州戸太陽廟村、農業科技サービスセンター、石河子高新農業モデル区、沙湾県栽培モデル区(二道河子村)	訪問先リーダー	視察・意見交換	昌吉市科技局 鄉村幹部 モデル農家	20戸
計							507名 582名
2008年度計							

※斜文字は中国側の企画立案による研修を表す。

【第3年次（2009年度）】

区分及び研修名称	研修内容	研修開催日	研修場所	研修講師 所属氏名	研修方法 (使用教材等)	研修対象	参加人数
<b>【普及担当者研修】</b>							
昌吉市ミヤルゴウ郷草地区モニタリング研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>天然草地保護回復対策草地モニタリング技術</li> </ul>	09年5月12日	昌吉市ミヤルゴウ郷策尔巴斯陶草地	畜牧科学院 趙徳云	<ul style="list-style-type: none"> <li>輪換放牧のモニタリング方案</li> </ul>	昌吉市ミヤルゴウ郷草原獣医ステーション職員	4名
<b>【行政及び普及担当者研修】</b>							
2010年昌吉市・富蘊県「農村科技創業」研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日研修(2008年)で得た新疆畜産発展の方向性</li> <li>牛品種と繁殖技術</li> <li>動物伝染病とその措置</li> <li>飼料加工と飼養技術</li> <li>食品安全生産技術</li> <li>先進地視察</li> </ul>	10年1月25日 ～1月29日	科技幹部研修センター(ウルムチ市)	畜牧科学院 馬来書 新疆兵团工商 劉善堂 畜牧科学院 鄭新宝 畜牧科学院 王治才 畜牧科学院 敬紅文 農業大学 黄錫霞 農業大学 王志琴	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師作成 ppt による講義</li> <li>現地視察</li> </ul>	昌吉市及び富蘊県農村幹部及び普及員	20名
<b>【牧畜民技術研修】</b>							
富蘊県チャブアラ村牧民研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>家畜飼養管理記録</li> <li>農家計簿記録</li> </ul>	09年6月2日	チャブアラ村集会所	畜牧科学院 張金山 畜牧科学院 楊奎花 畜牧科学院 蘇尤力	家畜飼養、家計簿記録用紙	モデル農家	20名
昌吉市アクチチ村冬期牧民研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用及び節水灌漑</li> <li>農村合作、農技協会建設</li> <li>乳牛乳房炎予防と治療</li> <li>乳製品加工と衛生健康技術</li> <li>サイレージ調製技術</li> <li>良質草栽培管理技術</li> <li>草原利用許可証の使用方法</li> <li>家庭記録の方法</li> </ul>	10年1月23日 ～1月28日	アクチチ村集会所 井老堰村集会所 牧業村集会所	市水利局 吉恩思 市農業技術学院 納興 市畜牧局 吾尔肯 市草原站 哈比	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義、市販教材使用</li> </ul>	牧民	60人
富蘊県チャブアラ村冬期牧民研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>トウモロコシ、ヒマワリの栽培技術</li> <li>乳牛の飼養管理技術</li> <li>サイレージの調製</li> <li>節水灌漑の知識と方法</li> </ul>	10年1月下旬	チャブアラ村集会所	農業技術普及站 朱馬 泰、哈吉拜、獣医站 叶 尔克江、草原站金翎翔、 县水管站 吉格爾等	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義、簡易テキスト使用</li> </ul>	牧民	60人
2009年度計							164名

※斜文字は中国側の企画立案による研修を表す。

## 資料B-3 OJT記録

## 専門分野別

## a) 草地管理

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年6月27日	現地調査	昌吉市ミャルゴウ郷策尔巴斯陶牧场	馬来書(畜牧科学院),張玉宏(昌吉市),王海峰/哈杰提/馬青云/ナズラ(ミャルゴウ郷)	6
2	2007年7月24日	現地調査	富蘊県ドウル郷闊克布拉克牧场	李瑞年(畜牧科学院),馬合薩提/倪德華/姜万里(富蘊県)	4
3	2007年7月25日	活動状況把握	富蘊県草原站	李瑞年(畜牧科学院),姜万里(富蘊県)	2
4	2007年7月26日	活動状況把握	昌吉市科技局	馬来書(畜牧科学院),王吉云(昌吉市)	2
5	2007年7月31日	天然草地保護利用計画骨子検討	自治区プロジェクト事務室	馬来書/趙徳云(畜牧科学院)	2
6	2007年8月13日	草地関係状況調査	富蘊県政府会議室	馬合薩提/倪德華/姜万里(富蘊県)	3
7	2007年8月14日	現地調査	富蘊県ドウル郷沙依肯布拉克牧场	李瑞年(畜牧科学院),馬合薩提/倪德華/姜万里(富蘊県)	4
8	2007年8月14日	活動状況調査	富蘊県ドウル郷臨時牧業弁公室	同上	4
9	2007年8月17日	活動状況調査	富蘊県草原監理站	不明(富蘊県)	1
10	2007年10月16日	天然草地広域モニタリング状況聞き取り	新疆農大草業工程学院	安沙舟(新疆農業大学)	1
11	2007年10月25日	天然草地保護利用回復計画案検討	自治区プロジェクト事務室	馬来書/趙徳云(畜牧科学院)	2
12	2007年11月6日	定住政策聞き取り	自治区プロジェクト事務室	阿爾斯担/趙新春/王万林(畜牧庁)	3
13	2007年11月13日	天然草地保護利用計画策定手順	自治区プロジェクト事務室	馬来書/趙徳云/李瑞年(畜牧科学院),クルバン(新疆農業大学)	4
14	2007年11月16日	天然草地保護利用計画策定スケジュール	富蘊県草原站	姜万里(富蘊県)	1
15	2007年11月19日	天然草地保護利用計画策定の指示依頼	自治区プロジェクト事務室	張揚/馬来書(畜牧科学院)	2
16	2007年11月20日	天然草地保護利用計画策定スケジュール	昌吉市草原站	趙徳云(畜牧科学院),王吉云(昌吉市)	2
17	2007年12月12日	天然草地保護利用計画骨子検討	富蘊県科技局	姜万里(富蘊県)	1
18	2007年12月14日	天然草地保護利用計画内容確認	昌吉市科技局	趙徳云(畜牧科学院),張玉宏/吳柏林/王吉云(昌吉市),沙(アクチ村)	5
19	2008年2月15日	天然草地保護利用計画内容確認	自治区プロジェクト事務室	馬来書(畜牧科学院),朱進忠(新疆農業大学)	2
	2007年度計				51
20	2008年8月7日	天然草地フェンス設置について	昌吉市科技局	張玉宏/吳柏林(昌吉市),馬青云(ミャルゴウ郷)	3
21	2008年8月8日	天然草地輪換放牧計画について	自治区プロジェクト事務室	趙徳云(畜牧科学院)	1
22	2008年8月11日	天然草地フェンス設置について	昌吉市ミャルゴウ郷,策尔巴斯陶草地	趙徳云(畜牧科学院),張玉宏/吳柏林/哈克(昌吉市),劉金梅(ミャルゴウ郷)	5
23	2008年8月14日	フェンス設置業務について	富蘊県科技局	夏逢林/倪德華/姜万里/金斯别克/哈勒克哈什(富蘊県)	5
24	2008年8月20日	フェンス設置業務について	自治区プロジェクト事務室	張揚/趙徳云/張金山(畜牧科学院),吳柏林/王吉云/宋阮斌(昌吉市),叶尔泰(ミャルゴウ郷)	7
25	2008年8月22日	フェンス設置打合せ	昌吉市ミャルゴウ郷,策尔巴斯陶草地	趙徳云(畜牧科学院),張玉宏/吳柏林/哈克/ムハン(昌吉市),阿●提/馬青云/馬/ムラティ/アササン(ミャルゴウ郷)	10
26	2008年9月12日	フェンス設置業務完了検査	昌吉市ミャルゴウ郷,策尔巴斯陶草地,南黒溝草地	張玉宏/吳柏林/哈克(昌吉市),ムラティ(ミャルゴウ郷)	4
27	2008年9月13日	同上	富蘊県	夏逢林/姜万里(富蘊県)	2
28	2008年9月14日	同上	富蘊県ドウル郷沙依肯布拉克牧场	夏逢林/金斯别克(富蘊県)	2
29	2008年9月15日	同上	富蘊県ドウル郷庫園牧场	夏逢林/金斯别克(富蘊県)	2
30	2008年12月15日	天然草地モニタリング結果について	富蘊県科技局	夏逢林(富蘊県)	1
31	2008年12月19日	草地モニタリング技術交流会	自治区プロジェクト事務室	趙徳云,李瑞年(畜牧科学院),姜万里/金斯别克(富蘊県),努尔加别克(昌吉市)	5
	2008年度計				47
	2年間計				98



## b) 家畜飼養

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年11月22日	営農計画策定に関する打合せ	畜牧科学院	張金山(畜科院)	1
2	2007年11月28日	モデル農家営農類型関係者協議,定住牧民の現状家畜飼養状況の分析	アクチ村	哈克(昌吉市科技局),哈那提(ミヤルゴウ郷農業幹事),巴合提尔(アクチ村委員会)	3
3	2007年12月4日	アクチ村モデル農家経営収支試算プログラム操作研修	畜牧科学院	張金山(畜科院),哈克(昌吉市科技局),哈那提(ミヤルゴウ郷農業幹事),巴合提尔(アクチ村委員会)他	7
4	2007年12月12日	チャブラ村プロジェクト活動計画内容打合せ	チャブラ村	張金山(畜科院),倪德華(富蘊県科技協会),干及爾(富蘊県畜牧獣医)	3
5	2008年2月18日	経営収支試算プログラム技術移転	畜牧科学院	張金山(畜科院)	1
	2007年度計				15
6	2008年8月6日	営農計画作成に関する研修会	畜牧科学院	張金山(畜科院),倪德華(富蘊県科技協会),干及爾(富蘊県畜牧獣医)	3
7	2008年8月15日	凍結精液導入利用検討会	昌吉市科技局	張局長,吳柏林,哈克(昌吉市科技局),木拉提,阿依肯(郷畜牧獣医帖)	5
8	2008年8月15日	営農計画作成に関する研修会	アクチ村	哈克(昌吉市科技局),哈那提(ミヤルゴウ郷農業幹事),巴合提尔(アクチ村委員会)	3
9	2008年8月20日	富蘊県チャブラ村営農計画,家畜改良計画検討会	畜牧科学院	張揚,張金山,趙德雲,楊奎花,李紅波(畜牧科学院),木黑扎提,夏達林,倪德華(富蘊県科技局),干及爾(富蘊県畜牧獣医)	9
	2008年度計				20
	2年間計				35

## c) 栽培/飼料作物

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年8月7日	プロジェクト活動に向けての意思統一	畜牧科学院	馬来書,趙德雲(畜牧科学院)	2
2	2007年11月13日	飼料栽培生産分野活動計画作成準備検討会	畜牧科学院	馬来書,趙德雲,李瑞年(畜牧科学院)	3
3	2007年11月15日	恰布拉村の活動方針について意見交換	富蘊県杜熱郷会議室	県長助理除鎮,局長馬合薩提,郷長賈納别克,党委員会努尔太,村書記任東亞,村主任温米尔别克	7
4	2007年11月23日	阿克旗村営農類型及び活動計画案の作成検討会	畜牧科学院	C/P庫尔班(新疆農業大学)馬来書,趙德雲,李瑞年,張清斌,李紅波,史明(畜牧科学院)	7
5	2007年11月28日	阿克旗村活動計画作成について意見交換	昌吉市科技局	李瑞年,趙德雲,張金山(畜牧学)趙健康(新疆農大)	4
6	2007年11月30日	土壌分析値について検討会	中国科学院新疆分院	黃子蔚博士,岳紅霞(中科院新疆分院),李瑞年(畜牧科学院)	3
7	2007年12月11日	活動計画作成について牧民と意見交換	恰布拉村牧民宅	木黑扎提,富蘊県科技局局長外9名	10
8	2007年12月14日	計画作成意見交換	昌吉市科技局	張玉宏,吳柏林(市科技局)王吉云,努尔加列力(市草原ステーション),沙衣拉提,阿日肯(阿克旗村)	6
9	2007年12月17日	計画作成検討会	畜牧科学院	張揚組長外10名	11
10	2007年12月19日	活動計画作成中間検討会	畜牧科学院	馬来書,趙德雲,李瑞年(畜牧局)	3
11	2007年12月21日	阿克旗村農業機械導入計画打合せ	昌吉市科技局	張玉宏局長,吳柏林(昌吉市科技局)	2
12	2008年1月23日	活動計画策定進捗状況打合せ	畜牧科学院	張揚,馬来書,趙德雲,李瑞年,張金山,蘭宏凱,楊奎花,李紅波(畜牧科学院)	6
13	2008年1月29日	パイロット事業計画作成検討会	畜牧科学院	趙德雲,李瑞年,張金山,楊奎花,李紅波(畜牧科学院)	5
	2007年度計				69
14	2008年7月30日	サイロ建設計画及びプロジェクト活動進捗状況打合せ	畜牧科学院	長德雲(畜牧科学院)	1
15	2008年7月31日	サイロ建設計画及びプロジェクト活動進捗状況打合せ	昌吉市科技局	張玉宏局長,吳柏林(市科技局)	2
16	2008年8月6日	飼料作物モニタリング手法について打合せ	阿克旗モデル農家	吳主任(科技局)哈克(郷)恰那提,巴合提尔(観測担当者)重点農家5戸	9
17	2008年8月10日	節水灌漑プロジェクト研修支援打合せ	畜牧科学院	アイビラ教授(新疆農業大学)	1
18	2008年8月12~14日	モニタリング手法等について打合せ	杜熱郷会議室	木黑扎提,富蘊県科技局局長,夏副局長(県科技局)ボラティハン(郷モニタリング技術者)ジンスベク,ウルムベク,ヌルランベク(恰布拉村)	6
19	2008年8月15日	節水灌漑プロジェクト研修支援事前打合せ	新疆農業大学	アイビラ教授(新疆農業大学)	1

20	2008年12月～15日	富蘊県夏牧场調査及び業務打合せ	恰布拉克村	倪德華(富蘊県)モニタリング技術者(杜熱郷)	2
21	2008年11月6日	2009年度の計画作成及び技術移転に関する意見交換	畜牧科学院	趙徳雲,李瑞年(畜牧科学院)	2
22	2008年11月7日	2009年計画作成及び技術指導に関する意見交換	新疆農業大学	アイビブラ教授(新疆農業大学) 史明(畜牧科学院)	2
23	2008年11月11日	2009年計画作成及び技術指導に関する意見交換	阿克旗村	哈克(郷干事)叶克生(副村長)沙依拉提(村書記)阿依肯(郷)巴合提亚尔(村委員会)	5
24	2009年5月15日	2009年度のアルファルファ,玉蜀黍の栽培状況について打合せ	新疆農業大学	アイビブラ教授(新疆農大)史明(畜牧科学院)	2
	2008年度計				33
	2年間計				102

## d) 研修計画/普及体制整備

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年7月24日	現地調査	富蘊県ドウル郷闊克布拉克牧场	馬合薩提/倪德華(富蘊県)	2
2	2007年7月25日	活動状況把握	富蘊県科技局	馬合薩提/倪德華(富蘊県)	2
3	2007年7月26日	活動状況把握	昌吉市科技局	李月珍,楊芳琴,吳柏林,基国華(昌吉市)	4
4	2007年8月1日	研修計画グループ打合せ	自治区プロジェクト事務室	蔣宏凱(畜牧科学院),楊大鵬(科技幹部中心)	2
5	2007年8月2日	PCMワークショップ打合せ	自治区プロジェクト事務室	同上	2
6	2007年8月6日	PCMワークショップ準備	自治区プロジェクト事務室	同上	2
7	2007年8月10日	PCMワークショップ予行演習	自治区プロジェクト事務室	同上	2
8	2007年8月11日	自治区レベルPCMワークショップ運営管理	畜牧科学院会議室	蔣宏凱,楊奎花(畜牧科学院),張燕,王毅,楊大鵬(科技幹部中心)	4
10	2007年8月13日	普及関係現状調査	富蘊県政府会議室	馬合薩提/倪德華(富蘊県)	2
11	2007年8月16日	現地調査	富蘊県ドウル郷沙依肯布拉克牧场	同上	2
12	2007年8月17日	県レベルワークショップ打合せ	富蘊県科技局	同上	2
13	2007年8月24日	市レベルワークショップ打合せ	昌吉市科技局	李月珍,楊芳琴,吳柏林,基国華(昌吉市)	4
14	2007年9月7日	研修計画グループ打合せ	自治区プロジェクト事務室	蔣宏凱(畜牧科学院),楊大鵬(科技幹部中心)	2
15	2007年9月17日	富蘊県ワークショップ運営管理	富蘊県職業訓練学校会議室	馬合薩提/倪德華(富蘊県)他	5
16	2007年9月18日	富蘊県ワークショップ運営管理	同上	馬合薩提/倪德華(富蘊県)他	5
17	2007年9月24日	昌吉市ワークショップ運営管理	昌吉市科技局	楊芳琴,吳柏林(昌吉市)他	5
18	2007年9月25日	昌吉市ワークショップ運営管理	昌吉市科技局	楊芳琴,吳柏林(昌吉市)他	5
19	2008年1月8日	アクチ村牧民研修打合せ	昌吉市科技局,アクチ村事務所	張局長,吳柏林(昌吉市),アクチ村幹部他	5
20	2008年1月11日	アクチ村牧民研修運営管理	アクチ村事務所	張局長,吳柏林(昌吉市),アクチ村幹部他	5
21	2008年1月12日	アクチ村牧民研修運営管理	アクチ村事務所	張局長,吳柏林(昌吉市),アクチ村幹部他	5
22	2008年1月15日	チャブランタイ村研修打合せ	自治区プロジェクト事務室	馬合薩提/倪德華(富蘊県)他	3
	2007年度計				70
23	2008年6月6日	研修計画グループ打合せ	自治区プロジェクト事務室	蔣宏凱(畜牧科学院),他	2
24	2008年11月6日	研修計画グループ打合せ	自治区プロジェクト事務室	蔣宏凱(畜牧科学院),他	2
25	2008年11月14日	牧民研修テキスト整備状況調査	農業庁	ヌル(農業庁)他	2
26	2008年11月18日	チャブランタイ村研修打合せ	富蘊県科技局	夏逢林/倪德華/金斯別克/哈勒克哈什(富蘊県)	3
27	2008年11月19日	チャブランタイ村研修管理	チャブラ村集会所	夏逢林/倪德華/金斯別克/哈勒克哈什(富蘊県), チャブラ村幹部他	5
28	2008年11月20日	チャブランタイ村研修管理	チャブラ村集会所	夏逢林/倪德華/金斯別克/哈勒克哈什(富蘊県), チャブラ村幹部他	5
29	2008年12月5日	研修計画グループ打合せ	自治区プロジェクト事務室	蔣宏凱(畜牧科学院),他	2
	2008年度計				21
	2年間計				91

## e) 水利用計画/水管理

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年8月24日	昌吉市の水利用状況把握(昌吉市C/P合同打合せ)	昌吉市科技局	郑智(市水利局)	1
2	2007年9月4日	水利用計画チーム第1回担当者会議	畜牧科学院	馬來書(畜科院),努爾(農業庁),馬英傑(農大)	3
3	2007年9月7日	昌吉市アクチ村水利用現状把握	アクチ村	馬來書(畜科院),馬英傑(農大),郑智(市水利局),馬青雲(ミャルゴウ郷副郷長)	4
4	2007年9月14日	水利用計画チーム第2回担当者会議	畜牧科学院	馬來書(畜科院),馬英傑(農大)	2
5	2007年10月12日 ~14日	富蘊県チャブラ村水利用現状把握	チャブラ村	馬來書(畜科院),馬英傑(農大),劉(県水利局),郷村の水管理者	7
6	2007年10月24日	「膜下滴灌」の基礎知識習得のための現地勉強	新疆旱生牧草原種基地	楊剛(新疆旱生牧草原種基地,畜科院草原研究所助理研究員)	1
7	2007年11月1日	富蘊県チャブラ村水利用計画の作成打合せ	富蘊県水利局	劉,ウエンズラ,王(県水利局)	3
8	2007年11月8日	当該分野活動実績報告	畜牧科学院	張揚,馬來書,陽延琴,馬英傑,趙德雲,滿宏凱,史明,李紅波	8
	2007年度計				29
9	2008年7月23日	昨年度の計画再確認と今年度の実行計画の作成及び昌吉市アクチ村水利用対策内容検討	畜牧科学院	馬來書(畜科院),張局長,吳副局長(昌吉市科技局),鄭智(市水利局),馬青雲(ミャルゴウ郷副郷長),サイルト(アクチ村書記)	6
10	2008年8月14日	農民用水戸協会設立に関する指導・研修打合せ	自治区水利庁	王永増(水利庁)	1
11	2008年8月18日	農民用水戸協会設立に関する指導・研修に関する水利庁講師打合せ	自治区水利庁	年自力(水利庁水管理総ステーション総経済師)	1
12	2008年8月28日	富蘊県チャブラ村流量モニタリング方法及び土壤塩分濃度測定方法指導	畜牧科学院	ヌルラン(県水利局),マリア(チャブラ村水管理員),ウムルベク(チャブラ村村民委員会主任),夏蓬林(県科技局)	4
13	2009年2月9日	モデル村水資源インフラ整備に関する中国側資金調達ルート情報収集	自治区水利庁	王永増(水利庁)	1
	2008年度計				13
	2年間計				42

## f) 農家経営/市場調査

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年8月7日	農家経営に関する現状把握と対策方針	畜牧科学院	馬來書,趙德雲(畜科院)	2
2	2007年8月10日	農家経営・市場調査分野の調査項目打合せ	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
3	2008年8月15日	ドゥル郷畜産品の出荷,販売に関する現状把握	ドゥル郷畜牧ステーション	李学森,富蘊県科技局,ドゥル郷郷長	3
4	2008年8月16日	ドゥル郷農家経営に関する現状把握	ドゥル郷チャブラ村	李学森,富蘊県科技局長,ドゥル郷副書記長	3
5	2007年8月20日	農家経営聞き取り調査対象の範囲,農家経営調査項目,市場流通,加工利用販売計画調査	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
6	2007年8月24日	昌吉市アクチ村農家経営現状把握	昌吉市科技局 昌吉市アクチ村	市科技局,市農経局	3
	2007年度計				15
7	2008年1月29日	営農計画(市場流通,農家経営)内容とパイロットプロジェクト実施計画の策定手法協議	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
8	2008年2月1日	農家経営,市場流通に係る活動計画策定支援	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
9	2008年12月12日	畜産品流通計画の確認と一部修正,畜産品に関する農牧民アンケート調査打合せ	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
10	2009年2月12日	農家経営形態調査	昌吉市アクチ村	吳柏林,哈克爾(昌吉市科技局)	2
11	2009年2月13日	農家経営形態調査結果分析	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
12	2009年2月16日	農家経営/流通計画に係るC/P合同会議	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院),周国軍(昌吉市農業経済管理局)	3
13	2009年2月19日	家計簿記帳研修,農家経営モニタリング方法の検討	畜牧科学院	楊奎花,ソヨリ(畜科院)	2
	2008年度計				15
	2年間計				30

## 資料C 成果品

区分	名称	言語	編纂機関
活動実績	1 天然草地保護利用計画	日本語・中国語	
	2 土地利用計画	日本語・中国語	
	3 作物栽培生産計画	日本語・中国語	
	4 牧畜業養殖生産計画	日本語・中国語	
	5 畜産品流通計画	日本語・中国語	
	6 水利用計画	日本語・中国語	
	7 技術普及体制整備計画	日本語・中国語	
研修教材	1 農牧民養殖実用技術ハンドブック	カザフ	自治区、市プロジェクト弁公室
	2 村レベル動物防疫員研修ハンドブック	カザフ	市プロジェクト弁公室、市科技協会
	3 牧民現代放牧ハンドブック	カザフ	自治区、市プロジェクト弁公室
	4 綿羊肥育技術	中文	市プロジェクト弁公室
	5 乳牛高生産高効率養殖技術	カザフ・中文	自治区、市プロジェクト弁公室
	6 家庭で使えるかまど利用技術	カザフ	自治区、市プロジェクト弁公室
	7 新疆畜牧業	カザフ	自治区プロジェクト弁公室
	8 動物防疫防病技術	中文	自治区、市プロジェクト弁公室
	9 牛の肥育技術	中文	市プロジェクト弁公室
	10 乳牛飼養技術	カザフ	市プロジェクト弁公室
	11 トウモロコシ節水マルチ栽培	カザフ	市プロジェクト弁公室
	12 トウモロコシのズイムシ防止技術ハンドブック	中文	市プロジェクト弁公室
	13 綿花高生産総合マルチ栽培技術規程	カザフ	市プロジェクト弁公室
	14 牧草病中害防止ハンドブック	カザフ	市プロジェクト弁公室
	15 農民專業合作社口座	中文	市プロジェクト弁公室

## 資料D プロジェクトの会議実績

## a) 合同調整委員会

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年6月14日	インセプションレポートの説明	自治区科技厅	科技厅, 畜牧庁, 農業庁, 水利庁, 畜牧科学院, 昌吉市代表, 富蘊県代表 他	
2	2008年7月17日	第1年次の課題に対する理解促進, 第2年次業務実施計画の骨子説明, 意見交換	自治区科技厅	科技厅, 農業庁, 畜牧科学院, 昌吉市代表, 富蘊県代表 他	13
	計				13

## b) プロジェクト運営会議・C/P会議

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年6月21日	新疆草地生態保護利用工程センターの役割分担	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 趙徳雲, 簡宏凱, 李紅波, 史明, 王江梅 他	14
2	2007年6月29日	プロジェクト全体計画の予備検討	畜牧科学院	張揚, 李学森, 馬来書, 陽延琴, 李捷, 朱進忠, 李瑞年, 趙徳雲, 簡宏凱, 安沙舟, 庫尔班, 馬英杰, 史明, 王江梅, 昌吉市代表	17
3	2007年7月5日	インセプションレポートの説明, 計画作業班の編成	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 陽延琴, 李捷, 李瑞年, 趙徳雲, 簡宏凱, 安沙舟, 楊奎花, 史明, 王江梅, 李紅波	12
4	2007年7月10日	既存計画のレビュー	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 趙徳雲, 簡宏凱, 李紅波, 史明, 王江梅 他	10
5	2007年7月20日	計画策定に関する合意形成	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 趙徳雲, 簡宏凱, 李紅波, 史明, 王江梅 他	10
6	2007年7月20日 ~27日	現地調査項目の概定	畜牧科学院	各計画作成作業チーム	8
7	2007年7月25日	県レベルC/Pへプロジェクトの活動内容の説明・意見交換	富蘊県人民政府	県科技局, 県C/P	9
8	2007年7月26日	市レベルC/Pへプロジェクトの活動内容の説明・意見交換	昌吉市科技局	市科技局, 市C/P	7
9	2007年7月27日	モデル地区現状調査の実施方法	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 李瑞年, 趙徳雲, 朱進忠, 馬英杰	6
10	2007年8月17日	分野別活動予定	富蘊県人民政府	富蘊県C/P	7
11	2007年10月17日	開発戦略打合せ	畜牧科学院	馬来書, 趙徳雲, 張清斌, 農業庁, 馬清云(ミャルゴウ郷), 沙(アクチ村)	6
12	2007年10月26日	C/P全体会議(プロジェクト進捗報告, 再委託調査の報告, モデル農家選定経緯報告, プロジェクトホームページ紹介)	畜牧科学院	馬来書, 徐勝利, 張燕, 龐惠玲, クルバントルソ, アジグリ, 陳新文, 李天麟, 楊貴新, 昌吉市科技局, 富蘊県科技局, 李紅波	15
13	2007年11月15日	開発戦略打合せ	富蘊県ドウル郷	李瑞年, 馬合薩提, 郷長(ドウル郷), 書記(チャブラ村)	4
14	2007年12月17日	計画策定打合せ	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 朱進忠, 李瑞年, 趙徳雲, 張清斌, 簡宏凱, 楊奎花, 陽延琴	9
15	2007年12月17日	プロジェクト活動報告会	畜牧科学院	畜牧科学院関係者	10
16	2008年2月14日	計画作成作業班班長会議	畜牧科学院	張揚, 陽延琴, 馬来書, 趙徳雲, 簡宏凱, 李紅波, 史明 他	8
	2007年度計				152
17	2008年6月6日	第2年次活動内容説明, モデル農家営農計画策定, モニタリングの実施体制の確立	畜牧科学院	張揚, 陽延琴, 馬来書, 趙徳雲, 簡宏凱, 李紅波, 史明 他	8
18	2008年7月1日	第2年次業務実施計画の骨子説明, パイロットプロジェクト具体内容説明・協議	畜牧科学院	科技厅, 畜牧科学院, 昌吉市科技局, 富蘊県科技局	13
19	2008年12月22日	技術内容検討会	畜牧科学院	張揚, 馬来書, 趙徳雲, 李瑞年, 張清斌, 張金山, 楊奎花, 朱進忠, 艾比布拉	9
	2008年度計				30
	2年間計				182

## c) プロジェクト紹介セミナー

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2008年2月19日	プロジェクト概要紹介, 第1年次現地活動まとめ, 現地再委託調査結果報告, 各種計画の紹介, 訪日研修報告, 第2年次活動計画説明	明園新時代大酒店	科技厅, 畜牧庁, 農業庁, 水利庁, 畜牧科学院, 新疆農業大学, 新疆科技幹部研修中心, 昌吉市関係機関, 富蘊県関係機関 他	91
2	2009年2月17日	プロジェクトの果たす役割と使命, 第2年次現地活動まとめ, 中国側関連プロジェクト報告, 節水灌漑モデル事業紹介, 訪日研修報告, 第3年次活動計画説明	明園新時代大酒店	科技厅, 畜牧庁, 水利庁, 畜牧科学院, 新疆農業大学, 新疆科技幹部研修中心, 昌吉市関係機関, 富蘊県関係機関 他	84
3	2009年2月18日	昌吉市アクチ村現地視察, 富蘊県関係者との意見交換	昌吉市アクチ村	科技厅, 畜牧庁, 水利庁, 畜牧科学院, 新疆農業大学, 昌吉市関係機関, 富蘊県関係機関 他	25
	計				200

## d) その他

No	年月日	内容	場所	対象者及び所属機関	人数
1	2007年6月7日 ~12日	インセプションレポート案の事前説明・協議	自治区科技厅	馬庚, 陽延琴(科技厅), 馬来書, 趙徳雲(畜科院), 朱進忠(農大)	5
2	2007年10月11日	モデル農家選定基準打合せ	畜牧科学院	馬来書, 趙徳雲(畜科院)	2

表1 収入の推移(昌吉市アクチ村・富蘊県チャブラ村)

単位:元/人

年度 年次	2006			2007			2008			2009			2011												
	プロジェクト開始直前						実績			実績			計画												
	純収入	計	収入	計	純収入	計	純収入	計	純収入	計	純収入	計	純収入	計											
昌吉市 アクチ村	3263	5248	2510	2738	1985	6084	10429	5054	5375	4345	8099	13674	9175	4499	5575	9262	15010	9015	5995	5748	14289	12318	1971	6021	
対2006比		98.7%	101.4%	96.3%	118.9%	86.5%	98.7%	101.4%	96.3%	118.9%	148.2%	160.6%	265.5%	64.3%	180.9%	183.8%	186.0%	259.2%	119.0%	189.6%	172.3%	390.8%	-28.0%	203.3%	
対2007比											33.1%	31.1%	81.5%	-16.3%	28.3%	52.2%	43.9%	78.4%	11.5%	32.3%	37.0%	143.7%	-63.3%	38.6%	
対2008比											14.4%	9.8%	-1.7%	33.3%	3.1%	2.1%	4.5%	34.3%	3.1%	2.1%	4.5%	34.3%	-56.2%	8.0%	
富蘊県 チャブラ村	615	1062	359	703	447	2561	3126	1884	1242	565	2841	3501	1995	1506	660	3437	4238	2603	1635	801	7143	5076	2067	3476	
対2006比						316.4%	194.4%	424.8%	76.7%	26.4%	362.0%	229.7%	455.7%	114.2%	47.7%	458.9%	299.1%	625.1%	132.6%	79.2%	496.3%	572.6%	1313.9%	194.0%	677.6%
対2007比						10.9%	12.0%	5.9%	21.3%	16.8%	34.2%	35.6%	38.2%	31.6%	41.8%	34.2%	35.6%	38.2%	31.6%	41.8%	43.2%	128.5%	169.4%	66.4%	515.2%
対2008比											21.0%	21.1%	30.5%	8.6%	21.4%	29.1%	104.0%	30.5%	8.6%	21.4%	29.1%	104.0%	154.4%	37.3%	426.7%
平均	1939	3155	1435	1721	1216	4323	6778	3469	3309	2455	5470	8588	5885	3003	3118	6350	9624	5809	3815	3275	10716	8697	2019	4749	
対2006比						122.9%	114.8%	141.7%	92.3%	101.9%	182.1%	172.2%	289.2%	74.5%	156.4%	227.5%	205.0%	304.8%	121.7%	169.3%	207.8%	239.7%	506.1%	17.3%	290.5%
対2007比											26.5%	26.7%	61.0%	-9.2%	27.0%	46.9%	42.0%	67.5%	15.3%	33.4%	58.1%	150.7%	-39.0%	93.4%	
対2008比											16.1%	12.1%	4.0%	27.0%	5.0%	16.1%	12.1%	4.0%	27.0%	5.0%	24.8%	55.7%	-32.8%	52.3%	

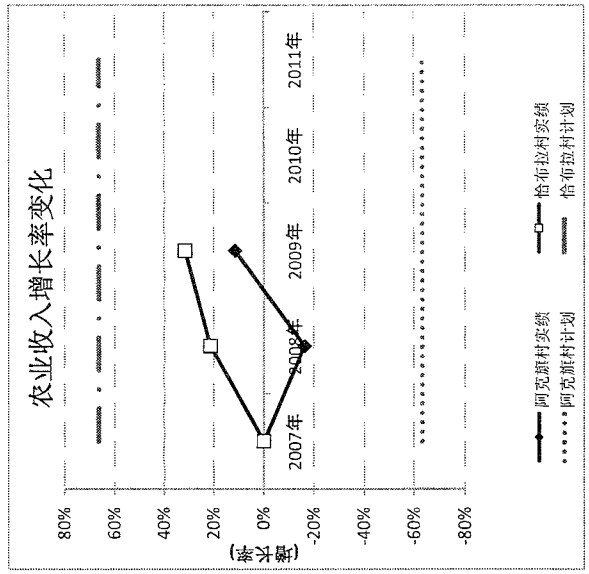
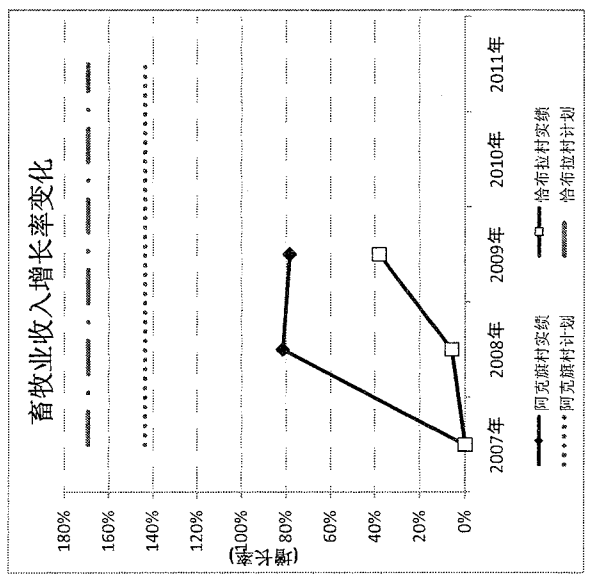
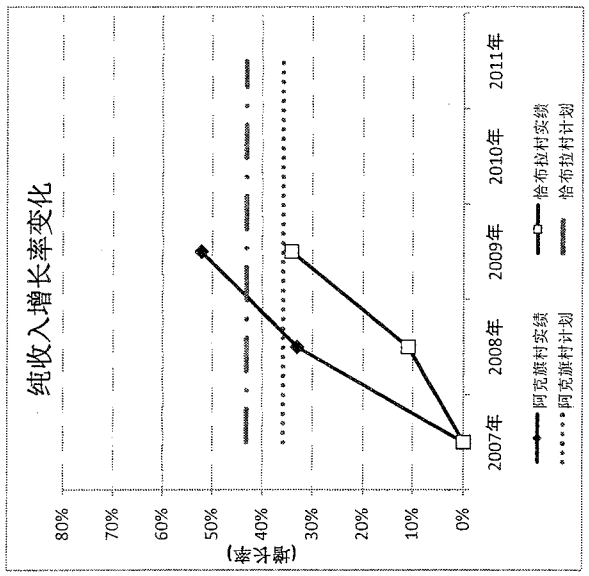
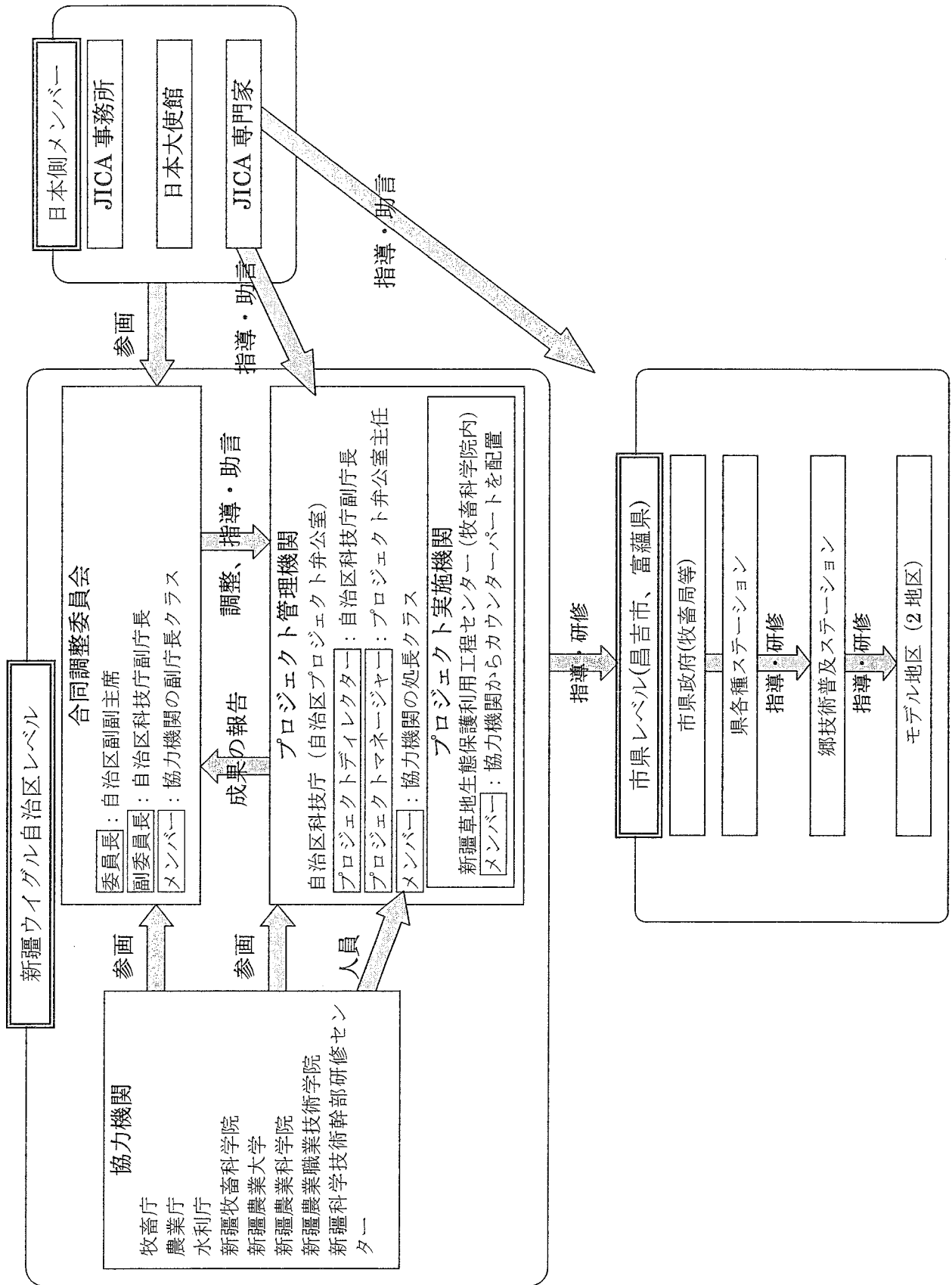


図1 プロジェクトの実施体制



Handwritten signature or mark.

Handwritten signature or mark.

中华人民共和国  
新疆天然草地保护及牧民定居示范项目  
第三次联合协调委员会会议暨中期评估备忘录

为确认中华人民共和国新疆天然草地保护及牧民定居示范项目（以下简称“项目”）技术合作的实施情况并商讨今后的实施计划，中日双方组成联合中期评估调查团从2010年9月1日至9月9日，在新疆维吾尔自治区与中日两国的项目相关人员进行了座谈、开展了实地调研。其结果，对附件中联合中期评估报告书所记载的各项内容达成了一致意见，并将评估结果向项目联合协调委员会进行了汇报，得到了认可。

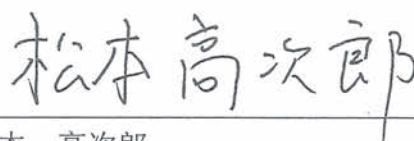
本备忘录制作中文和日文各2份，在双方同意的基础上签署。

新疆维吾尔自治区乌鲁木齐市 2010年9月9日



---

约尔古丽·加帕尔  
中华人民共和国  
新疆维吾尔自治区科学技术厅  
书记



---

松本 高次郎  
日本国  
国际协力机构中国事务所  
副所长



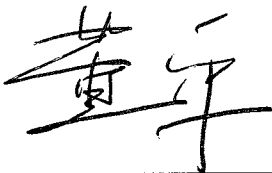
关于新疆天然草地生态保护及牧民定居示范项目  
中期评估调查的联合评估备忘录

为确认新疆天然草地生态保护及牧民定居示范项目（以下简称“项目”）中日双方技术合作的实施情况并商讨今后的实施计划，组成了由日方国际协力机构松本高次郎及中方新疆维吾尔自治区科技厅对外科技合作处董平为团长的联合评估调查团，于2010年9月1日至2010年9月9日，开展了调查。

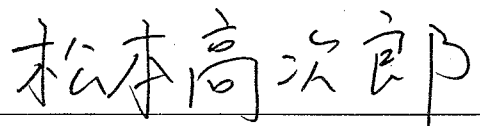
联合评估调查团与中日两国的项目相关人员进行了座谈并开展了实地调研。其结果，对附件联合中期评估报告中记录的各项内容达成了一致意见，并同意将评估结果向本项目联合协调委员会及双方政府进行汇报。

本备忘录用中文及日文作成，正本各一式两份。

2010年9月9日  
中国新疆维吾尔自治区乌鲁木齐市



董平  
中期评估调查团长  
中国新疆维吾尔自治区科技厅



松本 高次郎  
中期评估调查团长  
日本国国际协力机构

## 1. 前言

根据 2007 年 3 月 6 日中国与日本签署的项目实施会谈纪要 (R/D), 自 2007 年 6 月开始实施为期 5 年的新疆天然草地生态保护及牧民定居示范项目(以下简称“项目”)。

根据上述 R/D 记载, 项目目标如下:

### 【项目目标】

通过在项目区大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程的示范性措施, 确立针对定居牧民的技术支持体系。

### 【总体目标】

在新疆维吾尔自治区, 通过提高牧民生活水平, 推进定居工程, 保护天然草地。

日本国际协力机构采用 PCM 的项目管理方法(项目周期管理)来推动合作项目的有效开展。本报告作为 PCM 的一部份, 是在项目期中间阶段实施的中期评估的概要报告。

## (2) 评估的目的

评估目的如下:

- (1) 在项目实施的中期阶段根据评估 5 项对项目进行评估, 了解项目的实际情况及实施过程, 从妥当性, 效率性等观点进行评估, 验证计划的完成情况。并将评估结果汇总成联合评估报告。
- (2) 在上述 (1) 评估结果的基础上, 针对其他有待解决的事项, 根据需要调整项目最初制定的计划, 并与中方相关人员进行讨论。

## 3. 联合评估调查团成员

### 3.1 日方评估调查团

团长	国际协力机构 驻中国事务所 副所长	松本高次郎
农牧业经营	明治大学 客座教授	坪田邦夫
合作规划	国际协力机构 驻中国事务所 所员	足立佳菜子
合作规划辅助	国际协力机构 驻中国事务所 所员	唐佳
评估分析	共同会社适材适所	藤本抄越理

### 3.2 中方评估调查团

团长	新疆维吾尔自治区科学技术厅对外科技合作处处长	董平
团员	新疆维吾尔自治区畜牧科学院科技管理与国际合作处处长	武坚

#### 4. 评估方法

##### 4.1 调查步骤

中日双方组成的联合评估调查团查阅了 PDM（附件 1）、活动计划（附件 2）、项目以往的记录等资料，向项目相关单位及相关人员了解情况并进行了实地考察等。调查团从 PCM 中评估项的角度编制了评估一览表，对项目进行了分析和评估，最后对其他有待解决的事项，对项目最初制定的计划进行调整的必要性等进行了讨论。

##### 4.2 调查内容

###### 4.2.1 确认项目的实际情况

按照 R/D 以及 PDM 的计划，验证项目的投入、成果、项目目标的完成情况。

###### 4.2.2 确认实施过程

纵观项目整个实施过程，确认活动是否按计划开展，项目的监测及项目内部的沟通是否顺畅等。

###### 4.2.3 从评估 5 项进行分析

###### (1) 妥当性：

分析项目所设定的目标（项目目标和总体目标）在开展评估的时候是否妥当（是否符合受益者的需求，问题和课题的解决方案是否恰当，与项目实施国及日本国的政策是否一致，项目的战略和方法是否妥当等）。

###### (2) 有效性：

分析项目目标实现的可能性以及阻碍和促进项目目标实现的因素。

###### (3) 效率性：

重点着眼于项目的投入和产出之间的关系，分析资源是否正在得到（或者得到）有效的运用。

###### (4) 影响：

分析项目实施带来的更为长期的、间接的效果以及辐射效果。也包括没有预期到的正面和负面的效果和影响。

###### (5) 独立发展能力：

分析在合作结束后，项目取得的效果能否持续（或者是否有持续的可能性）。

#### 5. 验证项目的实际情况及实施过程（详细内容参照附件 3）

##### 5.1 项目的实际业绩<sup>1</sup>

###### 5.1.1 投入情况

###### (1) 中方：

###### ● 对口专家的配备

新疆维吾尔自治区科学技术厅（以下简称“自治区科技厅”）书记担任项目负责人，自治区科技厅对外科技合作处处长担任项目主任。除此之外，自治区级包括项目管理单位自治区科技厅，实施单位畜牧科学院，其他相关单位共配备了 23 名项目对口专家参与项目活动。另外示范区昌吉市和富蕴县，包括试点项目的管理单位市、县科学技术局（以下简称“科技局”）在内，各相关单位共配备了对口专家 20 名。（参照资料 A-1）

###### ● 设施和器材的提供及项目经费的支出情况

自治区、昌吉市、富蕴县提供了项目办公室。

<sup>1</sup> 如果没有特别备注，都是截止 2010 年 8 月的实际业绩。

作为项目的配套资金,科技厅直接投入 150 万元(主要用于中方对口专家活动经费,及用于支付科技干部培训中心对自治区及示范区技术人员的培训经费)。此外,市县级投入了主要用于建设示范区基础设施的费用(参照资料 A-2)。

在此基础上,为了项目工作的更好开展,对口专家进行了技术研发与示范应用,配套的荒漠、半荒漠区无灌溉条件下人工草地建植技术的引进和应用试验,项目经费为 72 万元,执行了种植区种子扩繁项目,项目经费为 55 万元。

另外还使用中方独立预算进行了基础设施建设等。

## (2) 日方

### ● 派遣日方专家

派遣了 6 个领域的短期专家:

负责人/草地管理、家畜饲养、种植/饲料生产、培训计划/推广体制建设、用水计划/水资源管理、农户经营/市场调查。

派遣时间及派遣人数参照资料 A-3。

由于短期专家所在单位机构改编,第一年度缩短了 1.43 人/月,第二年度调整了家畜饲养和农户经营/市场调查领域的专家派遣计划。第三年度由于发生了 7·5 事件,有将近一年的时间停止了专家的派遣。

### ● 对口专家的赴日培训

项目自 2007 年启动以来每年在 JICA 带广国际中心实施畜牧发展规划领域的赴日培训,3 年共有 15 名对口专家参加(参照资料 A-4)。

### ● 器材的提供及项目经费的支出情况

除向自治区及市县项目办公室提供项目运行所需器材之外,还向示范区(昌吉市、富蕴县)提供了开展试点项目所需器材(参照资料 A-5)。此外,作为项目经费支出 59,263,793 日元。(详细内容参照资料 A-6)

中方要求明确日方投入经费总额、器材及当地活动经费、日方专家派遣费用及赴日培训经费等各部分经费的分配情况。

## 5.1.2 成果

- (1) 成果 1: 通过在示范区开展活动,使保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目的计划制定方法和技术得到改善。

中方成立了计划制定小组,按照从乡、村干部和牧民代表那里了解到的村发展战略的思路编制了计划。通过这种工作方式及培训的实施使他们了解到自下而上制定计划的重要性及其步骤。另外逐步掌握了利用 PDCA 循环来运行管理试点项目的方法,开始理解针对监测结果进行方向性调整的步骤等,通过实施 OJT 和面向对口专家的培训,取得了计划的制定方法和技术不断得到完善的效果。

- (2) 成果 2: 通过示范区的活动,为实现保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目的技术普及体制得以加强。

培训计划的制定在自治区级以科技干部培训中心为主、在市县级以科技局为主,专家根据需要提出建议,进行补充修改后按照计划实施培训。培训业绩参照资料 B-2。

在示范村阿克旗村项目开展的工作与市、乡独立开展的工作相结合取得了事半功

倍的效果，体现在牧民观念和行动上产生了变化，畜牧业技术得到了提高。但培训成果有所显现的同时，还存在推广技术的内容及实施方法不够明确，在技术推广体系的加强方面还有待提高的问题。

### 5.1.3 项目目标

#### 【指标 1】项目实施过程中参与项目活动的自治区相关人员的数量

在为制定计划开展的调查、听取牧民意见、试点项目的实施及监测等项目活动中，日方专家与自治区相关人员相互配合开展工作，在实施过程中参与项目活动的自治区相关人员累计达到 160 人次，参加项目会议及运行工作的自治区相关人员更是达到 300 人次以上。（通过 OJT 实施技术转移的业绩参照资料 B-3）。

此外，如资料 B-2 培训业绩所示，自治区相关人员在接受日方专家培训的同时，还开展了面向市县相关人员及牧民的培训。即使 7·5 事件后日方专家不在现场工作期间，自治区科技厅依然从相关厅局聘请讲师，开展了培训及试点项目的监测活动。

#### 【指标 2】活动·培训成果在工作中的运用状况

在示范村通过采访了解到通过项目活动及培训的实施，牧民掌握的主要技术技能为：①饲草料的调制技术、②节水灌溉技术、③舍饲对冬牧场的草地保护、④乳制品销售带来的增收、⑤根据家畜数量种植饲草料的草畜平衡技术、⑥农户家庭收支记帐方法等，培训成果正通过牧民的行为方式转换逐步显现。

此外，通过向中方相关人员了解得知，项目开展的如下活动及培训成果也在牧民的实践中得到了运用：①饲草料的种植、施肥技术、②灌溉及用水管理技术、③家畜品种改良及饲养管理技术等。

乳制品销售虽被牧民加以运用，但其加工技术及市场拓展方面的课题仍有待解决。此外，关于面向行政人员的培训有如下的意见：①不单是理论知识的培训，也能够开展针对牧民需求的实践性培训了②学习了 PCM 方法并应用于项目管理等。

#### 【指标 3】示范区牧民人均纯收入的提高

如附件表 1 所示，农牧业特别是农业带来的增收明显。由于受到中方独立开展的针对定居牧民的扶持以及中国整体收入提高等因素的影响，从而很难判断由项目成果带来的直接收入。但相关人员认为牧民收入的稳定和增长以及收入来源的多样化就是项目成果。

#### 【指标 4】示范区天然草地单位面积产草量的增加

由于天然草地单位面积的产草量受气候条件等的影响而变化，且仅从小范围单位面积产草量的增减来推算出整个草原的自然恢复能力，显然数据不足。建议修改该指标（关于指标详见附件 4. PDM 修订版及修改理由）。

## 5.2 实施过程的验证

排除日方专家不在的约一年时间造成的工作延期，项目活动基本按计划进行。作为整

体方针的决策组织，联合协调委员会发挥了作用。此外，通过召开项目运行会议、对口专家全体会议等方式与相关单位做到了信息共享。项目内部沟通、项目与自治区、市及县、乡相关人员的交流均保持着良好的状态（关于会议的统计数据参考资料 D）。

特别注意事项如下：

#### (1) 实施体制

由于定居工程的特性，本项目需要开展跨领域横向配合的工作，相关人员也横跨多个部门（如图 1）。在自治区级以项目管理单位的科技厅，项目实施单位的畜牧科学院为主，在市县级以科技局为主协调各单位开展工作。此外，畜牧科学院作为项目实施单位，发挥主动意识积极开展工作。由于项目办公室也设在畜牧科学院畜牧研究所内，日常的信息共享进展顺利。

另一方面，参与本项目活动的相关各单位建立了全面的合作体制，仍不可否认也存在项目相关指示的传达及职责分工不够明确的问题。特别是试点项目的关键取决于现场的技术推广，这项工作由乡、村技术推广员开展，但其与科技厅及畜牧科学院等项目管理与实施单位间并无直接上下级关系。

## 6 按评估 5 项进行评估（详见附件 3）

### 6.1 妥当性

本项目的妥当性很高，具体理由如下：

#### (1) 优先程度

作为中国政府的开发政策，在保护退化草原及防止沙漠化方面，除实施“全国生态环境建设规划”及“草原法”、“防沙治沙法”外，十一·五规划（2006~2010 年）中明确了“通过保护天然草地、建立饲料基地、改变饲养方式等实现畜牧·奶业的可持续发展”的目标。此外，在新疆维吾尔自治区的畜牧工作会议上明确了加强草地保护·畜牧业发展及推进牧民定居的相关工作之外，在畜牧厅的牧民定居计划（2009 年 3 月颁布）中，表明要将工作的重心放在建立能满足牧民定居需要的饲草料生产基地、以及为满足生活需要的基础设施建设上。而自治区的十二·五规划（2011~2015 年）中，更是强调将继续优先推进天然草地保护及定居政策。此外，在日本“对华合作规划”中，“为处理环境问题等全球规模问题而开展的合作”为重点领域之一，本项目属于其中干旱地区生态环境保护方面的内容。

#### (2) 必要性

自治区、市县相关单位和牧民都对保护天然草地及提高定居牧民的收入水平等提高生活水平的支持、对畜牧业方面的技术支持表示出了很大的需求。

#### (3) 方法的妥当性

本项目通过在示范区开展活动，展示草地保护和提高牧民生活水平并举的定居工程的可行性，并采取将其成果进行分阶段推广的方法。考虑到游牧民尚无定居经验以及地方现行体制，该方法可谓妥当。

### 6.2 有效性（预测）

#### (1) 项目目标的完成情况

本项目大体向着实现目标的方向进行,在提高牧民生活水平方面的工作上取得了一定的成果。关于天然草地保护方面,可以认为也取得了一定的间接成果。自治区、市县级对口专家的意识及能力均开始有了提升。

但示范区的部分活动滞后,且从自治区科技厅也了解到“有必要建立可普及的综合技术支持体系”的意见,我们认为在项目后半阶段通过展示示范村初步形成或显现的成果以及中日双方为建立技术支持体系进一步加大工作力度,能够实现项目目标。

为了实现项目目标,有必要明确技术支持体系的定义及其实施体制,在中日双方形成的统一认识的基础上,研究确立技术支持体系所应采取的现实可行的方案并付诸实施。

## (2) 成果的贡献度

对口专家确立了根据示范村发展战略及牧民的需求制定活动计划并进行实施及监测,结合监测结果进行改进的项目管理模式。此外,通过面向对口专家、技术人员及牧民开展培训,提高了相关人员的意识及技术水平。成果对实现项目目标发挥了作用。

## 6.3 效率性

### (1) 投入的时机、数量及质量

除约一年时间停止派遣日方专家以外,中日双方的投入大体按计划进行。在日方专家停止派遣的一年时间里,对项目深入贯彻农业经营计划、准确的监测以及器材的投放等方面的工作产生了些许影响和滞后,但中方对口专家在此期间开展的培训及试点项目的监测工作,将该不利因素对项目的影晌减至最低。

同时,为弥补项目滞后的损失、取得切实成果,并进一步扩大项目影响,中方强烈要求日方增加投入及在恰当的时间派遣专家。

### (2) 成果的完成情况

2个示范村的成果完成情况不同。在自治区对口专家、日方专家及昌吉市项目办公室的带领下昌吉市阿克旗村的项目成果已经显现,而富蕴县恰布拉村则由于远离乌鲁木齐,自治区对口专家及日方专家赴当地进行技术指导的机会有限,以及市场条件不完备等原因,取得的成果有限。虽已制定了活动计划,但由于试点项目尚未取得显著成果,成果1的完成情况不理想。关于成果2“技术普及体制的强化”,虽通过培训引导牧民学以致用,行政人员也将培训成果应用于各自岗位,培训的成果已显现,但技术推广员的技术指导尚不充分,成果2的完成情况尚有欠缺。

## 6.4 影响

### (1) 总体目标层面的影响

在项目实施的中间阶段,很难预测最终是否可实现项目结束三年后的总体目标,而项目结束后将由中方沿总体目标的路线继续开展相关工作。如前所述,对于保护天然草地及牧民定居工程今后将继续在自治区按既定政策推进也得到了证实。

## 6.5 独立发展能力的预期

对于本项目取得成果的可持续性,有望得到中方在制度层面及财政层面的支持,因此总体来说独立发展能力很强。

### (1) 制度层面

如6.1.(1)所述,预计将进一步加大力度持续开展对天然草地保护及牧民定居政策的

支持力度。

## (2) 组织层面

项目结束后，畜牧科学院也将继续发挥天然草地保护及定居工程的技术支撑作用和职能。此外，相关行政人员的培训工作，将由自治区科技厅系统的科技干部培训中心在其业务工作中对自治区范围内的培训进行策划、制定计划并予以实施，这项工作将持续开展。在项目后半阶段，通过对乡、村级技术推广员的扶持，加大面向牧民技术指导的实施力度，可使乡、村组织层面具备独立发展能力。为保护天然草地及提高牧民生活水平，使项目成果今后得到进一步推广，需要科技厅与畜牧厅加强合作力度。

## (3) 财政层面

在扩大内需带来的资金投入之外，中国政府计划自 2011 年开始实施为期 10 年的牧民定居工程（3 亿元）及与此相关的自治区水利设施建设工程（33 亿元）。中央政府更是发表了在今后 5 年内对新疆进行数千亿投资的承诺。由此推断可以确保推动天然草地保护和牧民定居工程的经费。

## (4) 技术层面

在自治区级科技厅及畜牧科学院、市县级科技局中，按 PDCA 进行项目管理的能力在逐步提高。通过本项目指导的具备广泛应用性及扩展性的技术，有望通过技术推广员及牧民进一步得到提高。

## 7. PDM 的修改

为了使表述内容更加明确以及设定现实可行的指标，对 PDM 进行了修改。参照附件 4。

## 8. 建议

### (1) 对恰布拉村试点项目的投入

阿克旗村试点项目在现阶段已取得一定成果，今后应着力开展相应成果的落实及推广工作。

与此同时，通过本次视察，发现恰布拉村的试点项目进展不理想。由于该村座落于新疆主要牧区，信息不畅及市场条件不完备，其试点项目的成败直接成为本项目成果能否在广阔北疆地区广泛推广应用的重要因素。因此，为使恰布拉村试点项目能取得令人满意的成果，急需进行包括增加投入及整合项目资源分配在内的一系列举措。加强对牧民的指导便是其中之一，中日方均需要在当地进行更细致的技术指导。该村地处偏远，与乌鲁木齐间往来确有不便，同时也基于项目结束后可持续发展的需要，加大力度培养乡、村级技术推广员成为当务之急。此外，为增强示范效果，以及提高项目在村内的认知度，建议以履行示范户义务为前提条件，增加乳肉兼用牛接收示范户。但需注意的是，与此同时技术指导将变得更为重要，各相关部门的密切配合势在必行。

### (2) 新技术

由于牧民定居时间尚短，现在示范区引进了符合当地情况的生产及经营为中心的实用技术。毫无疑问，为了实现稳定且持续的发展，先掌握并拓展这样的实用技术最为重要。但综合考虑本项目的中日合作背景，如将来能引进日本等先进的技术和技能，势必会对扩大项目影响及推动项目发展产生一定的作用。在项目余下不算长的时间里，应着力找到相应技术并就引进事宜进行研讨。



### （3）技术支持体系

本项目相关单位虽建立了全面的合作体系，仍不可否认在基层具体实施过程中存在指示传达方面没有直接上下级关系的问题。项目实施过程中各相关单位能做到互相配合，希望项目结束后科技厅及畜牧厅等能继续密切配合，确保将项目成果进行推广的相应体系。

### （4）项目期

7·5 事件造成日方专家约一年时间不在现场工作，在中日双方的努力下已将其影响减至最低，但不可否认项目进展仍因此受到影响。在项目余下的一年半时间里，我们期待依靠中日双方的共同努力弥补损失。但如果认为在项目期内难以实现目标，则中日双方相关人员应尽早协商，就包括追加预算及项目所需最短时间段的延期等事宜进行讨论。但在探讨延期事宜时，需确认通过延期可以使项目活动充分发挥其成果。

## 附件及资料一览

附件 1 PDM 原版 (PDM ver. 0)

附件 2 活动计划

附件 3 项目中期评估一览表 (成绩、实施过程、评估 5 项)

附件 4 PDM 修订版及修改理由 (PDM ver1)

## 资料 A 项目的投入

资料 A-1 中方对口专家名单

资料 A-2 中方投入业绩

资料 A-3 日方专家派遣

资料 A-4 参加赴日培训成员名单

资料 A-5 日方提供器材一览

资料 A-6 日方项目经费

## 资料 B 项目活动

资料 B-1 项目活动业绩及完成情况

资料 B-2 培训实施情况一览表

资料 B-3 OJT 记录

## 资料 C 成果一览

## 资料 D 项目会议业绩

表 1 收入变化

图 1 本项目的实施体制

附件1 项目计划概要表 (PDM)

最高目标	指标	获取指标数据的手段	外部条件
<p>在沙漠化等生态环境恶化严重的中国干旱、半干旱地区,通过可持续农业的开展,提供牧民的生活水平,改善生态环境。</p>	<p>在新疆维吾尔自治区,通过提高牧民生活水平,推进定居工程,保护天然草地。</p>	<p>新疆自治区畜牧厅、畜牧科学院等的相关资料、访谈调查</p>	<p>退耕还草、牧民定居工程等相关政策不发生变化的。</p>
<p>总体目标</p> <p>在新疆维吾尔自治区,通过提高牧民生活水平,推进定居工程,保护天然草地。</p>	<p>1. 在新疆维吾尔自治区参考指南开展项目的数量 2. 示范项目推广计划的完成情况 3. 新疆维吾尔自治区牧民人均纯收入的增加 4. 新疆维吾尔自治区单位面积草量的增加</p>	<p>项目资料</p>	<p>自然状况不会由于干旱等自然灾害进一步恶化。</p>
<p>项目目标</p> <p>通过在示范区大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并重的可持续性定居工程的示范性措施,确立针对定居牧民的技术支持体系。</p>	<p>1. 项目期中参与项目活动的自治区级有关人员的数量 2. 项目活动及培训成果的运用状况(通过问卷调查、访谈等确认情况。) 3. 示范区牧民人均纯收入的增加 4. 示范区天然草地单位面积草量的增加(具体指标,根据项目第1年的基础调查结果设定。)</p>	<p>项目资料</p>	
<p>成果</p> <p>1. 通过在示范区开展活动,改进保护天然草地和提高牧民生活水平并重的可持续性定居项目的计划制定方法和技术。</p> <p>2. 为开展可实现保护天然草地和提高牧民生活水平并重的可持续性定居项目进行技术推广的体制得以加强。</p>	<p>1-1 试点地区村民委员会同意项目制定的规划内容。 1-2 试点项目按计划实施。 1-3 中方相关人员认可项目提出的技术建议(通过问卷调查、访谈确认技术建议的实用性。)</p> <p>2-1 按照培训计划接受培训的行政人员、牧民的人数 2-2 培训内容的评价结果(通过问卷调查、访谈向参加培训的人员确认) 2-3 采用通过项目引进的技术的牧民的人数</p>	<p>项目资料</p>	<p>牧民接受项目目的实施。</p>
<p>活动</p> <p>1. 通过在示范区开展活动,改进计划制定方法和技术</p> <p>1-1 在示范区开展天然草地和水资源等自然资源调查,牧民家庭构成和生活状况等社会经济调查,农业经营状况调查(家畜的饲养、饲料作物等的栽培、市场情况等)、灌溉设施等基础设施的现状调查以及关于未来计划的调查等,在掌握现状和课题的同时,针对部分课题进行改进。</p> <p>1-2 根据1-1的结果,制定符合示范区现状的天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水资源利用计划。</p> <p>1-3 根据示范地区的天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水资源利用计划,确定在部分示范地区实施的天然草地保护提高牧民生活水平的试点项目的内容,制定试点项目。</p> <p>1-4 按照活动计划实施试点项目。</p> <p>现阶段预想的试点项目的内容如下。</p> <p>1-4-1 改进牧草、饲料作物、自给和经济作物等的栽培技术和水资源管理技术。</p> <p>1-4-2 改进饲料加工和调配技术、家畜饲养生产技术。</p> <p>1-4-3 调查天然草地的恢复情况。</p> <p>1-5 对试点项目进行检测和评估。</p> <p>1-6 将示范区的活动内容制成计划制定指南、技术指南。</p> <p>2. 强化技术推广体制</p> <p>2-1 掌握示范区的技术推广体制(草地管理、畜牧、节水灌溉、农业经营等方面)的现状和课题,制定示范区技术普及体制的完善计划(包括培训计划)。</p> <p>2-2 根据培训计划,在示范地区针对市、县和乡镇行政管理、开展牧民定居项目的计划制定及实施方面的培训。</p> <p>2-3 根据培训计划,在示范地区针对市、县和乡镇技术推广人员,开展对牧民进行技术指导方面的培训。</p> <p>2-4 根据培训计划由市、县和乡镇技术推广人员针对示范地区牧民开展草地管理、畜牧、节水灌溉、农业经营等方面的培训。</p> <p>2-5 制定示范地区推广计划。</p>	<p>投入</p> <p>日方投入</p> <p>(1) 派遣专家 • 日本专家负责人/草地管理 • 栽培/饲料生产 • 家畜饲养 • 水资源利用计划/水资源管理 • 培训计划/完善技术推广体制 • 农户经营/市场调查</p> <p>(2) 赴日培训 • 在日本相关机构进行培训。 • 人数根据每年的培训计划决定。</p> <p>(3) 器材 • 车辆 • 技术推广和测量必要器材 • 实施试点项目的必要器材 • 办公设备等 • 其他</p> <p>(4) 活动经费 • 培训所需经费(教材制作费、讲师酬金等) • 试点项目的实施经费 • 专家交通费</p>	<p>中方投入</p> <p>(1) 配备人员 • 自治区级25名 • 市、县级20名</p> <p>(2) 配备设备/设施</p> <p>(3) 培训经费 • 参加培训人员的交通费 • 会场费用等</p> <p>(4) 项目实施运营费</p>	<p>前提条件</p> <p>• 相关部委作为合作机构参加项目。 • 牧民接受项目目的实施。</p>



附件3 新疆天然草地生态保护及牧民定居示范项目中期评估一览表

项目业绩验证	评估六项目	调查中项目	调查小项目：PDM指标等(实际业绩)、问题(实施过程及评估5项)	所需数据及收集方法	调查结果
1. 投入业绩	1.1 中方投入	①配备C/P ②设施及器材(专家办公室等) ③项目运行经费	①准备C/P ②设施及器材(专家办公室等) ③项目运行经费	项目报告书	按照计划实施。(参照资料A-1, A-2)
	1.2 日方投入	①派遣专家 ②赴日研修 ③提供器材 ④项目运行经费	①派遣专家 ②赴日研修 ③提供器材 ④项目运行经费	项目报告书	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本按照计划实施(参照资料A-3, A-4, A-5, A-6)。日方专家的派遣有变化。</li> <li>由于专家所在单位的机构调整,第二年度累计缩短了1.43MM,第二年度调整了家畜养殖领域以及农户经营/市场调查领域的派遣专家,第三年度乌鲁木齐发生了“7.5事件”之后,2009年7月开始有近1年时间里日方未能派遣专家。</li> </ul>
2. 成果的实际业绩	成果1 通过示范区开展活动,改进保护天然草地和提高牧民生活水平并行的可持续发展项目的计划制定方法和技术。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①在示范区村民委员会的说明和建议结果</li> <li>②相关人员意见(采访)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①在示范区村民委员会的说明和建议结果</li> <li>②相关人员意见(采访)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①成立计划制定小组</li> <li>②对现有定居工程进行评价,整理现有工程项目的目录,并进行评价</li> <li>③收集现有数据,现场了解情况,收集现有信息,向当地相关人员及牧民了解情况</li> <li>④讨论示范村的发展方针:乡、村干部通过与村民的谈话,确认村发展方针</li> <li>⑤制定计划:天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、技术推广完善计划</li> </ul>	<p>示范村的乡、村干部听取了村民的意见后确定村发展方针并据此以自治区、市县的C/P为主制定了计划,所以可以判断得到了村民的同意。</p> <p>计划制定步骤如下:</p>
	成果2 通过示范区的活动,为实现保护天然草地和提高牧民生活水平并行的可持续发展项目的技术普及体制得以加强	<ul style="list-style-type: none"> <li>①试点项目实施计划</li> <li>②试点项目监测报告</li> <li>③相关人员意见(采访)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①试点项目实施计划</li> <li>②试点项目监测报告</li> <li>③相关人员意见(采访)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>试点项目的进展状况两个示范村各不相同。霍城县恰布拉克村远离乌鲁木齐,日方专家和县级C/P去现场指导的机会也有限,进展有些慢。(参照资料B-1)</li> <li>(试点项目的反馈)</li> <li>第二年度开始实施试点项目,前半阶段主要以器材投入为主,大部分活动的监测工作是从第三年度正式开始,在自治区、县、市的管理监督下,由乡、村的技术推广人员予以实施,但由于“7.5事件”的影响,日方专家有近一年没有开展现场工作,期间由中方实施了监测工作并将其结果提供给日方专家。虽然日方专家进行了整理和分析,但还没有将其反映到试点项目中。从第四年度继续开展这项工作。</li> <li>从示范村牧民那里了解到,他们学习了项目指导的技术并付诸实践,取得了一定的成果。另一方面,C/P又认为“项目指导的技术都是中国传统的技术,并没有引进日本技术”。</li> </ul>	<p>培训业绩参照资料B-2。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·面向行政人员的培训,主要由日方专家策划,制定方案,并担任讲师予以实施。</li> <li>·面向技术推广人员及牧民的培训,在自治区级主要是由科技干部培训中心、市、县级主要由科技局制定培训计划,确定培训对象及人数等。</li> </ul> <p>在与市、县级C/P和牧民的访谈中,他们评价培训内容很有效。具体如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·牧民培训-昌吉市阿瓦提村) <ul style="list-style-type: none"> <li>①提高了饲料调制技术(具体事例:以前不掌握青贮技术,参加培训后能够在玉米成熟前调制青贮饲料了。</li> <li>②建设了节水灌溉设施,增加了农作物产量,也节约了水资源。</li> <li>③冬季实践了舍饲养殖,推动了草地保护。</li> <li>④开始销售乳制品,增加了收入。</li> <li>⑤学到了青贮四看技术。</li> <li>⑥学到了乳牛饲料的调制方法并进行了实践。</li> <li>⑦迄今为止的种植品种比较单一,现在开始种植经济作物等多种作物。</li> <li>⑧牧民的田间管理技术得到了提高,具体来说,能够掌握施肥的数量、时机及需要什么样的化肥等</li> <li>⑨了解并增长了病虫害防治的措施和知识。</li> <li>⑩饲料地是饲料作物、经济作物、粮食作物的三元结构。虽然国家对三种作物的比例没有规定,但为了取得示范效果,指导示范户在依据饲料作物的基础上,来制定粮食2种作物的比例。在日方专家的指导下,示范户能够根据家畜数量来制定种植计划了。</li> </ul> </li> <li>(牧民培训-恰布拉克村) <ul style="list-style-type: none"> <li>①学到了掌握玉米施肥的量和时机、青贮玉米的调制、饲养方法、草畜平衡的方法等并付诸实践。</li> <li>②学到了家庭收支记账的方法,能够掌握家庭的收支情况了。</li> <li>③通过培训,能够保证充足的饲料之后,也能够对抗自然灾害了。去年虽然发生了特大雪灾,但损失很小。</li> <li>④学到了挤奶的卫生知识。项目结束后也希望继续下去。</li> <li>⑤以前不会家庭收支记账,现在开始记账的农户增加了,可以掌握家庭每年的收支情况了。收入提高了,特别是乳制品、玉米、苜蓿的收入也增加了。</li> </ul> </li> </ul> <p>(面向行政人员的培训)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·运用演示说明培训中所学到的方法,取得了很好的效果。在参加培训前也担任过牧民的培训,但只是传授理论的知识,参加培训后,把握牧民的实际需求,根据不同年龄和文化水平开展培训,能够实施符合需求需求的培训了。</li> <li>·PCM的培训作为项目的管理方法非常有效,今后希望在中方独立实施的项目中加以应用。</li> <li>(自治区科技厅)</li> <li>·科技干部培训中心迄今为止举办的主要是关于技术革新等实观内容的培训,项目举办的培训内容比较具体,在示范区不仅面向县、市、乡的干部,同时县面向牧民推广了知识,提高了能力。</li> </ul>

评估大项目	调查中项目	调查小项目;PDM指标等(实际业绩)、问题(实施过程及评估5项)	所需数据及收集方法	调查结果
	<p>指标3: 采用项目引进技术的牧民人数。</p> <p>是否明确了技术推广的实施体制、战略方针并且项目相关人员对此达成了共识?</p>	<p>相关人员意见(采访)</p> <p>相关人员意见(采访)</p>	<p>五户正在接受培训的牧民在继续实践,具体在巩固上。</p> <p>本项目建立局在开原县技术推广(市、县、乡、村)工作的工具和人才培养。中国已经建立了技术推广体系,但有必要进一步加强。通过访谈调查,示范区原有的技术推广体制如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①市级: 300人,分别属于科技局、农业局,不定期到村里进行指导。工资及活动经费由市财政拨款。</li> <li>②乡级: 人数不明,分别属于兽医站及兽医站等。根据专业不定期进行技术指导。工资及活动经费由市财政拨款。</li> <li>③村级: 1300人,被称为农民技师,分初级、中级和高级职称,由当地人在村里进行技术指导。市里给予一定的补助,对提供的技术服务收取费用。</li> <li>④针对牧民的需求进行指导。开展疾病、病虫害等各种各样的调查,并根据需要提醒牧民注意,提供相关信息。</li> <li>⑤行政单位对村的技术支持体制在项目启动前就已经确立,项目开始后在阿瓦旗村派发了专职的推广员。</li> <li>⑥市政府要求各单位对技术推广员的培训每年不得少于100小时,时间在3天-10天左右。</li> <li>⑦上述培训为再提高培训,技术推广员毕业于专业学校,具备成为技术推广员的基础知识。</li> <li>⑧(盖县县信布拉克村)</li> <li>⑨技术推广员(兽医)带班村里,由于接受过培训,有能力开展技术指导。</li> <li>⑩按照不同领域(农业领域、畜牧领域)在村里安排了技术推广员,一人负责多个村子。</li> <li>⑪技术推广员毕业于专业大学,具备相应的知识和技术,有能力解决村里出现的问题。乡、村无法解决的向上级单位请求支援。</li> <li>⑫乡政府开展各种培训。</li> <li>⑬现场培训: 派技术人员和专家去村里,组织村民实施培训。</li> <li>⑭根据出现的问题,有常驻村里的技术推广员进行指导。</li> <li>⑮为提高技术推广员的水平,由自治区专家担任讲师开展指导。</li> <li>⑯组织村民到县培训中心参加集中培训。</li> <li>⑰培训分“科技之冬”、“科技之夏”、“科技之秋”、“科技之春”。</li> <li>⑱也建立了科技特派员制度,开展不同领域的培训,在各村的科技文化活动中对乡、村进行指导。</li> <li>⑲各县的培训根据自治区下达的通知,由各单位编制培训计划。</li> <li>⑳而畜牧员的培训也采取点菜式。牧民向谁提出需求,由谁谁相应的专家。</li> </ul>	
项目目标	<p>通过示范区大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并重的可持续发展性定居工程的示范性措施,确立针对定居牧民的技术支持体系。</p>	<p>指标1: 项目实施期间参与项目活动的自治区级有关人员的人数</p>	<p>①项目报告书 ②会议备忘录 ③培训、研讨会报告书</p>	<p>OUT(业绩及参加人数参照资料B-3),项目会议(参照资料D),培训(参照资料B-2),自治区的相关人员参与了项目活动。以项目管理单位自治区科技厅,项目实施单位畜牧科学院为主,其他合作单位也根据需要参加了活动。</p>
项目目标的实际业绩	<p>指标2: 项目活动及培训成果在定居工程中的运用状况(通过问卷调查、采访调查进行确认。)</p>	<p>相关人员意见(问卷、采访)</p>	<p>除前面提到的“培训内容的评价结果”提到的培训结果的运用情况外,从畜牧科学院的采访结果表明,牧民的观念有了转变,并在实际行动上发生了如下变化。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①能够做到根据家畜数量决定饲料的种植。</li> <li>②从游牧转变为科学饲养的生产方式,发展畜牧业来提高收入。</li> <li>③正在逐渐确立饲料作物、经济作物和粮食作物的轮种方式,这样有助于提高土壤的肥力。</li> <li>④编制了哈萨克文的技术手册和资料,正在逐渐确立科学的养殖技术和种植技术。</li> </ul>	
	<p>指标3: 示范区牧民人均纯收入增加。</p>	<p>①项目报告书 ②相关人员意见(采访)</p>	<p>根据日方专家收集的资料,养殖业带来的收入有增长的趋势,但要计算项目活动带来的增长比例比较困难,应该是受到中国独立开展的工作和社会大环境的影响,详细参照表1。</p> <p>(昌吉市阿克那村(2007/2008/2009、)单位:元/人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·纯收入: 6084/8099/9262</li> <li>·养殖业收入: 5054/9175/9015</li> <li>·农业收入: 5375/4499/5995</li> </ul> <p>(盖县县信布拉克村(2007/2008/2009、)单位:元/人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>·纯收入: 2561/2841/3437</li> <li>·养殖业收入: 1884/1995/2603</li> <li>·农业收入: 1242/1506/1635</li> </ul>	
	<p>指标4: 示范区天然草地的单位面积产草量增加。(具体指标数值根据项目第一年开展的基础调查设定。)</p>		<p>本项目指标由于受到项目以外的原因的影响较大,因此没有收集资料。</p>	

Handwritten signature or mark.

评估大项目	调查中项目	调查小项目:PDM指标等(实际业绩)、问题(实施过程及评估5项)	所需数据及收集方法	调查结果	
总体目标的实际业绩(预计)	在新疆维吾尔自治区,通过提高牧民生活水平,推进定居工程,保护天然草地。	是否明确了技术支持的实施体制、战略方针并且项目相关人员对此达成了共识?	相关人员意见(问卷、采访)	<p>本项目通过开展培训来提供技术支持,但是培训的战略方针及要实现的目标不明确。专家对项目目标的“确立技术推广体制”和“技术支持体系”具体是指什么做了如下说明。技术支持体系定义如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科技干部培训中心,举办面向市、县、乡行政人员的培训,开展人才培养。</li> <li>科技干部培训中心,针对开展定居工程的市、县、乡干部及负责人,通过培训和参观先进地区,对推动定居工程所需的,符合自然、社会、经济状况的定居发展策略的制定方法,POCA周期项目管理方法进行支持。</li> <li>(市、县)</li> <li>科技局在相关单位中选派通过培训等掌握了知识和技术的人员担任讲师,开展对牧民的技术指导。</li> <li>科技局通过培训、现场指导、参观先进地区等对牧民开展草地管理、养殖、种植、饲料生产、土地利用、水资源管理、农户经营等实用技术的支持。</li> </ul> <p>目前还没有编制技术手册,所以无法判断。据专家介绍技术手册的定义如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>负责推广单位:日方专家和中方C/P</li> <li>负责推广单位:科技厅、科技干部培训中心、市、县科技局</li> <li>内容、目的:</li> <li>计划制定指南:为了减少家畜对天然草地的负荷,提高牧民生活水平,在定居村有限的水土资源下制定符合自然、社会、经济状况的定居村发展战略的方法,通过培训和参观先进地区对根据POCA周期进行项目管理的技术提高支持。</li> <li>技术手册:记载本项目在各领域开展活动的目的、实施方法、监测、整理分析、反馈改进等实例,作为根据POCA进行项目管理的参考资料。</li> <li>使用对象:市、县、乡负责实施定居工程的人员、技术推广人员</li> <li>批准单位:自治区科技厅</li> </ul>	
		指标1: 在新疆维吾尔自治区参考(本项目)技术手册实施项目的数量。	相关人员关于总体目标实现可能性的意见(问卷、采访)	<p>目前还没有编制推广计划,所以无法判断。据专家介绍推广计划的定义如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>负责推广单位:畜牧科学院、科技干部培训中心、市、县科技局</li> <li>负责推广单位:同上</li> <li>内容、目的:使本项目成果得以扩大。</li> <li>使用对象:市、县、乡负责实施定居工程的人员、技术推广人员</li> <li>批准单位:自治区科技厅</li> </ul> <p>目前,示范村牧民的收入呈增长趋势,这与中国独立开展的工作及社会大环境等的促进作用相结合产生非半功倍的效果,今后仍有继续推广。</p>	
		指标2: 示范项目推广计划的完成状况。			
		指标3: 新疆维吾尔自治区的牧民人均纯收入得以增加。			
1 工作进展情况	工作进展情况	工作是否按计划实施?	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访)	<p>根据畜牧科学院公布(2003年3月)的数据,现有牧民27.58万户共116.47万人,其中真正达到定居标准尚占38.6%,新疆将在2011年至2020年期间,力争使16.93万户、76万多名牧民实现定居。这与中国独立开展的工作相结合产生非半功倍的效果,目标有望实现。</p> <p>活动业绩参照B-1。活动基本按计划进行,完成调查和物资器材的投入,在开始进入现场指导的阶段时,日方专家的派遣中止了近一年的时间,导致培训及现场的技术指导的工作很有限。</p>	
		①项目相关单位的职责是否明确且达成共识? ②对于开展试点项目,相关单位的职责是否明确且达成共识? ③对于开展培训,相关单位的职责是否明确且达成共识?	相关人员意见(问卷、采访)	<p>新疆维吾尔自治区各相关部门合作开展“科技之冬”等培训已经持续了20年以上,积累了一定的经验。本项目是科技厅申报的项目,科技厅和科技局发挥协调各相关部门的作用,其他相关单位配合科技厅和科技局开展工作。项目管理单位为自治区科技厅,实施单位为畜牧科学院,但也包括试点项目的实施在实施现场的技术指导都以各市、县和乡为主,在技术推广方面,自治区级和现场负责技术推广单位之间无直接上下级关系。</p>	
2 项目的运行管理	2.2 决策过程	项目日常工作决策是如何做出的?其过程是否恰当?	相关人员意见(问卷、采访)	<p>本项目自治区的项目办公室在实施单位畜牧科学院内,日方专家与项目中方组长畜牧科学院畜牧研究所所长以及畜牧科学院的相关人员随时可以沟通。日常工作决策开展顺利。召开的会议如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>《联合协调委员会》</li> <li>第一年度:IC/R的编制和讨论。</li> <li>第二年度:上一年度工作进展情况的汇报及本年度活动计划的说明。</li> <li>(项目运行管理会议)</li> <li>从第2年度开始,以试点项目的实施为契机,作为与自治区C/P、示范区项目公共信息共享、解决问题的一个平台,开始省市自治区实际开展业务相关人员参加的项目运行会议。</li> </ul>	
		2.3 监测工作	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访)	<p>①除联合协调委员会以外,每年召开会议,汇报项目工作并讨论下一年度活动计划。 ②试点项目的监测,主要由乡、村技术人员承担,在草地管理领域,由市、县专业技术人员承担。根据不同领域、不同课题编制了“试点项目活动来”,这样在实施中可以较为容易地把题目的、实施内容、投入、监测方法、活动状况、技术性等问题等。各领域的监测结果,由示范区项目办回收,检查内容后上报自治区项目办。 ③对于培训的监测,方针和实施体制没有明确,日方专家在前往现场时随时监测。</p>	

Handwritten signature or mark.



评估大项目	调查中项目	调查小项目: PDW指标等(实际业绩)、问题(实施过程及评估5项)	所需数据及收集方法	调查结果
项目是否具备妥当性?	1.2 必要性	项目目标现在是否仍然与对象地区及受益者的需求相一致?	相关人员意见(问卷、采访)	<p>根据对C/P和牧民的访谈结果,对本项目的需求很高。“天然草地保护”和“提高牧民生活水平”不仅是国家也是新疆自治区优先开展的重要工作,要使牧民过上稳定的定居生活,对畜牧业进行必要的技术指导必不可少。</p> <p>新疆维吾尔自治区,可利用天然草地48万km<sup>2</sup>,但1950年以来,随着肉类需求的增长和人口的增加,家畜对天然草地(特别是冬草场和春秋牧场)带来了巨大的负担,85%的天然草地正在退化。为了减轻对严重退化的冬牧场的负担,新疆维吾尔自治区政府采取了冬季舍饲圈养与夏季放牧相结合的经营方式,达到稳定牧民生活、保护和恢复天然草地的目的。新疆政府的目标是,通过发展定居地的畜牧业,实现收入多元化,减轻天然草地压力的目的。原来从事游牧的牧民缺乏舍饲圈养的经验,能对牧民进行新的必要技术指导的必要性非常高,因此对本项目的培训需求很高。</p>
评估5项	1.3 方法是否恰当	<p>①对对象地区的选择是否合适?</p> <p>②示范户20户、重点户5户的选择是否合适?选择标准是否明确并且合适?是否得到相关人员的同意?</p>	相关人员意见(问卷、采访)	<p>①两个示范户隶属于为牧民定居而建设起来的村庄,现已具备了必要的基础设施,但缺乏农业经营技术,所以将之作为以技术合作为目的的本项目的示范户是非常合适的。另外,选择与消费大城市乌鲁木齐交通便利和交通不便的两个地区,可以分别形成不同类型的模式,对其他地区的适用性也很高,是合适的。</p> <p>②示范户是由中方根据天然草地的利用方式、养殖方法、土地利用方法等,全盘考虑,注意不偏重某一方面来选择。20户示范户仅占总户数的10%,中方强烈要求扩大示范户的数量。另外,在集中收入和重点户5户示范户时,也提出了要对20户示范户一同履行的强烈要求。日方专家与C/P去村开展了工作。2011年度将对示范户非重点户的15户示范户提供同样的投入。关于20户示范户缩小为5户重点户的做法,畜牧科学院C/P与市、县级C/P的意见不统一,项目相关人员内部之间有必要统一意见。</p>
2. 有效性(预测)	1.4 事前评估后,项目外部环境是否发生变化	影响项目的政策、经济、社会、自然环境是否有变化?	相关人员意见(采访)	<p>本项目通过展示示范户投入的成功事例以便向非示范户、其他地区进行推广,在昌吉市阿克萨村,示范户和非示范户组成一个小组,开始出现牧民向技术传授的动向。对富蕴县恰布拉克村牧民的访谈结果表明,在示范户推广方面有以下2点:</p> <p>①非示范户对种植技术、记账、养殖方法很关注。县在举办培训时,除示范户以外扩大到更多牧民,还请示范户在培训时介绍自己的事例等。</p> <p>②非示范户有向附近的示范户请教,非示范户也看到了项目活动对收入的影响,积极性很高。</p> <p>但是,恰布拉克村的20户示范户还不能说已经取得了示范户的成果,不是对示范户的集中投入取得的结果就一定能够推广到非示范户推广的方向发展。</p>
2.1 项目目标的实现程度	2.1 项目目标的实现程度	项目目标是否有望实现?	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访)	<p>发生了特大干旱,延误了饲料作物的播种、施肥等,项目活动受到一定的影响。</p> <p>阿克萨村在“草场保护”和“提高生活水平”两方面都取得了效果,但恰布拉克村还没有显示出明确的效果。自治区科技厅提出了“有必要建立能够推广的综合性技术支持体系”的看法,必须要明确为实现“草地保护”和“提高生活水平”并举的“定居工程”的技术支持体系的定义,并且与相关人员形成统一认识,进一步明确开展工作的方针。</p>
2.2 成果的贡献度	2.2 成果的贡献度	项目目标作为产出的结果能否实现?	PDW、相关人员意见(采访)	<p>通过在示范户开展活动,改进保护天然草地和提高牧民生活水平的可持续性定居项目的计划制定方法和技术(成果1),可持续性定居工程的人才得到培养(成果2),通过这两项成果可以认为将对建立技术支持体系作出贡献,可以说成果与项目目标存在因果关系,但有必要明确成果2“技术推广体系”与项目目标“技术支持体系”的定义。</p>
2.3 外部条件对从成果到实现项目目标的影响	2.3 外部条件对从成果到实现项目目标的影响	有无外部条件?	相关人员意见(采访)	<p>存在自然环境、市场、治安等外部因素,应该在考虑这些外部因素的基础上建立成功的模式。</p>
2.4 影响有效性的其他因素	2.4 影响有效性的其他因素	促进和阻碍项目目标实现的因素是什么?	相关人员意见(问卷、采访)	<p>没有。</p>
3.1 成果1的产出情况	3.1 成果1的产出情况	(1) 在项目结束前成果是否有望实现?	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访)	<p>虽然试点项目按照计划推进,但在示范户还没有取得看得见的成果,有必要取得对非示范户来说也是非常具有吸引力的成果。</p>
		(2) 开展的活动对于产出成果是否充分?	相关人员意见(问卷、采访)	<p>专家对介绍自治区C/P的能力提高了,具体如下:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>从乡、村干部及牧民代表等农牧民发展方针,按照其意愿制定计划等,了解了自下而上制定计划的必要性和步骤。</li> <li>用PDW周期进行试点项目运营管理的方法正在逐渐得到理解,并且开始逐渐理解根据检测结果进行方向调整及其步骤等。</li> <li>项目启动后,具备市场调查、收集农户经营相关数据及一定的分析能力,但不具备如何使其在项目中得到有效运用的能力。现在通过OJT、培训,逐渐提高了这一能力。</li> <li>以前没有对定居地畜牧业的经营计划、经营规模、收支计划等制定过系统的计划,借助项目的实施,提高了制定这些计划的认识并能向农户进行指导了。</li> <li>以前的饲料生产缺乏计划性,但现在能够对草畜平衡的种植计划以及粗饲料的生产计划进行指导了。另外虽然以前没有生产过青贮饲料,但通过特别是阿克萨村C/P主动开展技术指导,现在可以生产了。在饲料作物的种植方面,也开展考虑考虑土壤分析数据来进行合理的施肥管理。另外开展了堆肥技术和土壤改良的认识提高了。</li> <li>C/P提出了“通过制定5项计划,为实践保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程的技术支持体系的雏形已经形成”的意见。</li> <li>技术手册的定义如前面所述。</li> </ul>

Handwritten signature or mark.



评估大项目	调查中项目	调查小项目、PDM指标等(实际业绩)、问题(实施过程及评估5项)	所需数据及收集方法	调查结果
3. 效率性	3.2 成果2的产出情况	(1) 在项目结束前成果是否有实现? (2) 开展的活动对于产出成果1是否充分? ①活动2-5制定元范推广计划的方针是否明确?(体制、内容、使用者、对象群体、批准单位等) ②示范推广计划是否能够适用不同情况的牧民?	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访)  相关人员意见(问卷、采访)  PDM、相关人员意见  投入业绩 相关人员意见(采访)	2个示范村的成果完成情况不同。在自治区对口专家、日方专家及昌吉市项目办公室的带领下昌吉市阿克赛村的项目成果已经显现，而高梨县恰布拉克村则由于远离乌鲁木齐，自治区对口专家及日方专家赴当地进行技术指导的机会有限，以及市场条件不完善等原因，取得的成果有限。虽已制定了活动计划，但由于试点项目尚未取得显著成果，成果1的完成情况不理想，关于成果2“技术普及体质的强化”，虽通过培训引导牧民学习以致用，行政人员也将培训成果应用于各自岗位，培训的成果已显现，但技术推广人员的技术指导尚不充分，成果2的完成情况尚有待欠缺。  可以认为开展了充分的培训实现了成果2的产出。 据专家介绍的元范推广计划的定义如下： · 负责编制单位：畜牧科学院、科技干部培训中心、市、县科技局 · 负责推广单位：同上 · 内容、目的：使本项目成果得以辐射的计划。 · 使用对象：负责实施定居工程的人员、技术能推广人员 · 批准单位：自治区强技厅 ①满足。 ②没有。
3.3 外部条件对取得成果的影响	3.3 外部条件对取得成果的影响	①外部条件是否满足? ②有无其他的外部条件?	PDM、相关人员意见	按计划实施。
3.4 投入的时机、质、量对实现产出的恰当程度	3.4 投入的时机、质、量对实现产出的恰当程度	(1) 中方投入的规模、时机是否恰当? (2) 日方投入的内容、规模、时机是否恰当?	投入业绩 相关人员意见(采访)	前面已经提到除日方专家中止了近一年的派遣之外，基本按照计划实施。但存在以下问题有待改善。 · 每年春季开始播种时日方专家不在现场是一个大问题，第5年度将在开始种植工作时安排日方专家。 · 自治区科技厅及高梨县恰布拉克村都提出拖拉机的马力太小，土地难以耕种，器材无法满足需求。但是拖拉机是中日双方共同购买的。 · 自治区科技厅及畜牧科学院提出希望改建建设日进修的要求。畜牧科学院希望建设日进修的要求。畜牧科学院希望建设日进修的要求。 · 加工技术很有必要。 · 中方提出希望进一步加大日方的投入力度。
3.5 与相关单位的合作	3.5 与相关单位的合作	①与“草原节水灌溉项目”合作的具体事例 ②是否有效利用了其他可利用资源?	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访)	①邀请“草原节水灌溉项目”的专家担任培训讲师。 ②对牧民的培训中，部分培训教材也借鉴了相关单位、相关项目(CIDM)可持续传统农业发展项目(2004-2008)、世界银行甘肃省新疆维吾尔自治区草畜开发项目(2004-2009)的成果。
3.6 影响效率性的其他原因	3.6 影响效率性的其他原因	①2009年7月禁止来华、专家派遣的延期对项目是否有影响?采取的解决办法是否恰当? ②从20户示范户中选择5户重点户时，是否对其他农户产生不好的影响? ③有无阻碍和促进项目效率性的其他因素?	①项目报告书 ②相关人员意见(问卷、采访) 相关人员意见(问卷、采访)	推迟了计划实施的投入和与此配套的培训，第4年度活动顺延了。但前面提到在日方专家不在期间，中日双方采取一切办法尽量把对项目活动的负面影响降到最低程度。  不断有要求希望20户示范户一视同仁。2011年度，在附加条件的原则上，计划在恰布拉克村把以前只对重点户培训的牛也提供给他15户。
4. 影响(预期)项目的实施是否产生辐射效果?	4.1 实现总体目标的可能性	①总体目标作为项目的结果能否实现? ②外部条件是否恰当?有无其他外部条件? ③有无阻碍总体目标实现的因素	①PDM(总体目标和项目目标的关系) ②相关人员意见(问卷、采访) ③PDM ④相关人员意见(问卷、采访)	项目期还在实施过程，在现阶段难以判断总体目标实现的可能性。如果今后通过试点项目的实施可以取得看得见的示范村成果，能够总结出具体实例，而且也能确立技术支持体制的话，是有可能通过与中方工作相互促进最终实现的。  项目外部条件是“政策没有改变”，因此有望满足。
4.2 其他影响	4.2 其他影响	项目的实施，有无产生其他预期外的正、负面影响(没想到的可能性)有无发生家畜数量的增加造成对草地的负荷(盐碱地)如有发生，是否采取	相关人员意见(问卷、采访) 相关人员意见(问卷、采访)	作为项目的管理单位发挥协调职能的科技厅和作为项目的实施单位推进定居工程的畜牧厅之间的进一步合作是必不可少的。  无
5.1 制度方面	5.1 制度方面	预计今后是否还会继续实施保护天然草地和牧民定居政策吗?	①项目报告书 ②相关人员意见(采访)	恰布拉克村有些地方发生了比以前严重的盐碱化现象。为了解决这一问题，第4年度计划追加修建排碱渠，因为担心排水会造成河流盐分浓度增高，要继续加以监测。  无论是中央政府还是新疆维吾尔自治区，都在逐步加强“天然草地保护”和“牧民定居政策”。除了原本的计划和法律制定以外，据畜牧厅介绍，自治区的十二五计划(2011-2015)中计划①实现1.5亿亩荒漠草原永久禁牧，②5.5亿亩山区和平原牧场逐步减牧、休牧和轮牧。另外，中央政府也在十二五计划中已经提出要全面加强“天然草地保护”和“定居政策”的方针，中央政府在这方面的投入预计会增加。

5/11

评估大项目	调查中项目	调查小项目: PDM指标等(实际业绩)、问题(实施过程及评估5项)	所需数据及收集方法	调查结果
		<p>①关于项目结束后成果的特性和推广, 自治区有无制定方针、战略? (有无制定方针、战略的计划?)</p> <p>②关于项目结束后成果的特性和推广, 市、县有无制定方针、战略? (有无制定方针、战略的计划?)</p> <p>③项目结束后C/P(自治区、市、县)能否被安排到相关岗位上?</p> <p>④保持和推广项目成果的相关单位的职责是否明确?</p> <p>⑤与相关部门的合作是否紧密、项目结束后是否也能继续?</p>	<p>相关人员意见(问卷、采访)</p> <p>相关人员意见(问卷、采访)</p> <p>相关人员意见(采访)</p> <p>相关人员意见(采访)</p> <p>相关人员意见(采访)</p>	<p>现在还没有具体的推广方针和策略, 对自治区政府进行汇报和给出提案, 而非推广工作, 由自治区政府指定的单位来承担。</p> <p>现在还没有具体的推广方针和策略, 越接近项目点, 就越难分清是由哪个单位来承担项目成果的继续发展和普及的任务, 今后要从独立发源能力的角度出发, 以关键单位为核心开展相关活动。</p> <p>自治区级、市级政府对专家有望能够继续从事相应工作, 但也有调动到其他单位、其他领域的情况。另外, C/P中有些是已经退休或者即将退休, 这有可能会影响到项目结束后工作的继续发展。</p> <p>项目结束后, 畜牧科学院也将继续发挥天然草地保护及定居工程的技术支撑作用和职能。此外, 相关行政人员的培训工作的, 将由自治区科技厅系统的科技干部培训中心在其业务工作中对自治区范围内的培训进行策划、制定计划并予以实施, 这项工作将持续开展。</p> <p>在“科技之冬”等培训活动中, 相关单位之间合作开展培训, 横向合作将有望持续开展。</p> <p>在这一方面有以下投入, 预期可以保持下去。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· 2008年10月推出4亿扩大内需政策; 在自治区, 除了实施家电下乡和农村流通网络建设项目之外, 还通过农机具、良种补贴提高农民生产积极性。</li> <li>· 牧民定居工程(2011年开始10年3亿元); 与此相配套, 在自治区正在实施水利设施建设(33亿元)26处。</li> <li>· 中央新疆工作座谈会(2010年5月); 中央政府承诺在今后5年内向新疆投入数千亿元的投资。</li> <li>· 无论是自治区还是市县级, 原本就在实施培训工作, 也有相应的预算, 可以借这些培训的时机将项目活动持续下去。</li> <li>· 由于昌吉市对农牧区的培训计划在2011年投入40万元, 还有乡里也会投入60万元, 所以, 在昌吉市阿克萨村, 将培训持续下去有充足的可能性。</li> </ul>
5.2 组织方面		<p>①保持和推广项目成果的相关单位的职责是否明确?</p> <p>②与相关部门的合作是否紧密、项目结束后是否也能继续?</p>	<p>①各单位的预算情况</p> <p>②相关人员意见(问卷、采访)</p>	
5.3 财政方面		<p>C/P(自治区、市、县)实施项目的资金是否能得到充分保证, 项目结束后也能有望得到保证吗?</p>		
5.4 技术方面		<p>(1) &lt;C/P(自治区、市、县)的技术能力&gt;</p> <p>①项目结束前, C/P能否掌握独立计划、实施、监测相关活动的的能力?</p> <p>②项目结束前, 哪方面问题有待进一步提高?</p>	<p>相关人员意见(问卷、采访)</p>	<p>①据日方专家介绍, 现在可以看到C/P的能力有以下几方面的提高。</p> <p>【自治区级C/P】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· 现在可以根据项目点的实际情况开展调查和制定培训计划了。</li> <li>· 培训的计划管理也逐步得到了改善。</li> <li>· 现在能够积极地对项目活动计划的调整进行指导了。</li> </ul> <p>【市县级C/P】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· 理解了JICA项目的目的和投入的内容, 对本项目设施建设不够充分的部分能够利用地方政府的补助政策, 建设节水灌溉设施、新建水利设施等, 主动采取措施来提高项目的整体效果。</li> <li>· 有了要在认识市场的基础上进行畜产品销售的思想。</li> <li>· 能够积极地开展监测以及技术指导工作了。</li> <li>· 日方专家指出, 农畜产品的初级产品生产技术虽然有所提高, 但如何将这些产品投入市场却是个重要的课题, 需要提高当地负责管理的干部的沟通能力。</li> <li>· 需要提高他们按照PDCA循环周期进行项目管理的的能力。</li> <li>· 自治区科技厅提出“需要构建市县相关人员对牧民实施技术推广活动的组织”和能力。</li> <li>②至于还有什么需要改善的地方, 在询问了相关人员后可以列出以下几点。</li> <li>· 需要示范户充当老师的角色, 对非示范户进行推广, 提升整体能力。</li> <li>· 有必要进一步改善县里的强项和弱点。</li> </ul>
		<p>(2) &lt;牧民的能力&gt;</p> <p>①项目结束前, 牧民能否掌握必要的技术和经营能力?</p> <p>②项目结束前, 哪方面问题有待进一步提高?</p>	<p>相关人员意见(问卷、采访)</p>	<p>①在一定程度已经看到了牧民在认识上的改变和在行动上的改观, 通过中日双方的继续努力, 预计在项目结束前他们可以掌握必要的技术和能力。</p> <p>②至于还有什么需要改善的地方, 在询问了相关人员后可以列出以下几点。</p> <p>· 需要示范户充当老师的角色, 对非示范户进行推广, 提升整体能力。</p> <p>· 有必要进一步改善县里的强项和弱点。</p>
		<p>(3) 项目提供器材的维护管理</p> <p>①C/P有无维护管理器材的能力, 是否建立了维护管理的体制? 管理负责人是否明确?</p> <p>②备件、消耗品是否可以在当地采购和修理? 其经费能否保证?</p>	<p>对器材管理负责人的采访</p>	<p>①对于项目提供器材, 各村都具备加以妥善维护管理的管理体系。</p> <p>· 昌吉市阿克萨村, 2009年8月成立了机械使用组织, 对农业机械进行管理和使用, 从使用机械的人那里收取租金来充当机械维护管理费。</p> <p>· 富源县恰布拉克村的村委会负责对机械进行维护管理, 同样是从使用者那里收取租金来充当机械维护管理费。</p> <p>②项目提供器材全部是在新疆维吾尔自治区购买的, 在当地也可以购买到零件和耗材, 可以维修。</p>
	5.5 社会和文化层面、环境方面	<p>关于社会、文化层面与环境方面的独立发展性, 有无需要留意事项?</p>	<p>相关人员意见(采访)</p>	<p>一直以来发生在富源县恰布拉克村的盐碱化问题, 需要继续加以监测。</p>
	考虑社会因素和性别因素?		<p>相关人员意见(采访)</p>	<p>· 参与项目活动中的女性也不在少数, 对于今后农畜产品的加工等, 也可以开展针对女性的活动。</p>

Handwritten signature or mark at the bottom right corner.

附件4 项目计划概要表修订版 (PDM)

项目名称: 新疆天然草地生态保护与牧民定居示范项目  
项目地区: 昌吉市庙儿沟乡阿克旗村、霍城县杜热乡恰布拉克村

项目管理单位: 自治区科技厅  
项目实施单位: 畜牧科学院

项目期: 5年 (2007年6月启动)  
受益群体: 新疆维吾尔自治区行政人员、市县级行政人员、乡镇技术推广人员、项目区定居牧民

Version1 (2010年9月9日)

最高目标	指标	获取指标数据的手段	外部条件
在沙漠化等生态环境恶化严重的中国干旱、半干旱地区, 通过可持续农业的开展, 提高牧民的生活水平, 改善生态环境。	1. 在北疆类似地区, 将本项目成果运用于定居工程的事例达6个以上。 2. 在北疆类似地区, 冬季在定居村过冬的羊的比例增加15%。 (全村抽样调查) 3. 在北疆类似地区, 牧民人均农牧业纯收入提高20%。(全村抽样调查)	新疆自治区畜牧厅、畜牧科学院等的相关资料、访谈调查	
总体目标 在北疆类似定居地区, 提高牧民生活水平, 保护天然草地。			
项目目标 通过大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程的示范性措施, 强化针对定居牧民的技术支持体系。	1. 示范户牧民人均农牧业纯收入提高40%。 2. 示范户冬季对天然草地的依赖程度降低30%(依赖程度: 一定期间内, 在家畜饲料需求总量中所占的比例)。 3. 项目期内自治区科技厅直属单位采取的措施, 落实预算, 开展一次以上面向市、县及乡的培训。 4. 技术推广人员在示范村内巡回对牧民进行农牧业技术指导并听取意见, 在两村实施各10天以上。(培训除外)	项目资料	• 退牧还草、牧民定居工程等相关政策不发生变化。
成果 1. 通过在示范区开展活动, 改进保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目的技术和计划制定、实施和评估方法。	1-1 以中方为主体所制定的内容, 向示范区的村民委员会进行咨询说明, 提出建议, 得到村民的同意。 1-2 试点项目根据每年的监测结果进行改进并予以实施。(监测表格的完善等) 1-3 项目所建议的技术内容得到中方有关人员的评价。	项目资料 (问卷调查、访谈结果。)	• 自然环境状况不会由于干旱等自然灾害而进一步恶化。 • 物价不因农产品供给关系和材料等的市场变化而发生大幅的变动。 • 治安没有发生大大恶化。
2. 通过示范项目, 为保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程开展的技术培训得到进一步加强。	2-1 在项目实施期间, 参加研讨会、会议、OJT (在职培训) 的自治区、市、县、乡、村有关人员达1400人以上。 2-2 按照培训计划举办的培训, 行政人员的参加人数达到400人次, 牧民达到1600人次以上。 2-3 市、县、乡技术人员培训合格人员*达到85%, 牧民达到60%以上。 *超过简易考试及格线 (60分) 的人员。 2-4 在示范区, 项目推广、使用的农牧业单项技术*的入户率达到 80%。 *技术是指饲料种植、加工、调制及施肥技术; 节水灌溉及用水管理技术; 家畜养殖、品种改良及饲养管理技术、乳制品加工技术、农户家庭收支记账方法等。 2-5 市县科技局主办的针对牧民需求的培训超过2次以上。	项目资料 (问卷调查、访谈结果。)	

<p><b>活动</b></p> <p>1-1 在示范区开展天然草地和水资源等自然资源调查、牧民家庭构成和生活状况等社会经济调查、农业经营状况调查(家畜的饲养、饲料作物等的栽培、市场情况等)、灌溉设施等基础设施的现状调查以及关于未来计划的调查等,在掌握现状和课题的同时,针对部分课题进行改进。</p> <p>1-2 根据1-1的结果,制定适合示范区天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水资源利用计划。</p> <p>1-3 根据示范地区的天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水资源利用计划,确定在部分示范地区实施的天然草地保护和提高牧民生活水平的试点项目的内容,制定活动计划。</p> <p>1-4 按照活动计划实施试点项目。</p> <p>理想的试点项目的内容如下。</p> <p>1-4-1 改进牧草、饲料作物、自给和经济作物等的栽培技术和水资源管理技术。</p> <p>1-4-2 改进饲料加工和调配技术、家畜饲养生产技术。</p> <p>1-4-3 开展天然草地保护与恢复工作。</p> <p>1-5 对试点项目进行检测和评估。</p> <p>1-6 将示范区的活动内容制定成计划指南、技术指南。</p> <p>2-1 掌握示范区的技术推广体制(草地管理、畜牧、节水灌溉、农业经营等)方面的现状和课题,制定示范区技术推广普及体制的完善计划(包括培训计划)。</p> <p>2-2 根据培训计划,在示范地区针对市、县和乡级行政管理人员,开展牧民定居项目的计划制定及实施方面的培训。</p> <p>2-3 根据培训计划,在示范地区针对市、县和乡级技术推广人员,开展加强对牧民进行技术指导方面的培训。</p> <p>2-4 根据培训计划由市、县和乡级技术推广人员针对示范地区牧民开展草地管理、畜牧、节水灌溉、农业经营等方面的培训。</p> <p>2-5 编制实用的哈萨克文教材。</p> <p>2-6 制定示范推广计划。</p>	<p><b>投入</b></p> <p><b>日方投入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 派遣专家</li> <li>日本专家组成员 / 草地管理</li> <li>栽培 / 饲料生产</li> <li>家畜饲养</li> <li>水资源利用计划 / 水资源管理</li> <li>培训 / 完善技术推广体制</li> <li>农户经营 / 市场调查</li> </ul> <p>(2) 赴日培训</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在日本相关机构进行培训。</li> <li>人数根据每年的培训计划决定。</li> </ul> <p>(3) 器材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>车辆</li> <li>技术推广和有必要器材</li> <li>实施试点项目的必要器材</li> <li>办公设备等</li> <li>其他</li> </ul> <p>(4) 活动经费</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>培训所需经费(教材制作费、讲师酬金等)</li> <li>试点项目的实施经费</li> <li>专家交通费等</li> </ul>	<p><b>中方投入</b></p> <p>(1) 配备人员</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治区级25名</li> <li>市、县级20名</li> </ul> <p>(2) 配备设备/设施</p> <p>(3) 培训经费</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加培训人员的交通费</li> <li>会场费用等</li> </ul> <p>(4) 项目实施运营费</p>	<p><b>牧民接受项目的实施。</b></p> <p>前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相关厅局作为合作单位参加项目。</li> <li>示范区牧民接受项目的实施。</li> </ul>
---	---	---	---

注: \*1 冬季是指在冬牧场过冬的时间,一般指11月下旬至次年的4月上旬。

\*2 北疆类似地区的定义今后由项目来确定。

\*3 入户率是指在特定区域内采用某一技术的户数占总户数的比例,在中国作为统计信息收集。

#### 附件 4 PDM 的修改原因

##### (1) 总体目标的修改

修改前：在新疆维吾尔自治区，通过提高牧民生活水平，推进定居工程，保护天然草地。

修改后：在北疆类似定居地区，提高牧民生活水平，保护天然草地。

##### 【修改原因】

- 明确对象地区。
- 明确“保护天然草地”、“提高牧民生活水平”及“定居工程”间的关系。

##### (2) 项目目标的修改

修改前：通过在示范区大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程的示范性措施，确立针对定居牧民的技术支持体系。

修改后：通过大力实施保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程的示范性措施，强化针对定居牧民的技术支持体系。

##### 【修改原因】

- 删除重复的内容。

##### (3) 成果 1 的修改：

修改前：通过在示范区开展活动，改进保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目的计划制定方法和技术。

修改后：通过在示范区开展活动，改进保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目的技术和计划制定、实施和评估方法。

##### 【修改原因】

- 为了更准确的反映项目活动内容。

##### (4) 成果 2 的修改：

修改前：为开展可实现保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居项目进行技术推广的体制得以加强。

修改后：通过示范项目，为保护天然草地和提高牧民生活水平并举的可持续性定居工程开展的技术培训得到进一步加强。

##### 【修改原因】

- 由于成果 2 的活动并不仅局限于示范区，所以把“在示范区”更改为“通过示范项目”。
- “技术推广体制”的说法易被误解为组织体系的变更等，所以根据实际情况修改为“技术培训”。

(5)追加的活动内容

追加了本项目实际开展的下述活动。

1. 活动 1-4-3 开展天然草地保护与恢复工作。
2. 活动 2-5 编制实用的哈萨克文教材。

(6)总体目标指标的修改

修改前：在新疆维吾尔自治区参考指南开展项目的数量。

修改后：在北疆类似地区，将本项目成果运用于定居工程的事例达 6 个以上。

【修改原因】

- 对应总体目标的修改内容修改了对象地区使其更为严谨。
- 项目成果运用不仅仅局限于参考指南开展项目，因此进行了修改。
- 明确所指“项目”的内容。

修改前：新疆维吾尔自治区单位面积草量的增加。

修改后：在北疆类似地区，冬季在定居村过冬的羊的比例增加 15%(全村抽样调查)。

【修改原因】

- 对象地区过大且单位面积产草量受气候条件的影响，很难据此直接计算出效果。
- 将指标修改为推算出对草地退化最严重的冬牧场的依赖程度。
- 考虑到示范区牲畜数量呈减少趋势，所以将指标设定为 15%。

修改前：新疆维吾尔自治区牧民人均纯收入的增加。

修改后：在北疆类似地区，牧民人均农牧业纯收入提高 20%（全村抽样调查）。

【修改原因】

- 明确对象地区。
- 明确收入所指的意思。
- 假设年增长率为 6%。

(7)项目目标指标的修改

修改前：示范区牧民人均纯收入的增加。

修改后：示范户牧民人均农牧业纯收入提高 40%。

【修改原因】

- 明确收入所指的意思。
- 按示范户收入的增长率设定了数值。

修改前：示范区天然草地单位面积草量的增加。

修改后：示范户冬季对天然草地的依赖程度降低 30% (依赖程度：一定期间内，在家畜饲料需求总量中所占的比例)。

**【修改原因】**

- 难以以产草量直接计算效果，因此将可计算的饲料依赖程度作为指标。
- 根据示范区发展趋势等设定指标数值。

增加指标：项目期内自治区科技厅直属单位采取措施，落实预算，开展一次以上面向市、县及乡的培训。

**【增加原因】**

- 为了确保项目结束后技术支持工作也能继续开展下去，增加这一指标作为过渡期的目标。
- 鉴于项目还有约 1 年的时间，将培训次数定在可实现的范围内。

增加指标：技术推广员在示范村内巡回对牧民进行农牧业技术指导并听取意见，在两村实施各 10 天以上（培训除外）。

**【增加原因】**

- 增加了直接对牧民提供技术支持的技术推广员的相关指标。

**(8) 成果指标的修改**

- 成果 1 的指标修改进一步明确了原指标的表述内容。

修改前：试点地区村民委员会同意项目制定的规划内容。

修改后：以中方为主体所制定的内容，向示范区的村民委员会进行说明，提出建议，得到村民的同意。

修改前：试点项目按计划实施。

修改后：试点项目根据每年的监测结果进行改进并予以实施（监测表格的完善等）。

修改前：中方相关人员认可项目提出的技术建议。

修改后：项目所建议的技术内容得到中方有关人员的正面评价。

- 成果 2 的指标修改为衡量技术培训得到强化的指标。

修改前：按照培训计划接受培训的行政人员、牧民的人数。

修改后：按照培训计划举办的培训，行政人员的参加人数达到 400 人次，牧民

达到 1600 人次以上。

增加指标：在项目实施期间，参加研讨会、会议、OJT（在职培训）的自治区、市、县、乡、村有关人员达 1400 人次以上。

**【修改原因】**

- 增加了包括培训以外的指标。
- 根据迄今为止这项工作的增长趋势明确了数值。

修改前：培训内容的评估结果。

修改后：市、县、乡技术人员培训合格者\*达到 85%，牧民达到 60%以上。

\*超过简易考试及格线（60 分）的人员。

**【修改原因】**

- 明确评价方法。

修改前：采用通过项目引进的技术的牧民的人数。

修改后：在示范区，项目推广、使用的农牧业单项技术\*的入户率达到 80%。

\*技术是指饲草料种植、加工、调制及施肥技术；节水灌溉及用水管理技术；家畜养殖、品种改良及饲养管理技术、乳制品加工技术、农户家庭收支记账方法等。

**【修改原因】**

- 明确技术的内容。
- 明确评价方法。

增加指标：市县科技局主办的针对牧民需求的培训超过 2 次以上。

**【增加原因】**

- 为了确保项目结束后技术支持工作也能继续开展下去，增加这一指标作为过渡期的目标。
- 鉴于项目还有约 1 年的时间，培训次数定在可实现的范围内。







No.	姓名	负责领域	工作单位		专业	备注	从事时间					赴日研修			
			职务				开始	结束(计划)	2007	2008,2009	2010	2011	研修名称	年	时间
<b>3. 项目管理级</b>															
<b>3-1. 自治区</b>															
1	约尔古丽·加帕尔 (YueGuLi·JiaPaEr)	项目总指挥	新疆科学技术厅	书记			2010年	3月	2012年	2月					
2	胡克林 (Hu KeLin)	项目总指挥	新疆科学技术厅	副厅长	事务工作调整		2007年	5月	2010年	3月					
3	董平 (Dong Ping)	项目管理	新疆科学技术厅国际合作处	处长			2010年	8月	2012年	2月					
4	王颖 (Wang Ying)	项目管理	新疆科学技术厅国际合作处	调研员			2010年	1月	2010年	7月					
5	禹庚 (Yu Geng)	项目管理	新疆科学技术厅国际合作处	处长	调往新加坡大使馆		2007年	5月	2009年	11月					
6	阳延琴 (Yang YanQin)	项目管理助理	新疆科学技术厅国际合作处	主任科员			2007年	5月	2012年	2月			畜产振兴计划	2007	10月16日 ~ 10月30日
7	李捷 (Li Jie)	主任	新疆畜牧科学院	国际合作与科学技术管理处副处长			2007年	5月	2012年	2月					
8	王江梅 (Wang JiangMei)	副主任	新疆畜牧科学院	办公室秘书			2007年	5月	2012年	2月					

<b>3-2. 昌吉市</b>															
1	张新立 (Zhang XinLi)	市级项目管理	昌吉市科学技术局	局长			2010年	5月	2012年	2月					
2	张玉宏 (Zhang YuHong)	市级项目管理	原昌吉市科学技术局局长	现昌吉自治州科学技术协会	换单位		2007年	5月	2010年	5月			畜产振兴计划	2009	10月21日 ~ 11月7日
3	吴柏林 (Wu BoLin)	市级项目主任	昌吉市科学技术局	主任科员			2007年	5月	2012年	2月			畜产振兴计划	2008	11月18日 ~ 12月16日
4	哈克 (Hake)	市级项目办公室职员	庙尔沟乡	统计师, 主任科员			2007年	5月	2012年	2月					

<b>3-3. 富蕴县</b>															
1	木合森 (MuHeSen)	县级项目主管领导	富蕴县县委	常委			2007年	5月	2012年	2月			畜产振兴计划	2009	10月21日 ~ 11月7日
2	陶卫新 (Tao WeiXin)	县级项目管理	富蕴县科学技术局	局长			2009年	1月	2012年	2月					
3	马合萨提 (Mahesati)	县级项目管理	原富蕴县科技局局长		2008年1月调动		2007年	5月	2008年	1月					
4	木黑扎提 (MuHeiZaTi)	县级项目管理	前富蕴县科技局局长	现富蕴县科技局局长	2009年1月调任		2008年	1月	2009年	1月					
5	夏逢林 (Xia FengLin)	县级项目主任	富蕴县科学技术局	副局长			2007年	5月	2012年	2月			畜产振兴计划	2009	10月21日 ~ 11月7日
6	吴冬虎 (Wu DongHu)	县级项目主任	富蕴县科学技术局				2007年	5月	2012年	2月					

Handwritten signature or mark in the bottom left corner.

Handwritten signature or mark in the bottom right corner.

资料A-2 中方投入实绩

1. 办公室等项目运营经费

(1) 自治区项目办

(万元)

年份	办公费	通讯费	交通费	材料费	差旅费	劳务费	水电费	房租费	车辆维护保养费	招待费	管理费	合计
2007	7	0.5	6.5	3.6	3.5	3.5	1	2	12	5	4	48.6
2008	2	0.5	5.5	2.3	2.6	3.2	1	2	6	4	2.5	31.6
2009	2	0.8	4.3	1.6	2.3	3.1	1	2	4	2	2	25.1
合计	11	1.8	16.3	7.5	8.4	9.8	3	6	22	11	8.5	105.3

(2) 昌吉市项目办

(万元)

年份	办公费	通讯费	交通费	材料费	差旅费	劳务费	水电费	房租费	车辆维护保养费	招待费	管理费	合计
2007	0.5	0.5	1.1	0.8	1	1	0.5	0.8	3	1.2	1	11.4
2008	0.5	0.6	1.5	0.8	1.3	1	0.5	0.8	3	1.5	1	12.5
2009	0.5	0.6	1.2	0.8	1	1	0.5	0.8	2	1.1	1	10.5
合计	1.5	1.7	3.8	2.4	3.3	3	1.5	2.4	8	3.8	3	34.4

(2) 富蕴县项目办

(万元)

年份	办公费	通讯费	交通费	材料费	差旅费	劳务费	水电费	房租费	车辆维护保养费	招待费	管理费	合计
2007	0.5	0.5	1.5	1.2	1	1	0.5	1	3	2	1	13.2
2008	0.5	0.6	2	1	1.5	1.2	0.5	1	2	2	1	13.3
2009	0.5	0.6	1.3	1	1.2	1.2	0.5	1	2	1.5	1	11.8
合计	1.5	1.7	4.8	3.2	3.7	3.4	1.5	3	7	5.5	3	38.3

2. 设施提供情况和提供时间

(1) 提供情况

自治区项目办公室 170m<sup>2</sup>

昌吉市项目办公室 60m<sup>2</sup>

富蕴县项目办公室 60m<sup>2</sup>

(2) 提供时间

2007年6月

3. 项目村的投入情况（市县投入）

(1) 昌吉市庙尔沟乡人民政府

序号	内容	金额区分	预算年份					合计
			2007	2008	2009	2010	2011	
1	基本设施建设费（万元）	预算额	160	270	347	380	-	1157
		实际支出额	163.1	335	367	615	-	1480.1
2	牧民培训费（万元）	预算额	4.2	4.2	5.2	1.5	-	15.1
		实际支出额	4	4.3	4.7	0.8	-	13.8
3	运营费（万元）	预算额	2.7	2.8	3.5	1.9	-	10.9
		实际支出额	2.5	2.5	2	-	-	7
4	其他费用（万元）	预算额	1	1.1	1.5	1	-	4.6
		实际支出额	1	1.3	1.4	-	-	3.7
5	合计（万元）	预算额	167.9	278.1	357.2	384.4	-	1187.6
		实际支出额	170.6	343.1	375.1	615.8	-	1504.6

(2) 富蕴县杜热乡人民政府

序号	内容	金额区分	预算年份					合计
			2007	2008	2009	2010	2011	
1	基本设施建设费（万元）	预算额	60	170	540	645	-	1415
		实际支出额	54.8	166.8	545	610	-	1376.6
2	牧民培训费（万元）	预算额	0.6	0.8	1	-	-	2.4
		实际支出额	0.5	0.6	0.9	-	-	2
3	运营费（万元）	预算额	0.7	0.9	1.1	-	-	2.7
		实际支出额	0.65	0.82	0.94	-	-	2.41
4	其他费用（万元）	预算额	0.8	1	1.5	-	-	3.3
		实际支出额	0.8	1	1.5	-	-	3.3
5	合计（万元）	预算额	62.1	172.7	543.6	645	-	1423.4
		实际支出额	56.75	169.22	548.34	610	-	1384.31

资料A-3 日方专家派遣

短期专家

No.	专家姓名	指导科目	派遣时间								
			开始	结束	天数	2007	2008	2009	2010	2011	
1	伊贺 启文	组长 / 草地管理	2007年 6月4日	2007年 9月1日	90日	-					
			2007年 9月25日	2007年 12月19日	86日	-					
			2008年 2月9日	2008年 2月23日	15日		■				
			2008年 6月2日	2008年 7月19日	48日		■				
			2008年 8月3日	2008年 9月26日	55日		■				
			2008年 11月13日	2008年 12月24日	42日		■				
			2009年 2月4日	2009年 2月21日	18日			■			
			2009年 5月8日	2009年 7月9日	63日			■			
			2010年 1月17日	2010年 1月23日	7日				■		
			2010年 1月31日	2010年 2月6日	7日				■		
			2010年 7月7日	2010年 8月31日	56日				■		
					487日						
2	清水 直也	家畜饲养	2007年 11月20日	2007年 12月19日	30日		■				
			2008年 1月31日	2008年 2月23日	24日		■				
					54日						
3	松本 武司	家畜饲养	2008年 7月10日	2008年 8月29日	51日		■				
			2008年 11月23日	2008年 12月24日	32日		■				
			2010年 8月7日	2010年 8月31日	25日					■	
					108日						
4	千叶 精一	栽培 / 饲料生产	2007年 8月3日	2007年 9月1日	30日		■				
			2007年 9月25日	2007年 12月23日	90日		■				
			2008年 1月10日	2008年 2月23日	45日		■				
			2008年 7月29日	2008年 9月26日	60日		■				
			2008年 10月20日	2008年 12月3日	45日		■				
			2009年 5月12日	2009年 6月10日	30日			■			
			2010年 1月17日	2010年 1月23日	7日				■		
					307日						
5	小林 勤	研修计划 / 完善推广体制	2007年 7月2日	2007年 9月29日	90日		■				
			2007年 12月17日	2008年 1月21日	36日		■				
			2008年 6月2日	2008年 6月19日	18日		■				
			2008年 11月1日	2008年 12月15日	45日		■				
			2010年 7月31日	2010年 8月31日	32日					■	
					221日						
6	大森 圭祐	水资源利用规划 / 管理	2007年 6月4日	2007年 7月3日	30日		■				
			2007年 8月23日	2007年 11月14日	84日		■				
			2008年 2月3日	2008年 2月23日	21日		■				
			2008年 7月17日	2008年 9月2日	48日		■				
			2009年 2月4日	2009年 2月21日	18日			■			
			2010年 1月17日	2010年 1月23日	7日				■		
			2010年 1月31日	2010年 2月6日	7日				■		
			2010年 7月7日	2010年 8月31日	56日					■	
					271日						
7	齐藤 学	农户经营 / 市场调查	2007年 8月3日	2007年 9月1日	30日		■				
			2008年 1月19日	2008年 2月23日	36日		■				
					66日						
8	羽佐田 胜美	农户经营 / 市场调查	2008年 12月7日	2008年 12月24日	18日			■			
			2009年 2月4日	2009年 2月21日	18日			■			
			2010年 7月16日	2010年 8月31日	47日					■	
					83日						

※截止2010年8月31日，记录的派遣时间。

资料A-4 参加赴日培训的成员名单

1. 2007年度

培训名称: 畜产振兴计划 (考察式培训, 与山西省雁门关项目共同实施)

培训期间: 2007年10月16日~10月30日

接收培训机构: JICA带广国际中心

No.	CP姓名	负责领域	工作单位		专业
			职务		
1	张 扬 (Zhang Yang)	组长	新疆畜牧科学院畜牧研究所 副所长/研究员		家畜繁育·饲养
2	朱进忠 (Zhu JinZhong)	副组长	新疆农业大学草业工程学院 院长/教授		草地管理·栽培
3	阳延琴 (Yang YanQin)	项目管理助理	新疆科学技术厅国际合作处 主任科员		科学技术管理、日语
4	王力俭 (Wang LiJian)	协调员	新疆畜牧科学院 院长		畜牧
5	李树根 (Li ShuGen)	协调员	富蕴县人民政府 副县长		农业·畜牧业
6	马学良 (Ma XueLiang)	协调员	昌吉市人民政府 常委		农业

2. 2008年度

培训名称: 畜产振兴计划 (课题: 家畜养殖技术)

培训期间: 2008年11月18日~12月16日

接收培训机构: JICA带广国际中心

No.	CP姓名	负责领域	工作单位		专业
			职务		
1	马来书 (Ma LaiShu)	副组长	新疆畜牧科学院草原研究所 副研究员		草地管理·作物栽培/技术推广
2	干及尔 (GanJiEr)	家畜饲养	富蕴县畜牧兽医工作站 畜牧师		畜牧
3	吴柏林 (Wu BoLin)	市级项目主任	昌吉市科学技术局 主任科员		高级农艺师

3. 2009年度

培训名称: 畜产振兴计划 (课题: 畜产品加工)

培训期间: 2009年10月21日~11月7日

接收培训机构: JICA带广国际中心

No.	CP姓名	负责领域	工作单位		专业
			职务		
1	李瑞年 (Li RuiNian)	成员	新疆畜牧科学院草原研究所 研究员		草地管理利用
2	蔺宏凯 (Lin HongKai)	成员	新疆畜牧科学院畜牧研究所 副研究员		家畜繁育·饲养/技术推广
3	张玉宏 (Zhang YuHong)	市级项目管理	昌吉自治州科学技术协会 副主席		农学
4	木合森 (MuHeSen)	县级项目主管领导	富蕴县县委 常委		草原
5	夏逢林 (Xia FengLin)	县级项目主任	富蕴县科学技术局 副局长		宣传
6	宋春红 (Song ChunHong)	科学技术推广	新疆科技市场及民间科学技术管理办 公室 副主任		科学技术管理

资料A-5 日方提供器材一览

器材型号	购买日期	器材概要			数量	金额(元)		金额(US\$)		保管场所
		名称	品牌	规格		单价	金额	单价	金额	
2007-001	08-Jun-07	喷墨打印机	CANON	MP830	1	3,300.00	3,300.00			自治区办公室
2007-002	20-Jun-07	摄像机	SONY	DCR-SR42E	1	4,780.00	4,780.00			自治区办公室
2007-003	20-Jun-07	复印·打印一体机	CANON	iR2020i	1	22,600.00	22,600.00			自治区办公室
2007-004	29-Jun-07	投影仪	SONY	VPL-CX21	1	11,000.00	11,000.00			自治区办公室
2007-005	29-Jun-07	投影仪用幕布	-	72寸	1	600.00	600.00			自治区办公室
2007-006	29-Jun-07	台式电脑	HP	G3028cx	2	4,900.00	9,800.00			自治区办公室
2007-007	04-Jul-07	UPS	山特	TG500	2	200.00	400.00			自治区办公室
2007-008	02-Aug-07	扫描仪	EPSON	GT-15000	1	12,800.00	12,800.00			自治区办公室
2007-009	02-Aug-07	台式电脑	HP	8185CN	1	14,000.00	14,000.00			自治区办公室
2007-010	03-Aug-07	彩色激光打印机	CANON	LBP5360	1	14,800.00	14,800.00			自治区办公室
2007-011	03-Aug-07	传真机	CANON	L120	1	2,580.00	2,580.00			自治区办公室
2007-012	21-Sep-07	数码相机	SONY	T20	1	3,600.00	3,600.00			自治区办公室
2007-013	21-Sep-07	笔记本电脑	HP	6910P	1	17,900.00	17,900.00			自治区办公室
2007-014	21-Sep-07	复印·打印一体机	CANON	iR2020i	1	22,600.00	22,600.00			昌吉市科技局
2007-015	21-Sep-07	传真机	CANON	L120	1	2,580.00	2,580.00			昌吉市阿克旗村
2007-016	21-Sep-07	台式电脑	HP	G3128cx	1	6,300.00	6,300.00			昌吉市畜牧局
2007-017	21-Sep-07	笔记本电脑	HP	6510b	1	11,900.00	11,900.00			昌吉市科技局
2007-018	21-Sep-07	UPS	山特	TG500	1	180.00	180.00			昌吉市畜牧局
2007-019	21-Sep-07	投影仪	SONY	VPL-CX21	1	11,500.00	11,500.00			昌吉市科技局
2007-020	21-Sep-07	投影仪用幕布	-	72寸	1	600.00	600.00			昌吉市科技局
2007-021	21-Sep-07	彩色激光打印机	CANON	LBP5360	1	14,800.00	14,800.00			昌吉市畜牧局
2007-022	21-Sep-07	摄像机	SONY	DCR-SR42E	1	5,400.00	5,400.00			昌吉市科技局
2007-023	21-Sep-07	数码相机	SONY	T20	1	3,600.00	3,600.00			昌吉市科技局
2007-024	21-Sep-07	移动硬盘	HP	80GB	1	1,000.00	1,000.00			昌吉市科技局
2007-025	21-Sep-07	复印·打印一体机	CANON	iR2020i	1	22,600.00	22,600.00			富蕴县科技局
2007-026	21-Sep-07	传真机	CANON	L120	1	2,580.00	2,580.00			富蕴县恰布拉克村
2007-027	21-Sep-07	台式电脑	HP	G3128cx	1	6,300.00	6,300.00			富蕴县畜牧局
2007-028	21-Sep-07	笔记本电脑	HP	6510b	1	11,900.00	11,900.00			富蕴县科技局
2007-029	21-Sep-07	UPS	山特	TG500	1	180.00	180.00			富蕴县畜牧局
2007-030	21-Sep-07	投影仪	SONY	VPL-CX21	1	11,500.00	11,500.00			富蕴县科技局
2007-031	21-Sep-07	投影仪用幕布	-	72寸	1	600.00	600.00			富蕴县科技局
2007-032	21-Sep-07	彩色激光打印机	CANON	LBP5360	1	14,800.00	14,800.00			富蕴县畜牧局
2007-033	21-Sep-07	摄像机	SONY	DCR-SR42E	1	5,400.00	5,400.00			富蕴县科技局
2007-034	21-Sep-07	数码相机	SONY	T20	1	3,600.00	3,600.00			富蕴县科技局
2007-035	21-Sep-07	移动硬盘	HP	80GB	1	1,000.00	1,000.00			富蕴县科技局
2007-036	30-Jan-08	液晶电视	康佳	LC37BT20	1	7,400.00	7,400.00			自治区办公室
2007-037	30-Jan-08	DVD放映机	黄河	118	1	510.00	510.00			自治区办公室
2007-038	30-Jan-08	液晶电视	康佳	LC37BT20	1	7,400.00	7,400.00			昌吉市畜牧局
2007-039	30-Jan-08	DVD放映机	黄河	118	1	510.00	510.00			昌吉市畜牧局
2007-040	30-Jan-08	发电机	HONDA	EC2500C	1	3,300.00	3,300.00			昌吉市科技局
2007-041	30-Jan-08	GPS	MAGELLAN	探险家400	1	2,800.00	2,800.00			昌吉市科技局
2007-042	30-Jan-08	车载GPS	GARMIN	任我游	1	5,500.00	5,500.00			自治区办公室
2007-043	30-Jan-08	液晶电视	康佳	LC37BT20	1	7,400.00	7,400.00			富蕴县畜牧局
2007-044	30-Jan-08	DVD放映机	黄河	118	1	510.00	510.00			富蕴县畜牧局
2007-045	30-Jan-08	发电机	HONDA	EC2500C	1	3,300.00	3,300.00			富蕴县科技局
2007-046	30-Jan-08	GPS	MAGELLAN	探险家400	1	2,800.00	2,800.00			富蕴县科技局
2007-047	30-Jan-08	车载GPS	GARMIN	任我游	1	5,500.00	5,500.00			自治区办公室
2007-048	30-Jan-08	UPS	山特	1000W	1	500.00	500.00			自治区办公室
2007-049	21-Feb-08	拖拉机	东方红	904型	1	130,188.00	130,188.00			昌吉市阿克旗村
2007-050	21-Feb-08	拖拉机	东方红	904型	1	130,188.00	130,188.00			富蕴县恰布拉克村
2007-051	21-Feb-08	整地机	乌市双剑农机	1ZL-3.6	1	25,000.00	25,000.00			富蕴县恰布拉克村
2007-052	21-Feb-08	犁	昌吉新晨农机	1LYF-430型	1	11,000.00	11,000.00			昌吉市阿克旗村
2007-053	21-Feb-08	犁	昌吉新晨农机	1LYF-430型	1	11,000.00	11,000.00			富蕴县恰布拉克村
2007-054	21-Feb-08	谷物播种机	昌吉新晨农机	3BFX-21型	1	9,800.00	9,800.00			富蕴县恰布拉克村
2007-055	21-Feb-08	棉花播种机	新疆农机研究所	吸气式	1	32,000.00	32,000.00			昌吉市阿克旗村
2008-001	29-Jul-08	潜水泵	山西解州双龙	250QJ125-64/37kw	2	19,500.00	39,000.00			昌吉市阿克旗村
2008-002	21-Aug-08	摩托车	豪爵	HJ125-2 CG机	3	6,100.00	18,300.00			阿克旗村草原所
2008-003	21-Aug-08	摩托车	豪爵	HJ125-2 CC机	3	6,100.00	18,300.00			富蕴县草原所
2008-004	21-Aug-08	EC计量表	上海电磁	DDS-307型	1	1,900.00	1,900.00			富蕴县恰布拉克村
2008-005	21-Aug-08	EC计量表	上海电磁	DDS-307型	1	1,900.00	1,900.00			昌吉市阿克旗村
2008-006	21-Aug-08	pH计量表	上海虹益	PHB-4PH	1	1,020.00	1,020.00			昌吉市阿克旗村
2008-007	21-Aug-08	pH计量表	上海虹益	PHB-4PH	1	1,020.00	1,020.00			富蕴县恰布拉克村
2008-008	21-Aug-08	简易雨量计	徐州星球	XYL-3	1	7,700.00	7,700.00			阿克旗村草原所
2008-009	21-Aug-08	简易雨量计	徐州星球	XYL-3	1	7,700.00	7,700.00			富蕴县草原所
2008-010	21-Aug-08	恒温干燥器	北京永光明	101-1ES	1	2,700.00	2,700.00			阿克旗村草原所
2008-011	21-Aug-08	恒温干燥器	北京永光明	101-1ES	1	2,700.00	2,700.00			富蕴县草原所
2008-012	21-Aug-08	电子天平	赛多利斯	TE2101-L	1	4,800.00	4,800.00			阿克旗村草原所
2008-013	21-Aug-08	电子天平	赛多利斯	TE2101-L	1	4,800.00	4,800.00			富蕴县草原所
2008-014	29-Aug-08	流速器	重庆	LS10型	2	5,400.00	10,800.00			昌吉市阿克旗村
2008-015	29-Aug-08	流速器	重庆	LS10型	3	5,400.00	16,200.00			富蕴县恰布拉克村
2008-016	10-Sep-08	粉碎机	呼图壁东泉	9ZF-800	1	13,350.00	13,350.00			昌吉市阿克旗村
2008-017	10-Sep-08	粉碎机	呼图壁东泉	9ZF-800	2	13,350.00	26,700.00			富蕴县恰布拉克村
2008-018	15-Sep-08	新疆褐牛	-	种牛	2	13,500.00	27,000.00			富蕴县恰布拉克村
2008-019	15-Sep-08	新疆褐牛	-	母牛	5	10,000.00	50,000.00			富蕴县恰布拉克村



2008 - 020	22-Sep-08	液氮罐	天山畜牧	30L大口	1	4,300.00	4,300.00			富蕴县恰布拉克村
2008 - 021	22-Sep-08	液氮罐	天山畜牧	30L小口	1	4,000.00	4,000.00			富蕴县恰布拉克村
2008 - 022	22-Sep-08	液氮罐	天山畜牧	10L	1	2,200.00	2,200.00			富蕴县恰布拉克村
2008 - 023	13-Oct-08	牧草收获机	新疆农机研究所	牧神9GXY-2.4型	1			11,538.00	11,538.00	富蕴县恰布拉克村
2008 - 024	13-Oct-08	铡草机	新疆通达牧业机械	92LZ-4.8型	1			1,257.00	1,257.00	富蕴县恰布拉克村
2008 - 025	13-Oct-08	中耕机	新疆科神农业开发	3ZF-2.4型	1			2,366.00	2,366.00	富蕴县恰布拉克村
2008 - 026	13-Oct-08	小型方捆机	JohnDeere	349型	1			22,485.00	22,485.00	富蕴县恰布拉克村
2008 - 027	22-Oct-08	谷物播种机	昌吉新晨农机	2BMF-21型	1			1,849.00	1,849.00	昌吉市阿克旗村
2008 - 028	22-Oct-08	整地机	新明农牧机械制造	1ZL-3.6型连合	1			4,807.00	4,807.00	昌吉市阿克旗村
2008 - 029	22-Oct-08	中耕机	新疆科神农业开发	3ZF-2.4型	1			2,366.00	2,366.00	昌吉市阿克旗村
2008 - 030	22-Oct-08	收割机	新疆农机研究所	9QSD-1200型	1			11,538.00	11,538.00	昌吉市阿克旗村
2008 - 031	22-Oct-08	带拖斗的拖拉机	乌鲁木齐兵保实业	30马力、3吨	1			5,325.00	5,325.00	昌吉市阿克旗村
2008 - 032	11-Dec-08	电子天平	浙江永康	100kg	20	250.00	5,000.00			昌吉市阿克旗村
2008 - 033	11-Dec-08	电子天平	浙江永康	100kg	20	250.00	5,000.00			富蕴县恰布拉克村
2008 - 034	16-Feb-09	粉碎机	呼图壁东泉	9ZF-580	2	3,350.00	6,700.00			昌吉市阿克旗村
						元	958,776.00	US	63,531.00	

资料A-6 日方项目经费

(日元)

费用名目	第1年度 (2007年度)	第2年度 (2008年度)	第3年度 (2009年度)	3年合计
1. 一般业务费				
(1) 劳务费	1,039,050	1,360,219	642,082	3,041,351
经常费	1,039,050	1,018,308	642,082	2,699,440
试点项目	0	341,911	0	341,911
(2) 器材保养、管理费	0	37,923	35,535	73,458
(3) 消耗品费	903,434	7,216,076	1,552,537	9,672,047
经常费	903,434	1,293,202	477,241	2,673,877
试点项目	0	5,922,874	1,075,296	6,998,170
(4) 差费交通费	80,007	169,901	214,943	464,851
(5) 通信搬运费	7,064	13,809	4,264	25,137
(6) 资料等制作费	968,903	2,854,560	721,570	4,545,033
(7) 租金	167,133	1,062,348	0	1,229,481
经常费	167,133	288,211	0	455,344
试点项目	0.00	774,137	0	774,137
(8) 实地培训费	0	1,661,831	2,185,650	3,847,481
2. 提供器材购入费	9,197,904	9,796,150	0	18,994,054
业务相关	3,996,578	0	0	3,996,578
试点项目	5,201,326	9,796,150	0	14,997,476
3. 其他器材购入费	1,074,833	1,404,132	0	2,478,965
业务相关	1,074,833	0	0	1,074,833
试点项目	0	1,404,132	0	1,404,132
4. 报告书制作费(除去印刷装订)	626,638	0	0	626,638
5. 与当地咨询公司的合同	5,254,870	8,782,868	0	14,037,738
业务相关	5,254,870	6,195,150	0	11,450,020
试点项目	0	2,587,718	0	2,587,718
6. 会议费	117,827	109,732	0	227,559
合计	19,437,663	34,469,549	5,356,581	59,263,793
业务经费	14,236,337	11,980,796	2,095,635	28,312,768
试点项目	5,201,326	22,488,753	3,260,946	30,951,025

资料B-1 项目活动实绩及达成情况

根据PO制定的工作计划(每个项目)			项目活动情况					今后的计划	完成度(5阶段)					
大项目	中项目	小项目	实施时间	活动实绩	活动成果	今后的计划								
1-1: 自然资源调查、社会经济调查等,了解现状和存在的问题,为改善一部分问题开展活动	1-1a: 示范户现状调查	1-1a-1: 示范户现状调查	◎	○	-	直接到乡村相关者和农户调查了解,在当地实施委托调查,了解示范区和示范户的自然资源、社会经济情况。	将示范区现状进行整理并写入报告书、专家活动记录以及委托调查报告书中。	项目实施过程中定期对示范区变化进行监测。	5					
		1-1b: 当地问题的分析	◎	-	-	为了形成共同认识,与C/P、乡村相关人员一起就示范区发展中存在的问题和阻碍因素展开了商议和讨论。	将示范区有关天然草地、饲料栽培、家畜饲养、水利利用的发展战略整理成报告书的形式。	同上	5					
1-2: 天然草地保护利用计划、土地利用计划、农业经营计划、水利利用计划的制定	1-2a: 计划制定小组的建立	1-2a-1: 计划制定小组的建立	◎	-	-	以C/P单位为主体,组成了由自治区级C/P构成的计划制定小组。	制作了计划制定小组构成人员一览表。	无	5					
		1-2a-2: 讨论计划制定方针和实施计划	◎	-	-	与C/P开会商议后,决定实施实地调查之后,从9月开始陆续作出计划。	确定了各项计划的主要内容。	无	5					
		1-2c: 对原有计划的重新探讨	◎	-	-	每个计划制定小组分别进行信息收集,对2001年度以后与示范区有关的已有计划进行重新探讨。	发现对十各个项目的评估都做得不够彻底,信息未能得到很好的整理。	要用本项目活动中确立的评估方法来改进现有的项目。	5					
		1-2d: 对现有计划中存在的问题的分析	◎	-	-	同上	同上	同上	5					
		1-2e: 示范户的选择	◎	○	-	确定示范户标准,每村选出20户,后来为了更为有效地进行技术转移,又进一步从20户中选出5户重点户,加强投入和技术培训。	确认20户示范户的现状(土地利用、经营状况等)和重点5户的特点。	实现以重点5户为中心,向周围普及。	5					
		1-2f: 各项计划的制定	◎	○	-	与C/P合作完成了各项计划。	总结出了天然草地保护利用计划、土地利用计划、水利利用计划、农业经营计划(饲料栽培、畜牧养殖生产、畜产品流通)。	将制定计划的方法做成技术手册,通过试点项目改进各项计划。	5					
		1-2g: 各项计划的说明	◎	-	-	○	○	在2008年2月召开的项目报告会上,对参加会议的人员说明了各项计划的大概内容。	与会者理解了计划的内容和今后要开展的活动。	第1年度有一部分项目相关人员未能正确理解项目的主旨,在必要的时候还需要做后续说明。	4			
		1-3: 确定试点项目的内容,制定活动计划	1-3a: 试点项目实施计划的制定	◎	◎	-	○	为了在试点项目中将计划的一部分内容加以验证,对实施内容进行了精简。	将试点项目实施计划以报告书的形式进行了整理归纳。	在计划实施阶段,需要根据当地及周边地区的发展趋势和实际情况加以改进。	4			
1-4: 根据活动计划实施试点项目(这里所说的“实施”是指:①饲料、②OJT、③体制完善。监测内容见1-5、培训内容见2-2~2-4)	1-4-1: 牧草、饲料作物、自给作物、经济作物等的栽培技术以及水管理技术的改善	1-4-1a: 根据活动计划实施试点项目(这里所说的“实施”是指:①饲料、②OJT、③体制完善。监测内容见1-5、培训内容见2-2~2-4)	○	◎	-	○	○	2007年度开展了13次,2008年度开展了10次。详见附件OJT记录一览表。	制定活动计划,根据活动计划开展了项目工作。	在计划实施阶段,需要根据当地及周边地区的发展趋势和实际情况加以改进。	4			
		1-4-1b: 为增加土壤肥力生产堆肥	-	◎	-	○	○	○	2008年9月和11月分别在阿克旗村、恰布拉克村实施了制作腐熟堆肥的培训。	有农户已经开始制作腐熟堆肥,但是户数还很少。	要进一步提高牧民制作腐熟堆肥的认识,继续加大宣传力度。	3		
		1-4-1c: 农机的购入	◎	◎	-	-	-	-	为了促进阿克旗村玉米收割和饲料调制工作的开展,增强恰布拉克村以青饲为主的饲料作物生产力,给两个村分别购买了各种农机具。另外,开展了有关农机具维护管理的培训。	购入农机具后,耕地上的农作业效率得到了提高。	如果村里要建立农机具管理协会,计划对协会的成立给予支持。	4		
		1-4-1d: 农机管理组织的建立	-	-	-	○	○	○	两个村都自主配置了保管农业机械的仓库,对农业机械进行维护管理。	连个村虽然都没有合作组织,但农业机械却是共同使用的,已经开始了有组织的活动。	计划在2009年度修建的耕地末端排碱渠将在2010年度加以实施。与此同时还计划防止盐碱化再度发生开展培训。	3		
		1-4-1e: 修葺碱渠,减轻盐碱化程度	-	◎	-	◎	○	○	在盐碱化特别严重的恰布拉克村住宅区附近修建了4km的排碱渠(明渠)。	通过排碱渠的修建,定居村附近的盐碱化问题基本得到了解决。	确认排碱渠的维护管理情况	4		
		1-4-1f: 更换并泵,提高抽水能力	-	◎	○	○	○	○	由于2008年阿克旗村受到干旱影响,项目给村里更换了2台抽取地下水的并泵,提高了抽水能力。	由于更换了并泵,虽然发生了干旱,但灌溉用水和生活用水得到了保障。	关于农民用水户协会的建立,要继续给予后续支持。	3		
		1-4-1g: 农民用水户协会的建设和运营	-	○	-	◎	○	○	对市、县、乡村推广开展了有关农民用水户协会的培训。	自治区级人员已经认识到了农民用水户协会的必要性,他们会积极开展培训和以后的后续指导等。	在经营模式调查的同时,进行经营收支核算,与推广员一起探讨经营上的改善措施,进一步巩固和普及该程序。	2		
		1-4-2: 饲料调制技术和家畜饲养生产技术的改善	1-4-2a: 协助制定农业经营计划	◎	○	○	○	○	○	设计示范户的农业经营计划,利用经营收支核算程序制作了EXCEL表格。另外,对C/P说明了该程序的操作方法。	自治区级C/P理解了操作方法后,可以给市、县、乡科级C/P进行指导。	2010年度为了扩大生产,计划再购买15头牛,但是之前有牛死亡一事要与C/P确认是否有需要改进的地方。	2	
		1-4-2b: 良种家畜的引进和饲养	-	◎	-	◎	○	○	○	在恰布拉克村引进了肉用兼用品种新疆褐牛的种牛(种公牛2头和种母牛5头)。另外,给牧民培训了新疆褐牛的饲养方法。	项目购买的母牛产下2头牛犊,死了一头母牛。	扩大人工授精的应用,促进村里的家畜改良工作。	2	
		1-4-2c: 购买人工授精器具,完善人工授精体制	-	◎	-	○	○	○	○	给阿克旗村购买了荷斯坦牛冷冻精液(240支)和液氮罐(30L的2罐),给恰布拉克村购买了瑞士褐牛冷冻精液(200支)和液氮罐(30L的2罐、10L的1罐)。同时在村里确定了人工授精员,确立了人工授精实施体制。	在与C/P商议后决定了人工授精器具的问题。	调查2010~2011年项目点实际畜产品(活牛、活羊、牛奶)流通途径,对牧民开展培训。另外,考虑畜产品流通途径,构筑流通网络和信息网。	2	
		1-4-2d: 农户经营收支记账	-	○	○	◎	○	○	○	在了解家畜饲养、农户经营的实际情况的同时,为了将这些做成资料,以便查找问题和研究改善对策,针对个别农户制作了记账表,让农户进行记账。通过对农户的培训,普及了记账的必要性。	通过记账,完善了能够了解农户的畜饲养情况和经营情况并发现问题的体制。另外,各个农户认识到记账对于掌握自己的经营状况和研究改善方法很有帮助。	调查2010~2012年,项目点实际畜产品(活牛、活羊、牛奶)流通途径,对牧民开展培训。另外,考虑畜产品流通途径,构筑流通网络和信息网。	2	
		1-4-2e: 畜产品流通计划的制定	-	○	○	-	◎	○	○	对一般的羊肉流通途径以及牧民的畜产品经营模式的实际情况进行了调查了解。另外,为制定畜产品流通计划,对自治区和市县级C/P开展了必要的培训。	制定了流通途径调查和畜产品流通计划,另外,制定了有关这些内容的培训计划。	确认建立合作社的条件。另外,关于通过合作社来进行联合销售的牛奶,牧民已经跟乳品加工企业有过具体的交谈。	2010年度对C/P开展有关本国的农业合作社和中国的农民专业合作社的培训。另外,要带牧民去参观项目点附近的先进农民专业合作社。2011年初,要在项目点建立牧民专业合作社(或者农牧民合作社)。	2
		1-4-2f: 牧民经济合作组织的建立	-	-	-	○	◎	○	○	在阿克旗村,为建立合作社实施调查,C/P和牧民一起,已经开始了建立合作社的准备工作。在恰布拉克村,已经开始制定加工并联合销售T酪素的计划。	尚无成果	2010年度对C/P开展有关本国的农业合作社和中国的农民专业合作社的培训。另外,要带牧民去参观项目点附近的先进农民专业合作社。2011年初,要在项目点建立牧民专业合作社(或者农牧民合作社)。	2	
		1-4-2g: 联合销售的实施	-	-	-	-	◎	○	○	在阿克旗村,市里C/P与牧民之间已经就联合销售有过交谈。	尚无成果	2010年度对C/P开展有关本国的农业合作社和中国的农民专业合作社的培训。另外,要带牧民去参观项目点附近的先进农民专业合作社。2011年初,要在项目点建立牧民专业合作社(或者农牧民合作社)。	2	
1-4-2h: 家畜饲养技术相关OJT的实施	-	○	○	-	◎	○	○	通过给家畜进行人工授精、饲养并有效利用引进的优良家畜,加强家畜饲养和农户经营情况的记账,实践经营收支核算,家畜饲养领域的相关行政人员和农户的技术得到了提高。	对于项目中人工授精、引进家畜的饲养和扩大生产、经营计划改善等活动,家畜饲养技术相关行政人员和农户的参与度增加了。	2010年度在德尔沟乡三工滩草场和杜热乡阔克布拉克乡共补播了33.3ha(500亩)。(德尔沟乡:围栏内20ha、围栏外13.3ha;杜热乡:全部都在围栏内)	通过具体技术的改善和普及工作,2011年度要通过牧民专业合作社(或者农牧民合作社)实现联合销售。	5		
1-4-3: 天然草地保护恢复措施的实施(针对“调查天然草地恢复情况”的监测工作此次加以变更)	1-4-3a: 通过补播恢复植被	-	◎	-	-	-	-	在德尔沟乡三工滩草场和杜热乡阔克布拉克乡共补播了33.3ha(500亩)。(德尔沟乡:围栏内20ha、围栏外13.3ha;杜热乡:全部都在围栏内)	在多次与C/P讨论之后决定了补播的牧草品种和补播时间。	在与C/P多次讨论之后决定了围栏的安装地点和规模。	2010年度在德尔沟乡三工滩草场和杜热乡阔克布拉克乡共补播了33.3ha(500亩)。(德尔沟乡:围栏内20ha、围栏外13.3ha;杜热乡:全部都在围栏内)	5		
	1-4-3b: 利用与优良牧草间的生物种间竞争进行毒草防除	-	◎	-	◎	-	-	在德尔沟乡南黑沟草场共设置了3000m的围栏。	在多次与C/P讨论之后决定了围栏的安装地点和规模。	在多次与C/P讨论之后决定了围栏的安装地点和规模。	2010年度在德尔沟乡三工滩草场和杜热乡阔克布拉克乡共补播了33.3ha(500亩)。(德尔沟乡:围栏内20ha、围栏外13.3ha;杜热乡:全部都在围栏内)	5		
	1-4-3c: 利用轮牧进行放牧管理	-	◎	-	◎	-	-	-	在德尔沟乡天然草地(夏牧场)安装了网围栏8000m。在杜热乡天然草地安装了刺丝围栏7600m。	在多次与C/P讨论之后决定了围栏的安装地点和规模。	在多次与C/P讨论之后决定了围栏的安装地点和规模。	2010年度在德尔沟乡三工滩草场和杜热乡阔克布拉克乡共补播了33.3ha(500亩)。(德尔沟乡:围栏内20ha、围栏外13.3ha;杜热乡:全部都在围栏内)	5	
1-4-3d: 天然草地保护利用相关OJT的实施	-	○	○	○	○	○	○	2007年度开展了19次,2008年度开展了12次。详见附件OJT记录一览表	自治区、市、县、乡相关人员的职责明确,每个人分别具备自觉开展天然草地保护恢复工作的素质。	实施过程中发生技术问题时,相关人员能够集中智慧努力解决。	3			

根据PC制定的工作计划(每个项目)				项目活动情况				今后的计划	完成度(5阶段)			
大项目	中项目	小项目	实施时间				活动实绩			活动成果		
			5月	6月	7月	8月						
1-5: 试点项目的监测与评价	1-5-1: 草地管理方面的监测与评价	1-5-1a: 实施外播后牧草适应能力调查	-	○	○	○	○	构筑监测方法指导和实施体制, 开始了庙尔沟乡和杜热乡的监测工作。	整理、分析监测结果, 找出问题, 改进2010年以后的监测计划。	每年对监测结果进行集中和分析, 如有必要的对策派员开展讨论, 向牧民和乡里、村里的相关人员告知成果。	3	
		1-5-1b: 毒草防除效果观察	-	○	○	○	○	构筑监测方法指导和实施体制, 开始了庙尔沟乡和杜热乡的监测工作。	同上	同上	3	
		1-5-1c: 每个轮牧小区在放牧前后的样方调查	-	○	○	○	○	构筑监测方法指导和实施体制, 在富蕴县杜热乡实施样方调查。另外, 开始了庙尔沟乡和杜热乡的监测工作。	同上	每年, 在判断牧区内草的生长情况的同时, 在制定放牧头数和轮牧期间等轮牧计划的基础上, 继续给牧民进行指导和实施计划, 向牧民和乡里、村里的相关人员告知成果。	3	
		1-5-1d: 草地管理领域试点项目的分析与评价	-	-	○	○	○	整理并分析了2009年度的监测结果。	向C/P告知监测的整理和分析结果, 逐步改进2010年的监测内容和办法。	对比对照区(放牧)和自由放牧区的植被恢复状况, 明确3种措施的效果。	3	
	1-5-2: 土地利用方面的监测与评价	1-5-2a: 确定作物种植结构的目标	○	○	○	○	○	调查2007年度示范户的作物栽培情况, 分析现状, 讨论了经济作物、粮食作物和饲料作物的栽培结构比例。在设计示范户的农业经营类型和制定农业经营计划(栽培)时, 将现状分析结果反映到其中, 询问了2008年度示范户的作物栽培计划, 但与实际情况差距很大。	为实现小富换大富, 正在努力提高牧民从饲料生产、供给到家庭饲养的技术, 在阿克旗村, 这效果已逐步显现, 示范户的作物栽培结构发生了变化, 饲料作物的种植比例得到大幅增加。	有的农户根据自己的判断没有按计划种植作物, 要调查了解并分析其原因, 想出必要的对策。	3	
		1-5-2b: 土地利用计划图的制作和对每年变化的观察	-	○	○	○	○	制作了2008年度示范村土地利用现状图, 了解了定居村平面分布情况、示范户耕地分布和作物栽培面积, 对2009年度的变化进行了监测。	逐步掌握土地利用情况每一年的变化。	土地利用形态在逐步发生改变, 需要每年进行跟踪调查。	2	
		1-5-2c: 关于土地利用情况的分析与评价	-	-	○	○	○	对2009年度的监测结果进行了整理和分析。	向C/P告知了监测工作的整理和分析结果, 逐步改进2010年度的监测内容和办法。	分析各个示范户的土地利用情况, 对构成比例、轮作等情况进行评估。	3	
		1-5-3: 饲料栽培方面的监测与评价	1-5-3a: 苜蓿、玉米的样方调查	○	○	○	○	○	对两个示范村的重点5户实施了样方产量调查(苜蓿监测3茬草, 恰布拉克村则为2茬), 掌握了各个农户的栽培技术现状。	在了解了各个农户的栽培技术现状之后, 与C/P和牧民统一了对于存在的问题和需要改善的方面的认识。	累积监测数据, 将其反映在工作中并对其进行报告材料的数据进行说明。	3
	1-5-3: 饲料栽培方面的监测与评价	1-5-3b: 土壤分析调查	○	○	○	○	○	与新疆农业大学合作, 对两个村种植饲料作物的土地进行了土壤分析。	根据土壤分析值, 制定出合理的2009年饲料作物栽培的施肥量。	根据土壤状况进行分析调查, 促进土壤改良。	3	
		1-5-3c: 生长情况调查、种子肥料施用情况确认	-	○	○	○	○	2008年和2009年, 对两个示范户地里的饲料作物栽培情况和生长情况进行了调查。	掌握了现状, 明确需要改善的方面, 进行了指导建议。	累积监测数据, 将其反映在工作中并对其进行报告材料的数据进行说明。	3	
		1-5-3d: 增加调制饲草监测项目	-	-	○	○	○	对监测员进行了OJT(在职培训)。	通过配套农具建设和建设青贮窖, 2009年度示范户中, 有60%都制作了青贮料。	同上	3	
		1-5-3e: 饲料栽培领域试点项目的分析与评价	-	-	○	○	○	对2009年度的监测结果进行了整理和分析。	向C/P告知了监测数据的整理和分析结果, 逐步改进2010年度的监测内容和办法。	对监测员继续开展培训, 提高监测数据的可信度。	3	
		1-5-4: 家庭饲养方面的监测与评价	1-5-4a: 检查农牧业经营收支计算情况	-	○	-	○	○	确定了经营收支计算方法。另外, 虽然通过让农户记账确立了监测体制, 但还未能充分发挥其功能, 监测也未能实施。	尚无成果	再次研究和改进监测体制, 通过集中让农户记账和继续进行经营收支核算, 监测项目实施过程中所改善的方面。	2
		1-5-4b: 了解人工授精实施情况	-	○	○	○	○	○	确立了人工授精实施情况的监测体制并开始监测工作。	利用冷冻精液进行人工授精, 产出了牛犊。另外, 配种工作有计划的进行, 并且做了记录。	继续监测人工授精实施情况, 观测家畜改良的效果。	2
	1-5-5: 畜产品流通方面的监测与评价	1-5-4c: 家畜饲养领域试点项目的分析与评价	-	-	○	○	○	对2009年度的监测结果进行了整理和分析。	向C/P告知了监测数据的整理和分析结果, 逐步改进2010年度的监测内容和办法。	对每年的监测情况进行整理, 评价项目的实施效果。	2	
		1-5-5a: 了解畜产品销售情况变化	-	○	○	○	○	2008年度, 对农业经营收支记账方法进行了培训。	记账指导不够, 未能充分监测畜产品销售情况。	要再次就记账方法对牧民进行培训, 监测过程中如果遇到记录不充分的情况, 也要随时加以指导, 持续开展监测, 观测每个月的销售情况变化。	2	
		1-5-5b: 检查牧民家庭收支记账情况	-	○	○	○	○	2008年度对阿克新牧民, 2009年度对恰布拉克牧民开展家庭收支记账方法的培训。	牧民并不是自己记账, 而是每个星期监测员前去村牧民开展家庭收支记账方法的培训。	要再次开展培训, 强调让牧民自己每天记账, 继续实施监测, 每月监测记录情况。	2	
		1-5-5c: 流通领域试点项目的分析与评价	-	-	-	○	○	为了实施试点项目, 对C/P开展流通和联合销售方面的培训。	让C/P认识到在通过牧民专业合作社(或者农牧民合作社)进行联合销售和构建市场信息体制之前, 必须要考虑哪些方面。	制定畜产品流通计划, 建立牧民专业合作社(或者农牧民合作社)后, 实施试点项目, 将分析结果反映到技术手册中。	2	
	1-5-6: 水利计划的监测与评价	1-5-6a: 土壤盐分的定期观测	-	○	-	○	○	购买了EC和pH计, 确立了监测的方法指导和实施体制。	尚无成果	①土壤盐分浓度的定点观测、②实施有关盐碱化、灌溉水质的培训、③观测土地利用	2	
		1-5-6b: 通过测量流量掌握需要的灌溉水量	-	○	○	○	○	购买了流速仪, 确立了监测方法的指导和实施体制。	在恰布拉克村, 2009年进行了流量监测, 制作了水位-流量曲线图。	要计算出需要的灌溉水量。	3	
		1-5-6c: 引进按方征收水费的体系	-	○	-	○	○	在农民用水户协会的培训中, 说明了按方征收水费的必要性。	2010年度在恰布拉克村实现了按方征收水费。	①水费计算方法的公示、②根据按方征收制度制作灌溉水使用情况明细表、③牧民进行卡片记录	2	
		1-5-6d: 水利利用领域试点项目的分析与评价	-	-	○	○	○	整理并分析了2009年度的监测结果。	向C/P告知了监测数据的整理和分析结果, 逐步改进2010年度的监测内容和办法。	了解引进节水灌溉设施后的节水效果	2	
	1-6: 计划制定技术手册、技术手册的制作	1-6-1: 计划制定技术手册的制作	1-6-1a: 完成技术手册的主要内容	-	-	-	○	○	尚无实绩	尚无成果	从试点项目初见成果的4年度开始制定, 技术手册要在提高培训效果的同时, 加强技术内容的运用, 使其能够持续地、扩展到更广泛的范围。	1
			1-6-1b: 制作技术手册所需素材的收集与整理	-	-	-	○	○	尚无实绩	尚无成果		1
1-6-1c: 技术手册的制作			-	-	-	○	○	尚无实绩	尚无成果		1	
1-6-1d: 技术手册的说明与分发			-	-	-	○	○	尚无实绩	尚无成果		1	
1-6-1e: 技术手册使用情况的监测			-	-	-	○	○	尚无实绩	尚无成果		1	
1-6-1f: 技术手册的修改与更新			-	-	-	-	○	○	尚无实绩	尚无成果	中方在制定项目成果的普及计划时加以运用, 增加、修改其内容。	1
1-6-2: 普及指导工具的制作		1-6-2a: 对现有教材的收集	○	○	○	-	-	-	收集市场上出售的教材和视听教材(汉语、哈萨克语), 了解其内容。	购买市场上出售的教材, 整理出教材收集清单		5
		1-6-2b: 指导教材的编写与制作	-	○	○	○	○	○	运用现有项目或其他渠道的教材, 对牧民开展培训。在牧民培训中制作并使用了幻灯资料。	2008年度完成了17种牧民教材	在最大限度地利用现有教材的同时, 以培训时使用的幻灯资料等为基础, 制作视听教材。	4
		1-6-2c: 教材使用情况的监测	-	-	○	○	○	○	确认了培训中使用的教材内容。	现有教材使用的较多。	通过实施牧民培训等, 了解需要改善的方面。	3
		1-6-2d: 教材的修改与更新	-	-	○	○	○	○	与科级干部培训中心合作, 修改并制作教材。	尚无成果	听取市县培训负责人的意见, 与科级干部培训中心一起制作和更新。	1

根据PC制定的工作计划(每个项目)			项目实施时间					项目活动情况		今后的计划	完成度(5阶段)
大项目	中项目	小项目	2007	2008	2009	2010	2011	活动实绩	活动成果		
2-1: 了解技术普及体制的现状和存在的问题, 制定培训计划		2-1a: 了解现状和存在的问题	◎	◎				直接询问C/P和乡村相关人员, 了解现状和存在的问题。另外, 对示范户开展问卷调查, 了解他们对培训的需求。	就技术普及体制和技术普及现状总结出报告书, 整理了在制定计划方面存在的问题。		5
		2-1b: 培训计划的制定	-	○	-	◎	○	考虑了2007、2008年度实施的培训中存在的课题, 制作出培训计划。	制作了2009年度的培训课程方案。	科级干部培训中心与市县科技局合作, 在研究了培训时间和讲课方法等之后, 制定培训计划并实施。	2
		2-1c: 培训计划的修改	-	-	-	○	◎	尚无实绩	尚无实绩	计划对2010年度制作的培训课程的实施情况进行监测, 根据实际情况适当加以修改。	1
2-2: 按照培训计划对市县、乡级行政管理人员实施培训		2-2a: 对市县级行政人员的培训	◎	◎	○	○	○	2007年度开展了5次、2008年度5次、2009年度1次。详情见附件培训实绩一览表	科级干部培训中心开展的市县级(以干部为对象)培训, 虽然至今为止实施的非常少, 但在本项目中已经开始让他们渐渐认识到培训的重要性。	计划将今后讲课的内容根据听课对象的不同随时进行修改。	3
		2-2b: 对乡级行政人员的培训	◎	◎	○	○	○	同上			3
		2-2c: 对培训结果的评价	○	○	-	○	○	培训后开展问卷调查			2
2-3: 按照培训计划对市县、乡级技术推广人员实施培训		2-3a: 对市县级技术推广员的培训	-	○	○	○	○	2008年度1次、2009年度1次。详情见附件培训实绩一览表	关于农民用水户协会的建立, 接受培训人员通过学习基础知识和考察先进地区的实际事例, 使得建立协会的时机更加成熟了(2008年)。关于轮牧的监测方案, 通过对监测员实施培训, 管理方和实施方在统一认识的基础上开始了监测(2009年)。	从牧民那里得知, 县乡技术人员的实践指导很少, 所以计划增强他们的指导能力。另外, 不仅仅要在培训中学习技术, 还要通过试点项目中的监测工作、与自治区级专家的交流和OJT等形式学习技术。	2
		2-3b: 对乡级技术推广员的培训	-	○	○	○	○	同上			2
		2-3c: 对培训结果的评价	-	○	-	○	○	培训后实施问卷调查			2
2-4: 按照培训计划由市县、乡级技术推广员对牧民开展培训		2-4a: 天然草地培训的实绩	-	○	○	○	○	2008年度2次、2009年度1次。详情见附件培训实绩一览表	仅凭市县乡级推广员对牧民进行培训和指导力量还很不够, 现阶段是以日方专家和自治区C/P为直接对牧民进行指导。	已形成惯例的“科技之冬”培训, 其水平仍然不适合牧民, 因此, 牧民即使理解了理论上的内容, 也无法在需要的时候将学过的内容加以实践, 对于这样的问题, 计划根据牧民的需求来制定培训内容。另外, 以市县科技局为主的牧民培训, 计划要以以下的体制加以实施: 从下到上征集需求, 从上到下了解需求, 提高根据实际需求提供技术的能力, 提高对牧民进行指导的能力。	2
		2-4b: 饲料栽培管理培训的实绩	○	◎	-	◎	○	2007年度1次、2008年度8次。详情见附件培训实绩一览表	项目实施的培训是以“使用简易教材课堂授课+实地指导”为主, 另一方面, 以中方为主体实施的“科技之冬”培训, 是以课堂授课为主, 他们结合当年项目所开展的活动而实施, 要让他们补充适合牧民的培训内容。		2
		2-4c: 家畜饲养培训的实绩	○	◎	○	◎	○	2007年度1次、2008年度4次、2009年度1次。详情见附件培训实绩一览表			2
		2-4d: 水利利用领域培训的实绩	○	○	-	◎	○	2007年度1次、2008年度1次。详情见附件培训实绩一览表			2
		2-4e: 与家庭收支记账、联合销售、组织化有关的培训	-	-	○	○	○	2009年度开展了1次。详情见附件培训实绩一览表			2
		2-4f: 对培训结果的评价	○	○	-	○	○	培训后实施问卷调查			2
2-5: 示范性普及计划的制定		2-5a: 技术普及体制完善计划的制定	◎	-	-	○	○	直接询问C/P和乡村相关人员, 了解技术普及方面的现状和存在的问题。	整理总结示范区的技术普及体制完善计划。	在将计划付诸实施的过程中, 要根据实际情况加以改进。	3
		2-5b: 技术支持体制的构建	-	○	-	◎	◎	关于试点项目的实施, 市县科技局负责管理和监督, 市县、乡的相关单位负责提供专业领域方面的支持。	试点项目的实施过程中, 通过OJT的形式, 逐步让各个相关人员搞清了自己的分工与责任。	在对牧民培训结果进行分析、评价的同时, 与科级干部培训中心合作提高市县科技局的能力。	2
		2-5c: 计划的验证、补充、修改	-	-	-	◎	○	尚无实绩	尚无实绩	每年对科级干部培训中心制作的培训课程进行分析评价, 适当地加以修改。	1
		2-5d: 对可持续性和辐射性的探讨	-	-	-	-	◎	尚无实绩	尚无实绩	计划构建这样一种机制, 使得项目结束后, 通过技术转移培养的行政相关人员和推广人员能够积极地参与到定居事业和村里的各项工作中。	1
		2-5e: 示范性普及计划的制定	-	-	-	○	◎	尚无实绩	尚无实绩	要制定一个计划, 与科级干部培训中心一起, 使技术手册作为项目成果的总结, 在示范区周边的已有或新建定居村的工作中加以运用。	1

注1) ◎: 重点实施或者已经完成的, ○: 补充实施或者今后有必要跟进的, -: 尚无实绩  
注2) 关于完成度的5个阶段评价, 以3为基准, 未完成的工作比较多的为2、少的为4、尚未着手实施的为1、已经完成的为5。

资料 B-2 培训实施情况一览表 (2007 年度 ~ 2009 年度)

【第 1 年度 (2007 年度)】

分类以及培训名称	培训内容	培训时间	培训地点	讲师单位及姓名	培训方法 (使用的教材等)	培训对象	参加人数
<b>【行政相关培训】</b>							
PCM 培训 (自治区级)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 方法的概要、理论说明</li> <li>演示练习 (从相关者分析到目的分析)</li> </ul>	07 年 8 月 10 日	畜牧科学院 6 楼 会议室	自治区项目办公室 小林勤	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 培训用 ppt</li> <li>使用贴纸进行演示练习</li> </ul>	自治区 C/P	21 人
PCM 培训 (市级)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 方法的概要、理论说明</li> <li>演示练习 (从相关者分析到 PDM 制作)</li> </ul>	07 年 9 月 11 日 ~12 日	富蕴县职业培训学校	自治区项目办公室 小林勤、史明	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 培训用 ppt</li> <li>使用贴纸进行演示练习</li> </ul>	富蕴县 C/P (乡里干部)	17 人
PCM 培训 (县级)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 方法的概要、理论说明</li> <li>演示练习 (从相关者分析到 PDM 制作)</li> </ul>	07 年 9 月 24 日 ~25 日	昌吉市科技局 会议室	自治区项目办公室 小林勤、史明	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 培训用 ppt</li> <li>使用贴纸进行演示练习</li> </ul>	昌吉市 C/P (乡、村里干部)	14 人
演示说明培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>演示说明的理论</li> <li>ppt 制作技术</li> <li>演示说明的发言技术</li> </ul>	07 年 10 月 30 日 ~31 日	富蕴县职业培训学校	自治区项目办公室 大森圭祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>演示说明培训用的 ppt</li> <li>开展小组发言</li> <li>练习提问回答</li> </ul>	富蕴县 C/P (乡里干部)	12 人
演示说明培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>演示说明的理论</li> <li>PPT 制作技术</li> <li>演示说明的发言技术</li> </ul>	07 年 11 月 6 日 ~7 日	昌吉市科技局 会议室	自治区项目办公室 大森圭祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>演示说明培训用的 ppt</li> <li>开展小组发言</li> <li>练习提问回答</li> </ul>	昌吉市 C/P (乡、村里干部)	15 人
「定居农户经营收支计算」 程序操作培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>对程序构成、原理的说明</li> <li>操作方法和编辑方法</li> </ul>	07 年 12 月 14 日	畜牧科学院 5 楼 会议室	自治区项目办公室 清水直也	<ul style="list-style-type: none"> <li>通过 EXCEL 练习</li> </ul>	自治区 C/P (筹备 饲养领域)	7 人
小计							86 人
<b>【牧民技术培训】</b>							
PCM 培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 方法的概要、理论说明</li> <li>演示练习 (从相关者分析到目的分析)</li> </ul>	08 年 1 月 11 日 ~12 日	阿克旗村活动室	自治区项目办公室 小林勤	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM 培训用 ppt</li> <li>使用贴纸进行演示练习</li> </ul>	牧民	60 人
富蕴县恰布拉克村冬季牧民培 训	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉米、苜蓿栽培</li> <li>奶牛饲养、动物疾病防治</li> <li>水管理技术</li> </ul>	08 年 1 月 24 日 ~26 日	恰布拉克村小学校	农业技术推广站 柴马 泰、农机局 加尔斯、 水管站 霍森、草原站 金恩斯别克、畜牧兽医 站 干及尔	课堂培训、使用简易教材	牧民	98 人
小计							158 人
2007 年度合计							244 人

※斜体字表示中方计划的培训。

【第2年度(2008年度)】

分类以及培训名称	培训内容	培训时间	培训地点	讲师单位及姓名	培训方法 (使用的教材等)	培训对象	参加人数
<b>【行政相关培训】</b>							
昌吉市科技管理干部培训	PCM方法的概要说明和实践	08年8月6日	昌吉回族自治州党校	自治区项目办公室 大森去祐	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCM培训用ppt</li> <li>利用贴纸分析问题并发言</li> </ul>	科技副乡长、副主任	26人(无经费支出)
富蕴县恰布拉克制定农业经营计划的培训	经营收支计算方法的说明与实践	08年8月6日	畜牧科学院内	畜牧科学院 张金山 自治区项目事务所 松本武司	利用电脑进行经营收支计算的思路与方法的实践	富蕴县科技局	2人
昌吉市阿克旗村制定农业经营计划的培训	经营收支计算方法的说明与实践	08年8月15日	阿克旗村村长室	畜牧科学院 张金山 自治区项目事务所 松本武司	利用电脑进行经营收支计算的思路与方法的实践	昌吉市科技局 乡、村里有关人员	3人
天然草地监测技术交流会	天然草地监测方法	08年12月19日	畜牧科学院内	畜牧科学院 赵德云 自治区项目事务所 伊贺启文	<ul style="list-style-type: none"> <li>监测方法的说明</li> <li>有关天然草地的PDM指标的意见建议</li> </ul>	昌吉市草原站、富蕴县草原站有关人员	3人
项目区乡干部现代农牧业科技管理知识培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>项目计划和管理</li> <li>区域的经济发展</li> <li>农业相关产业的开发</li> </ul>	09年1月12日~1月21日	新疆科级干部培训中心	新疆畜牧科学院、新疆农业大学、新疆畜牧厅、新疆农业科学院等	讲课及实地参观学习	项目区乡干部	30人
<b>小计</b>							
<b>【普及的相关培训】</b>							
农民用水户协会规范化建设与发展	<ul style="list-style-type: none"> <li>农民用水户协会的建立方法和运作</li> <li>先进地区考察学习</li> </ul>	08年8月23日	昌吉市科技局会议室及该市南头工村	自治区水利厅水管总站 总经济师 年自力	<ul style="list-style-type: none"> <li>农民用水户协会培训用ppt</li> <li>同时使用的教材</li> </ul>	市县水利局 乡村水管员 市县科技局	11人
<b>【牧民技术培训】</b>							
昌吉市阿克旗村农机具维护管理培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>发动机的日常维修</li> <li>传动系统的使用及注意事项</li> <li>液压系统的使用与维护</li> <li>后悬挂机具的操作与调整</li> <li>一般拖拉机故障的处理方法和应急措施</li> </ul>	08年7月25日	阿克旗村拖拉机管理 员的院子里	民间农机具公司的职员 马明	实地指导 (需要准备教材, 翻译成哈语)	拖拉机管理员(定居牧民)	2人
富蕴县恰布拉克村农机具维护管理培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>拖拉机的日常检验、简单维修</li> <li>后挂机具的日常检验和简单维修</li> </ul>	08年8月13日	杜热乡政府院内	县农机站站长 别尔别克	实地指导	拖拉机管理员、驾驶员(乡、村)	2人
昌吉市阿克旗村示范户苜蓿栽培培训	苜蓿播种、管理技术	08年9月2日	阿克旗村培训点	自治区项目办公室 叶精一 新疆农大 艾比布拉	使用简易教材	乡、村推广员 示范户	20户
昌吉市阿克旗村示范户堆肥培训	腐熟堆肥生产技术	08年9月3日	示范户的院子	自治区项目办公室 叶精一 新疆农大 艾比布拉	使用简易教材	乡、村推广员 示范户	20户
富蕴县恰布拉克村PCM方法	恰布拉克村存在的主要问题	08年11月19日	恰布拉克村培训点	自治区项目办公室 林勤	幻灯讲解以及听课人员的参与	牧民	64人
富蕴县恰布拉克村示范户苜蓿栽培培训	苜蓿播种、管理技术	08年11月19日	恰布拉克村培训点	自治区项目办公室 叶精一	使用简易教材	乡、村推广员 示范户	20户

富蕴县恰布拉克村示范户堆肥培训	腐熟堆肥生产技术	08年11月19~20日	恰布拉克村培训点	新疆农大 艾比布拉 自治区项目办公室 干叶精一 新疆农大 艾比布拉 畜牧科学院 张金山 新疆农大 艾比布拉	使用简易教材及实地培训	乡、村推广员 示范户	20户
家畜饲养和农业经营改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>家畜饲养方法</li> <li>饲料喂养方法</li> <li>生产计划的制定方法</li> <li>有效的经营方法</li> <li>天然草地保护型农牧业</li> <li>草地管理</li> <li>草地补播改良</li> <li>人工草地建设</li> </ul>	08年12月15日	阿克旗村活动室	自治区项目办公室 伊贺启文 县草原站	讲课、实地指导	示范户	53人
富蕴县草地管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>家畜饲养方法</li> <li>饲料喂养方法</li> <li>生产计划的制定方法</li> <li>有效的经营方法</li> <li>青贮料的调制</li> <li>奶牛饲养</li> <li>自清裁培与加工</li> <li>农村专业技术协会的建立</li> </ul>	08年12月16日	恰布拉克村活动室	畜牧科学院 张金山	幻灯、哈语材料、原有的培训教材	牧民	78人
家畜饲养和农业经营改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉米、向日葵的栽培技术</li> <li>奶牛饲养管理技术</li> <li>青贮料的调制</li> <li>节水灌溉的知识与方法</li> </ul>	08年12月16日	恰布拉克村活动室	畜牧科学院 张金山	讲课、实地指导	牧民	78人
昌吉市阿克旗村冬季牧民培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>青贮料的调制</li> <li>奶牛饲养</li> <li>自清裁培与加工</li> <li>农村专业技术协会的建立</li> </ul>	09年1月9日、 09年1月11日	阿克旗村活动室	畜牧科学院 赵德云 畜牧科学院 阿力 新疆农大 艾比布拉 农经管理站 马建新	使用幻灯、简易教材	牧民	62人
富蕴县恰布拉克村冬季牧民培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>玉米、向日葵的栽培技术</li> <li>奶牛饲养管理技术</li> <li>青贮料的调制</li> <li>节水灌溉的知识与方法</li> </ul>	09年2月11日	恰布拉克村活动室	农业技术推广站 朱马泰、哈吉拜、兽医站 叶儿克江、草原站 金恩斯、县水管站 吉格尔斯等	讲课、使用简易教材	牧民	45人
<b>【先进地区参观学习】</b>							
阜康先进地区技术培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>农业栽培</li> <li>节水灌溉</li> <li>牛羊繁殖与饲养</li> <li>牧民定居</li> </ul>	08年9月24~ 26日	阜康县	当地领导	考察、意见交流	富蕴县科技局 乡村干部 示范户	23户
玛纳斯先进地区技术培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>奶牛饲养管理</li> <li>青贮料调制</li> <li>饲料栽培</li> <li>普及制度</li> </ul>	08年9月25~ 26日	塔西河乡大草滩村、 凉州户太阳庙村、农 业技术服务中心、石 河子高新农业示范 区、沙湾县栽培示范 区(二道河子村)	当地领导	考察、意见交流	昌吉市科技局 乡村干部 示范户	20户
计							507名 582名
2008年度合计							

※斜体字表示中方计划的培训。



【第3年度(2009年度)】

分类和培训名称	培训内容	培训时间	培训地点	培训老师和所属单位	培训方法 (使用教材等)	培训对象	参加人数
<b>【推广员培训】</b>							
昌吉市庙尔沟乡草地监测	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 天然草地保护恢复对策草地监测技术</li> </ul>	09年5月12日	昌吉市庙尔沟乡察尔巴斯阔草场	畜牧科学院 赵德云	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 轮牧监测方案</li> </ul>	昌吉市庙尔沟乡草原兽医站工作人员	4人
<b>【行政及推广人员培训】</b>							
2010年昌吉市、霍城县“农村科技创业”	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 赴日研修(2008年)中学到的新疆畜产发展方向</li> <li>• 牛的品种和繁殖技术</li> <li>• 动物传染病及其对策</li> <li>• 饲料加工与饲养技术</li> <li>• 食品安全生产技术</li> <li>• 先进地区考察</li> </ul>	10年1月25日~1月29日	科级干部培训中心(乌鲁木齐)	畜牧科学院 马来书 新疆兵团工商 刘德盛 畜牧科学院 郑新宝 畜牧科学院 王治才 畜牧科学院 敬红文 农业大学 黄锡霞 农业大学 王志琴	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 讲师运用制作好的ppt讲课</li> <li>• 实地考察</li> </ul>	昌吉市和霍城县乡村干部及推广员	20人
<b>【牧民技术培训】</b>							
霍城县恰布拉克村牧民培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 家畜饲养管理记录</li> <li>• 农户家庭收支记账</li> </ul>	09年6月2日	恰布拉克活动室	畜牧科学院 张金山 畜牧科学院 杨奎花 畜牧科学院 苏尤力	家畜饲养、家庭收支记账用表	示范户	20人
昌吉市阿克旗村冬季牧民培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 土地利用与节水灌溉</li> <li>• 农村合作、农业技术协会建设</li> <li>• 奶牛乳房炎防治</li> <li>• 乳制品加工与卫生安全技术</li> <li>• 青贮料调制技术</li> <li>• 优质牧草栽培管理技术</li> <li>• 草原使用证的使用方法</li> <li>• 家庭收支记账的方法</li> </ul>	10年1月23日~1月28日	阿克旗村活动室 井老堰村活动室 牧业村活动室	市水利局 吉恩恩 市农业技术学院 纳兴 市畜牧局 吾尔肯 市草原站 哈比	讲课、使用买来的教材	牧民	60人
霍城县恰布拉克村冬季牧民培训	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 玉米、向日葵的栽培技术</li> <li>• 奶牛的饲养管理技术</li> <li>• 青贮料的调制</li> <li>• 节水灌溉的知识和方法</li> </ul>	10年1月下旬	恰布拉克活动室	农业技术推广站 朱马泰、哈吉拜, 兽医站 叶尔克江, 草原站金额斯, 县水管站 吉格乐等	讲课、使用简易教材	牧民	60人
2009年度合计							164名

※斜体字表示中方计划的培训。

资料B-3 OJT (在职培训) 记录

分领域

a) 草地管理

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年6月27日	实地调查	昌吉市庙尔沟乡索尔巴斯陶牧场	马来书(畜牧科学院), 张玉宏(昌吉市), 王海峰/哈杰提/马青云/那孜拉(庙尔沟乡)	6
2	2007年7月24日	实地调查	富蕴县杜热乡阔克布拉克牧场	李瑞年(畜牧科学院), 马合萨提/倪德华/姜万里(富蕴县)	4
3	2007年7月25日	了解工作情况	富蕴县草原站	李瑞年(畜牧科学院), 姜万里(富蕴县)	2
4	2007年7月26日	了解工作情况	昌吉市科技局	马来书(畜牧科学院), 王吉云(昌吉市)	2
5	2007年7月31日	天然草地保护利用计划主要内容的讨论	自治区项目办公室	马来书/赵德云(畜牧科学院)	2
6	2007年8月13日	草地相关情况调查	富蕴县政府会议室	马合萨提/倪德华/姜万里(富蕴县)	3
7	2007年8月14日	实地调查	富蕴县杜热乡沙依肯布拉克草场	李瑞年(畜牧科学院), 马合萨提/倪德华/姜万里(富蕴县)	4
8	2007年8月14日	了解工作情况	富蕴县杜热乡临时牧业办公室	同上	4
9	2007年8月17日	了解工作情况	富蕴县草原监理站	不明(富蕴县)	1
10	2007年10月16日	询问了解天然草地整体监测情况	新疆农大草业工程学院	安沙舟(新疆农业大学)	1
11	2007年10月25日	讨论天然草地保护利用恢复计划草案	自治区项目办公室	马来书/赵德云(畜牧科学院)	2
12	2007年11月6日	询问了解定居政策	自治区项目办公室	阿尔斯坦/赵新春/王万林(畜牧厅)	3
13	2007年11月13日	制定天然草地保护利用计划的步骤	自治区项目办公室	马来书/赵德云/李瑞年(畜牧科学院), 库尔班(新疆农业大学)	4
14	2007年11月16日	制定天然草地保护利用计划的安排	富蕴县草原站	姜万里(富蕴县)	1
15	2007年11月19日	委托安排天然草地保护利用计划的制定工作	自治区项目办公室	张扬/马来书(畜牧科学院)	2
16	2007年11月20日	天然草地保护利用计划制定安排	昌吉市草原站	赵德云(畜牧科学院), 王吉云(昌吉市)	2
17	2007年12月12日	讨论天然草地保护利用计划的主要内容	富蕴县科技局	姜万里(富蕴县)	1
18	2007年12月14日	确认天然草地保护利用计划的内容	昌吉市科技局	赵德云(畜牧科学院), 张玉宏/吴柏林/王吉云(昌吉市), 沙(阿克旗村)	5
19	2008年2月15日	确认天然草地保护利用计划的内容	自治区项目办公室	马来书(畜牧科学院), 朱进忠(新疆农业大学)	2
	2007年度合计				51
20	2008年8月7日	关于天然草地安装围栏	昌吉市科技局	张玉宏/吴柏林(昌吉市), 马青云(庙尔沟乡)	3
21	2008年8月8日	关于天然草地轮牧计划	自治区项目办公室	赵德云(畜牧科学院)	1
22	2008年8月11日	关于天然草地安装围栏	昌吉市庙尔沟乡, 策尔巴斯陶草地	赵德云(畜牧科学院), 张玉宏/吴柏林/哈克(昌吉市), 刘金梅(庙尔沟乡)	5
23	2008年8月14日	关于围栏安装工作	富蕴县科技局	夏逢林/倪德华/姜万里/金斯别克/哈勒克哈什(富蕴县)	5
24	2008年8月20日	关于围栏安装工作	自治区项目办公室	张扬/赵德云/张金山(畜牧科学院), 吴柏林/王吉云/宋阮斌(昌吉市), 叶尔泰(庙尔沟乡)	7
25	2008年8月22日	商量围栏安装事宜	昌吉市庙尔沟乡, 索尔巴斯陶草场	赵德云(畜牧科学院), 张玉宏/吴柏林/哈克/木汗(昌吉市), 阿●提/马青云/马/木拉提/阿萨森(庙尔沟乡)	10
26	2008年9月12日	检查安装好的围栏	昌吉市庙尔沟乡索尔巴斯陶草场, 南黑沟草场	张玉宏/吴柏林/哈克(昌吉市), 木拉提(庙尔沟乡)	4
27	2008年9月13日	同上	富蕴县	夏逢林/姜万里(富蕴县)	2
28	2008年9月14日	同上	富蕴县杜热乡沙依肯布拉克草场	夏逢林/金斯别克(富蕴县)	2
29	2008年9月15日	同上	富蕴县杜热乡库卫草场	夏逢林/金斯别克(富蕴县)	2
30	2008年12月15日	关于天然草地监测结果	富蕴县科技局	夏逢林(富蕴县)	1
31	2008年12月19日	草地监测技术交流会	自治区项目办公室	赵德云, 李瑞年(畜牧科学院), 姜万里/金斯别克(富蕴县), 努尔加别克(昌吉市)	5
	2008年度合计				47
	2年合计				98

b) 家畜饲养

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年11月22日	讨论如何制定农业经营计划	畜牧科学院	张金山(畜科院)	1
2	2007年11月28日	与相关人员讨论示范户农业经营类型,分析定居牧民 的现状和家畜饲养情况	阿克旗村	哈克(昌吉市科技局),哈那提(庙尔沟乡农业干 事),巴合提尔(阿克旗村委会)	3
3	2007年12月4日	阿克旗村示范户经营收支概算程序操作方法的培 训	畜牧科学院	张金山(畜科院),哈克(昌吉市科技局),哈那提 (庙尔沟乡农业干事),巴合提尔(阿克旗村委会)	7
4	2007年12月12日	讨论恰布拉克村项目工作计划内容	恰布拉克村	张金山(畜科院),倪德华(富蕴县科技协会),干及 尔(富蕴县畜牧兽医站)	3
5	2008年2月18日	经营收支概算程序技术转移	畜牧科学院	张金山(畜科院)	1
	2007年度合计				15
6	2008年8月6日	关于制定农业经营计划的培训	畜牧科学院	张金山(畜科院),倪德华(富蕴县科技协会),干及 尔(富蕴县畜牧兽医站)	3
7	2008年8月15日	讨论冷冻精液的购买与使用	昌吉市科技局	张局长,吴柏林,哈克(昌吉市科技局)木拉提, 阿依肯(乡畜牧兽医站)	5
8	2008年8月15日	关于制定农业经营计划的培训	阿克旗村	哈克(昌吉市科技局),哈那提(庙尔沟乡农业干 事),巴合提尔(阿克旗村委会)	3
9	2008年8月20日	富蕴县恰布拉克村农业经营计划,家畜改良计划讨 论会	畜牧科学院	张扬,张金山,赵德云,杨奎花,李红波(畜牧科学 院),木黑扎提,夏逢林,倪德华(富蕴县科技局), 干及尔(富蕴县畜牧兽医站)	9
	2008年度合计				20
	2年合计				35

c) 栽培/饲料作物

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年8月7日	对项目工作统一认识	畜牧科学院	马来书,赵德云(畜牧科学院)	2
2	2007年11月13日	饲料栽培生产领域工作计划准备工作讨论会	畜牧科学院	马来书,赵德云,李瑞年(畜牧科学院)	3
3	2007年11月15日	就恰布拉克村的工作方针交换意见	富蕴县杜热乡会议室	县长助理陈镇,局长马合萨提,乡长买那别克,党 委会努尔太,村书记任东亚,村主任温米尔别克	7
4	2007年11月23日	关于确定阿克旗村农业经营类型和工作计划草案 的讨论会	畜牧科学院	C/P库尔班(新疆农业大学)马来书,赵德云,李瑞 年,张清斌,李红波,史明,(畜牧科学院)	7
5	2007年11月28日	关于制定阿克旗村工作计划交换意见	昌吉市科技局	李瑞年,赵德云,张金山(畜牧学)赵健康(新疆农 大)	4
6	2007年11月30日	关于土壤分析值的讨论	中国科学院新疆分院	黄子蔚博士,岳红霞(中科院新疆分院),李瑞年 (畜牧科学院)	3
7	2007年12月11日	与牧民交流工作计划如何制定	恰布拉克牧民家里	县科技局局长木黑扎提及其他9人	10
8	2007年12月14日	就计划的制定交换意见	昌吉市科技局	张玉宏,吴柏林,(市科技局)王吉云,努尔加列力 (市草原站),沙衣拉提,阿依肯(阿克旗村)	6
9	2007年12月17日	计划制定讨论会	畜牧科学院	张扬组长及其他10人	11
10	2007年12月19日	工作计划制定过程中的中期讨论	畜牧科学院	马来书,赵德云,李瑞年(畜牧局)	3
11	2007年12月21日	商量阿克旗村农业机械购买计划	昌吉市科技局	张玉宏局长,吴柏林(昌吉市科技局)	2
12	2008年1月23日	讨论工作计划制定工作的进展情况	畜牧科学院	张扬,马来书赵德云,李瑞年张金山,简宏凯,杨奎 花,李红波(畜牧科学院)	6
13	2008年1月29日	商量制定试点项目工作计划	畜牧科学院	赵德云,李瑞年,张金山,杨奎花,李红波(畜牧科 学院)	5
	2007年度合计				69
14	2008年7月30日	开会谈青贮窖建造计划和项目工作进展情况	畜牧科学院	赵德云(畜牧科学院)	1
15	2008年7月31日	开会谈青贮窖建造计划和项目工作进展情况	昌吉市科技局	张玉宏局长,吴柏林,(市科技局)	2
16	2008年8月6日	开会讨论饲料作物监测方法	阿克旗示范户	吴主任(科技局)哈克(乡)恰那提,巴合提亚尔(监 测员)重点5户	9
17	2008年8月10日	商量对节水灌溉项目给予培训支持	畜牧科学院	艾比布拉教授(新疆农业大学)	1
18	2008年8月12~14日	开会商量监测方法等	杜热乡会议室	县科技局长木黑扎提,夏副局长(县科技局)波拉 提汗(乡监测员)金斯别克,吾木尔别克,努尔兰别 克(恰布拉克村)	6
19	2008年8月15日	在对节水灌溉项目进行培训支持前开会商	新疆农业大学	艾比布拉教授(新疆农业大学)	1

20	2008年12月~15日	富蕴县夏牧场调查及工作讨论	恰布拉村	倪德华(富蕴县)监测员(杜热乡)	2
21	2008年11月6日	关于制定2009年度活动计划和技术转移交换意见	畜牧科学院	赵德云,李瑞年(畜牧科学院)	2
22	2008年11月7日	关于制定2009年度计划和技术转移交换意见	新疆农业大学	艾比布拉教授(新疆农业大学) 史明(畜牧科学院)	2
23	2008年11月11日	关于制定2009年度计划和技术转移交换意见	阿克旗村	哈克(乡干事)叶克生(副村长)沙依拉提(村书记) 阿依肯(乡)巴合提亚尔(村委会)	5
24	2009年5月15日	关于2009年度苜蓿、玉米种植情况的讨论	新疆农业大学	艾比布拉教授(新疆农大)史明(畜牧科学院)	2
	2008年度合计				33
	2年合计				102

d) 培训计划/普及体制完善

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年7月24日	实地调查	富蕴县杜热乡阔克布拉克草场	马合萨提/倪德华(富蕴县)	2
2	2007年7月25日	了解工作情况	富蕴县科技局	马合萨提/倪德华(富蕴县)	2
3	2007年7月26日	了解工作情况	昌吉市科技局	李月珍,杨芳琴,吴柏林,蔡国华(昌吉市)	4
4	2007年8月1日	培训计划小组讨论	自治区项目办公室	简宏凯(畜牧科学院),杨大鹏(科技干部培训中心)	2
5	2007年8月2日	PCM讨论会	自治区项目办公室	同上	2
6	2007年8月6日	PCM讨论会的准备	自治区项目办公室	同上	2
7	2007年8月10日	PCM讨论会的预演	自治区项目办公室	同上	2
8	2007年8月11日	自治区级PCM讨论会运营管理	畜牧科学院会议室	简宏凯,杨奎花(畜牧科学院),张燕,王毅,杨大鹏(科技干部培训中心)	4
10	2007年8月13日	普及情况现状调查	富蕴县政府会议室	马合萨提/倪德华(富蕴县)	2
11	2007年8月16日	实地调查	富蕴县杜热乡沙依肯布拉克草场	同上	2
12	2007年8月17日	县级讨论会	富蕴县科技局	同上	2
13	2007年8月24日	市级讨论会	昌吉市科技局	李月珍,杨芳琴,吴柏林,蔡国华(昌吉市)	4
14	2007年9月7日	培训计划小组讨论	自治区项目办公室	简宏凯(畜牧科学院),杨大鹏(科技干部培训中心)	2
15	2007年9月17日	富蕴县讨论会运营管理	富蕴县职业培训学校会议室	马合萨提/倪德华(富蕴县)等	5
16	2007年9月18日	富蕴县讨论会运营管理	同上	马合萨提/倪德华(富蕴县)等	5
17	2007年9月24日	昌吉市讨论会运营管理	昌吉市科技局	杨芳琴,吴柏林(昌吉市)等	5
18	2007年9月25日	昌吉市讨论会运营管理	昌吉市科技局	杨芳琴,吴柏林(昌吉市)等	5
19	2008年1月8日	阿克旗村牧民培训讨论	昌吉市科技局,阿克旗村办公室	张局长,吴柏林(昌吉市),阿克旗村村干部等	5
20	2008年1月11日	阿克旗村牧民培训运营管理	阿克旗村办公室	张局长,吴柏林(昌吉市),阿克旗村村干部等	5
21	2008年1月12日	阿克旗村牧民培训运营管理	阿克旗村办公室	张局长,吴柏林(昌吉市),阿克旗村村干部等	5
22	2008年1月15日	讨论恰布拉村培训	自治区项目办公室	马合萨提/倪德华(富蕴县)等	3
	2007年度合计				70
23	2008年6月6日	培训计划小组讨论	自治区项目办公室	简宏凯(畜牧科学院)等	2
24	2008年11月6日	培训计划小组讨论	自治区项目办公室	简宏凯(畜牧科学院)等	2
25	2008年11月14日	牧民培训教材情况调查	农业厅	努尔(农业厅)等	2
26	2008年11月18日	讨论恰布拉村培训	富蕴县科技局	夏逢林/倪德华/金斯别克/哈勒克喀什(富蕴县)	3
27	2008年11月19日	恰布拉村培训管理	恰布拉村活动室	夏逢林/倪德华/金斯别克/哈勒克喀什(富蕴县),恰布拉村村干部等	5
28	2008年11月20日	恰布拉村培训管理	恰布拉村活动室	夏逢林/倪德华/金斯别克/哈勒克喀什(富蕴县),恰布拉村村干部等	5
29	2008年12月5日	培训计划小组讨论	自治区项目办公室	简宏凯(畜牧科学院)等	2
	2008年度合计				21
	2年合计				91

e) 水利用计划/水管理

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年8月24日	了解昌吉市水利用状况(与昌吉市C/P一起开会)	昌吉市科技局	郑智(市水利局)	1
2	2007年9月4日	水利用计划小组第一次相关人员会议	畜牧科学院	马来书(畜科院), 努尔(农业厅), 马英杰(农大)	3
3	2007年9月7日	了解昌吉市阿克旗村水利用现状	阿克旗村	马来书(畜科院), 马英杰(农大), 郑智(市水利局), 马青云(庙尔沟乡副乡长)	4
4	2007年9月14日	水利用计划小组第2次相关人员会议	畜牧科学院	马来书(畜科院), 马英杰(农大)	2
5	2007年10月12日~14日	了解富蕴县恰布拉克村水利用现状	恰布拉克村	马来书(畜科院), 马英杰(农大), 刘(县水利局), 乡, 村里水管员	7
6	2007年10月24日	“膜下滴灌”基础知识的实地学习	新疆旱生牧草原种基地	杨刚(新疆旱生牧草原种基地, 畜科院草原研究所副研究员)	1
7	2007年11月1日	开会讨论富蕴县恰布拉克村水利用计划的制作	富蕴县水利局	刘, 万孜拉, 王(县水利局)	3
8	2007年11月8日	该领域工作情况汇报	畜牧科学院	张杨, 马来书, 阳延琴, 马英杰, 赵德云, 简宏凯, 史明, 李红波	8
	2007年度合计				29
9	2008年7月23日	再次确认上一年度的计划, 制定本年度的实施计划以及讨论昌吉市阿克旗村水利用措施的内容	畜牧科学院	马来书(畜科院), 张局长, 吴副局长(昌吉市科技局), 郑智(市水利局), 马青云(庙尔沟乡副乡长), 萨伊来提(阿克旗村书记)	6
10	2008年8月14日	开会商量建立农民用水户协会的指导和培训工作	自治区水利厅	王永增(水利厅)	1
11	2008年8月18日	与水利厅的老师商量关于建立农民用水户协会的指导和培训	自治区水利厅	年自力(水利厅水管总站总经济师)	1
12	2008年8月28日	富蕴县恰布拉克村流量监测方法和土壤盐分浓度测量方法的指导	畜牧科学院	努尔兰(县水利局), 玛利亚(恰布拉克村水管员), 吾木尔别克(恰布拉克村村委会主任), 夏逢林(县科技局)	4
13	2009年2月9日	了解示范村水资源基础设施方面中方资金筹措渠道	自治区水利厅	王永增(水利厅)	1
	2008年度合计				13
	2年合计				42

f) 农户经营/市场调查

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年8月7日	了解农业经营现状和工作方针	畜牧科学院	马来书, 赵德云(畜科院)	2
2	2007年8月10日	开会商量农户经营/市场调查领域的调查项目	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
3	2008年8月15日	了解杜热乡畜产品出货、销售现状	杜热乡畜牧站	李学森, 富蕴县科技局, 杜热乡乡长	3
4	2008年8月16日	了解杜热乡农户经营现状	杜热乡恰布拉克村	李学森, 富蕴县科技局局长, 杜热乡副书记	3
5	2007年8月20日	农户经营询问调查的对象范围, 农户经营调查项目, 市场流通, 加工使用销售计划调查	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
6	2007年8月24日	了解昌吉市阿克旗村农户经营现状	昌吉市科技局 昌吉市阿克旗村	市科技局, 市农经局	3
	2007年度合计				15
7	2008年1月29日	商量农业经营计划(市场流通, 农户经营)内容和如何制定试点项目的实施计划	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
8	2008年2月1日	支持制定农户经营, 市场流通相关工作计划	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
9	2008年12月12日	确认并修改部分畜产品流通计划, 商量关于畜产品的牧民问卷调查	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
10	2009年2月12日	农户经营模式调查	昌吉市阿克旗村	吴柏林, 哈克(昌吉市科技局)	2
11	2009年2月13日	农户经营模式调查结果分析	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
12	2009年2月16日	关于农户经营/流通计划的C/P联合会议	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院), 周国军(昌吉市农业经济管理局)	3
13	2009年2月19日	家庭收支记账培训, 讨论农户经营监测方法	畜牧科学院	杨奎花, 苏尤力(畜科院)	2
	2008年度合计				15
	2年合计				30

资料C 成果一览

分类	目录	语种	编印单位
活动情况	1 天然草地保护利用计划	日、中	
	2 土地利用计划	日、中	
	3 作物栽培生产计划	日、中	
	4 畜牧业养殖生产计划	日、中	
	5 畜产品流通计划	日、中	
	6 水利用计划	日、中	
	7 技术普及体制完善计划	日、中	
培训教材	1 农牧民养殖实用技术手册	哈文	区、市项目办
	2 村级动物防疫员培训手册	哈文	市项目办、市科协
	3 牧民现代放牧手册	哈文	区、市项目办
	4 绵羊育肥技术	汉文	市项目办
	5 奶牛高产高效养殖技术	哈、汉	区、市项目办
	6 户用炉灶使用技术	哈文	区、市项目办
	7 新疆畜牧业	哈文	区项目办
	8 动物防疫防病技术	汉文	区、市项目办
	9 牛育肥技术	汉文	市项目办
	10 奶牛饲养技术	哈文	市项目办
	11 地膜玉米节水栽培	哈文	市项目办
	12 玉米螟防治技术手册	汉文	市项目办
	13 地膜棉高产综合栽培技术规程	哈文	市项目办
	14 牧草病虫害防治手册	哈文	市项目办
	15 农民专业合作社讲座	汉文	市项目办

资料D 项目会议实绩

a) 联合协调委员会

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年6月14日	初始报告的说明	自治区科技厅	科技厅, 畜牧厅, 农业厅, 水利厅, 畜牧科学院, 昌吉市代表, 富蕴县代表等	
2	2008年7月17日	促进对第1年度存在问题的理解, 说明第2年度项目实施计划的主要内容, 交流意见	自治区科技厅	科技厅, 农业厅, 畜牧科学院, 昌吉市代表, 富蕴县代表等	13
	合计				13

b) 项目运营会议、C/P会议

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年6月21日	新疆草地生态保护利用工程中心的职责分工	畜牧科学院	张杨, 马来书, 赵德云, 蔺宏凯, 李红波, 史明, 王江梅等	14
2	2007年6月29日	项目整体计划的初步讨论	畜牧科学院	张杨, 李学森, 马来书, 阳延琴, 李捷, 朱进忠, 李瑞年, 赵德云, 蔺宏凯, 安沙舟, 库尔班, 马英杰, 史明, 王江梅, 昌吉市代表	17
3	2007年7月5日	初始报告的说明, 计划制定小组的组建	畜牧科学院	张杨, 马来书, 阳延琴, 李捷, 李瑞年, 赵德云, 蔺宏凯, 安沙舟, 杨奎花, 史明, 王江梅, 李红波	12
4	2007年7月10日	对已有计划的回顾	畜牧科学院	张杨, 马来书, 赵德云, 蔺宏凯, 李红波, 史明, 王江梅 等	10
5	2007年7月20日	对制定计划形成统一意见	畜牧科学院	张杨, 马来书, 赵德云, 蔺宏凯, 李红波, 史明, 王江梅 等	10
6	2007年7月20日~27日	大概确定当地调查项目	畜牧科学院	各计划制定小组	8
7	2007年7月25日	向县级C/P说明项目工作内容, 交流意见	富蕴县人民政府	县科技局, 县C/P	9
8	2007年7月26日	向市级C/P说明项目工作内容, 交流意见	昌吉市科技局	市科技局, 市C/P	7
9	2007年7月27日	示范区现状调查的实施方法	畜牧科学院	张杨, 马来书, 李瑞年, 赵德云, 朱进忠, 马英杰	6
10	2007年8月17日	各领域的工作计划	富蕴县人民政府	富蕴县C/P	7
11	2007年10月17日	开会商量开发战略	畜牧科学院	马来书, 赵德云, 张清斌, 农业厅, 马清云(庙尔沟乡), 沙(阿克旗村)	6
12	2007年10月26日	C/P整体会议(项目进展报告, 委托调查报告, 示范户选择经过的报告, 项目主页介绍)	畜牧科学院	马来书, 徐胜利, 张燕, 庞惠玲, 库尔班, 吐尔逊, 阿吉古丽, 陈新文, 李天阔, 杨贵新, 昌吉市科技局, 富蕴县科技局, 李红波	15
13	2007年11月15日	开会商量开发战略	富蕴县杜热乡	李瑞年, 马合萨提, 乡长(杜热乡), 书记(恰布拉村)	4
14	2007年12月17日	开会商量计划的制定	畜牧科学院	张杨, 马来书, 朱进忠, 李瑞年, 赵德云, 张清斌, 蔺宏凯, 杨奎花, 阳延琴	9
15	2007年12月17日	项目工作报告会	畜牧科学院	畜牧科学院相关人员	10
16	2008年2月14日	计划制定小组组长会议	畜牧科学院	张杨, 阳延琴, 马来书, 赵德云, 蔺宏凯, 李红波, 史明 等	8
	2007年度合计				152
17	2008年6月6日	第2年度工作内容介绍, 示范户农业经营计划的制定, 监测工作实施体制的确定	畜牧科学院	张杨, 阳延琴, 马来书, 赵德云, 蔺宏凯, 李红波, 史明 等	8
18	2008年7月1日	第2年度项目实施计划主要内容的说明, 试点项目具体内容的说明与商议	畜牧科学院	科技厅, 畜牧科学院, 昌吉市科技局, 富蕴县科技局	13
19	2008年12月22日	技术内容讨论会	畜牧科学院	张杨, 马来书, 赵德云, 李瑞年, 张清斌, 张金山, 杨奎花, 朱进忠, 艾比布拉	9
	2008年度合计				30
	2年合计				182

c) 项目报告会

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2008年2月19日	项目梗概介绍, 第1年度实地活动的总结, 当地委托调查结果的报告, 各项计划的介绍, 赴日研修报告, 第2年度工作计划的说明	明园新時代大酒店	科技厅, 畜牧厅, 农业厅, 水利厅, 畜牧科学院, 新疆农业大学, 新疆科技干部培训中心, 昌吉市相关单位, 富蕴县相关单位等	91
2	2009年2月17日	项目发挥的作用与使命, 第2年度实地活动的总结, 中方配套项目报告, 节水灌溉项目介绍, 赴日研修报告, 第3年度工作计划的说明	明园新時代大酒店	科技厅, 畜牧厅, 水利厅, 畜牧科学院, 新疆农业大学, 新疆科技干部培训中心, 昌吉市相关单位, 富蕴县相关单位等	84
3	2009年2月18日	昌吉市阿克旗村实地考察, 与富蕴县相关人员交流意见	昌吉市阿克旗村	科技厅, 畜牧厅, 水利厅, 畜牧科学院, 新疆农业大学, 昌吉市相关单位, 富蕴县相关单位等	25
	合计				200

d) 其他

No	年月日	内容	地点	对象及所属单位	人数
1	2007年6月7日~12日	对初始报告的事先说明与讨论	自治区科技厅	禹庚, 阳延琴(科技厅), 马来书, 赵德云(畜科院), 朱进忠(农大)	5
2	2007年10月11日	开会商议选择示范户的标准	畜牧科学院	马来书, 赵德云(畜科院)	2

表1 收入变化(昌吉市阿克旗村、富蕴县恰布拉克村)

单位:元/人

年份	2006			2007			2008			2009			2011												
	项目开始前			第1年			第2年			第3年			第5年												
	实绩			实绩			实绩			实绩			计划												
分类	纯收入	收入	支出	纯收入	收入	支出	纯收入	收入	支出	纯收入	收入	支出	纯收入	收入	支出										
		畜牧业	农业		畜牧业	农业		畜牧业	农业		畜牧业	农业		畜牧业	农业										
昌吉市阿克旗村	3263	5248	2510	2738	1985	6084	10429	5054	5375	4345	8099	13674	9175	4499	5575	9262	15010	9015	5995	5748	8268	14289	12318	1971	6021
对比2006					86.5%		98.7%	101.4%	96.3%	118.9%	148.2%	160.6%	265.5%	64.3%	180.9%	183.8%	186.0%	259.2%	119.0%	189.6%	153.4%	172.3%	390.8%	-28.0%	203.3%
对比2007										28.3%	52.2%	43.9%	78.4%	11.5%	32.3%	35.9%	43.9%	78.4%	11.5%	32.3%	37.0%	143.7%	143.7%	-63.3%	38.6%
对比2008										14.4%	14.4%	9.8%	-1.7%	33.3%	3.1%	2.1%	9.8%	-1.7%	33.3%	3.1%	4.5%	34.3%	34.3%	-56.2%	8.0%
富蕴县恰布拉克村	615	1062	359	703	447	2561	3126	1884	1242	565	2841	3501	1995	1506	660	3437	4238	2603	1635	801	3667	7143	5076	2067	3476
对比2006					316.4%		194.4%	424.8%	76.7%	26.4%	362.0%	229.7%	455.7%	114.2%	47.7%	458.9%	299.1%	625.1%	132.6%	79.2%	496.3%	572.6%	1313.9%	194.0%	677.6%
对比2007										10.9%	10.9%	12.0%	5.9%	21.3%	16.8%	34.2%	35.6%	38.2%	31.6%	41.8%	43.2%	128.5%	169.4%	66.4%	515.2%
对比2008										21.0%	21.0%	21.1%	30.5%	8.6%	21.4%	29.1%	21.1%	30.5%	8.6%	21.4%	29.1%	104.0%	154.4%	37.3%	426.7%
平均	1939	3155	1435	1721	1216	4323	6778	3469	3309	2455	5470	8588	5585	3003	3118	6350	9624	5809	3815	3275	5968	10716	8697	2019	4749
对比2006					122.9%		114.8%	141.7%	92.3%	101.9%	182.1%	172.2%	289.2%	74.5%	156.4%	227.5%	205.0%	304.8%	121.7%	169.3%	207.8%	239.7%	506.1%	17.3%	290.5%
对比2007										26.5%	26.5%	26.7%	61.0%	-9.2%	46.9%	46.9%	42.0%	67.5%	15.3%	33.4%	38.1%	58.1%	150.7%	-39.0%	93.4%
对比2008										16.1%	16.1%	12.1%	4.0%	27.0%	5.0%	9.1%	12.1%	4.0%	27.0%	5.0%	24.8%	24.8%	55.7%	-32.8%	52.3%

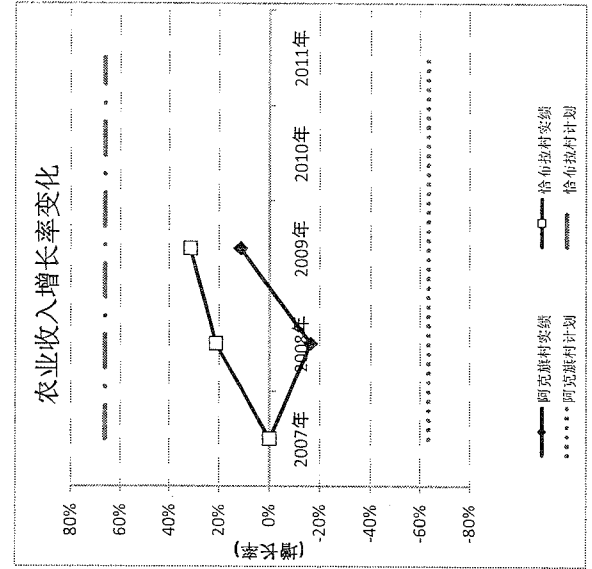
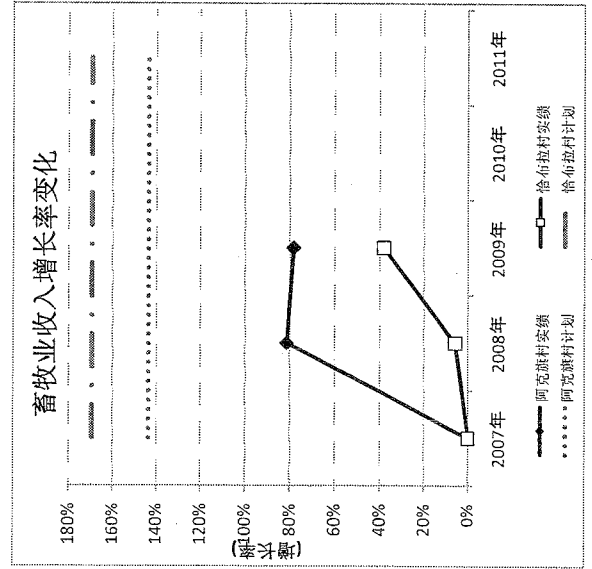
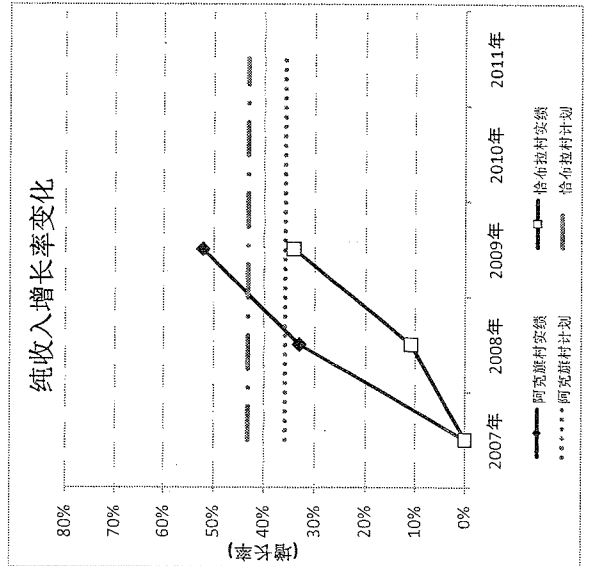




图 1 本项目实施体制

